

姫路市
男女共同参画に関する市民意識調査
調査結果報告書

平成 28 年 11 月

姫 路 市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果のまとめ	3
	【1】男女共同参画の状況について	3
	【2】職業生活について	4
	【3】結婚、家庭生活と男女の役割について	6
	【4】社会参加について	8
	【5】ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	9
	【6】人権について	10
	【7】男女共同参画に関する施策などについて	12
III	調査結果	14
	(1) 回答者属性	14
	(2) 男女共同参画の状況について	19
	(3) 職業生活について	37
	(4) 結婚、家庭生活と男女の役割について	49
	(5) 社会参加について	72
	(6) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	92
	(7) 人権について	98
	(8) 男女共同参画に関する施策などについて	109
資料	調査票	129

I 調査の概要

1 調査の目的

平成 25 年 3 月に策定した「姫路市男女共同参画プラン 2022」の見直し及び「後期実施計画」（平成 30 年度から平成 34 年度までの 5 年間）の策定の基礎資料として、調査を実施するものです。

2 調査対象

姫路市在住の満 20 歳以上の男女 3,000 人を層化無作為抽出

3 調査期間

平成 28 年 2 月 1 日から平成 28 年 2 月 29 日

4 調査方法


- ・郵送による調査票配布
- ・郵送又はインターネットによる回答の回収

5 回収状況

配 布 数	有効回答数	有効回答率
2,996 通	1,096 通	36.6%

※宛所不明が 4 通あったため、配布数からその分を引いています。

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）

[比較分析する調査の概要]

調査主体	調査名	調査時期
国(内閣府)	女性の活躍推進に関する世論調査	平成 26 年8月
国(内閣府)	男女共同参画社会に関する世論調査	平成 24 年 10 月
兵庫県	第 3 回県民モニターアンケート調査 「男女共同参画に関する意識調査について」	平成 26 年9～10 月
姫路市	男女共同参画に関する市民意識調査 (平成 23 年調査)	平成 23 年7月
姫路市	男女共同参画に関する市民意識調査 (平成 17 年調査)	平成 17 年7～8月

II 調査結果のまとめ

【1】男女共同参画の状況について

1 各分野における男女の地位（問1）：19 ページ

「③学校教育の場」では、「平等」の割合が比較的高いものの、すべての分野において、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせたものをいう。以下同じ。）の割合が『女性優遇』（「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせたものをいう。以下同じ。）の割合を上回っており、特に、「⑦社会通念、慣習・しきたり」、「④政治の場」、「⑧社会全体」は『男性優遇』の割合が高くなっています。

平成23年調査と比較して、「⑥法律や制度の上」、「④政治の場」、「⑧社会全体」で『男性優遇』の割合が5ポイント以上高くなっています。

全国調査（男女共同参画社会に関する世論調査）と比較すると、『男性優遇』の割合が「⑤地域活動の場」で10ポイント以上高くなっています。

性別では、すべての分野において、男性に比べ女性で『男性優遇』の割合が5ポイント以上高くなっています。

2 男女不平等が生じる原因（問2）：31 ページ

「男女の役割についての固定観念」の割合が最も高く、次いで「社会の慣習やしきたり」、「男女の生まれつきの身体的・生理的な差」の順となっています。また、「男女の役割についての固定観念」、「職業生活面での有利・不利」、「男性の自覚や理解の不足」、「社会の慣習やしきたり」の割合は、男性に比べ、女性で5ポイント以上高くなっています。

平成23年調査と比較して、「これまでにつくられた男女の能力・適性のちがい」の割合が5ポイント以上低くなっています。

他の性年齢に比べ、女性の30歳代、40歳代で「社会の慣習やしきたり」の割合が高くなっています。また、男性の20歳代、50歳代で「男女の生まれつきの身体的・生理的な差」の割合が高くなっています。

3 男女共同参画を進めていくために重要なこと（問3）：34 ページ

「男女にかかわる、さまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」の割合が最も高く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること」、「女性自身が経済力をつけたり知識・技術を習得したりするなど、積極的に力の向上をはかること」の順となっています。また、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること」の割合は、男性に比べ、女性で9ポイント高くなっています。平成23年調査と比較して、「男女にかかわる、さまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」の割合が5ポイント以上高くなっています。

4 女性の参画が必要な分野・領域（問4）：35 ページ

「地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野」の割合が最も高く、次いで「環境保全に対する女性の高い関心や豊かな知識、経験を生かすことができる環境分野」、「国会・地方議会の議員など政治分野」の順となっています。

「男女共同参画の状況について」 まとめと今後の取組の方向性

○平成 23 年調査と比較して、「家庭生活」、「学校教育の場」を除くすべての分野において、『男性優遇』と感じる割合（以下『男性優遇感』という。）が高くなっています。特に「政治の場」、「法律や制度」で『男性優遇感』が高まっています。また、あらゆる分野で男性に比べ、女性で『男性優遇感』が高くなっており、男女の意識に大きな差が認められます。

そのため、今後も引き続き、男女平等意識のさらなる啓発を進め、固定的な性別役割分担意識の払拭を図る必要があります。啓発活動や教育機会の充実など市民の意識を高めていく取組が必要です。また、子どもの頃から男女平等意識を育み、性別にかかわらず、個性と能力を発揮できるように、家庭・保育所・幼稚園・学校における男女平等教育を今後も充実していくことが重要です。

○女性の参画が必要な分野・領域として、「地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野」が最も高く、次いで「環境保全に対する女性の高い関心や豊かな知識、経験を生かすことができる環境分野」となっており、まちづくりに男女共同参画の視点を活かす仕組みづくりも求められます。そのため、働き盛りの世代や定年を迎えた団塊の世代、家庭で育児に専念する方も含め、多様な年代の女性・男性がまちづくりや地域活動に参画するための支援が必要です。

【2】職業生活について

1 女性のライフスタイルの理想と現実（問5）：37 ページ

平成 17 年調査、平成 23 年調査において、女性のライフスタイルの理想と現実ともに、『再就職型』（「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ」をいう。以下同じ。）の割合が最も高く、次いで『職業継続型』（「ずっと職業を続ける」をいう。以下同じ。）、『出産退職型』（「子どもができるまでは、職業をもつ」をいう。以下同じ。）、『結婚退職型』（「結婚するまでは、職業をもつ」をいう。以下同じ。）、『家事専念型』（「職業をもたない」をいう。以下同じ。）の順となっていました。本調査（以下「平成 28 年調査」という。）では、理想において『職業継続型』の割合が最も高く、次いで『再就職型』と、逆の傾向となりました。しかし、現実においては、平成 17 年調査・平成 23 年調査でも『再就職型』の割合が最も高く、次いで『職業継続型』となっており、『職業継続型』の現実と理想の差が広がる傾向にあります。

女性で理想を『再就職型』としている人で、現実にもそれを実現できた割合は 2 割程度であり、実際には『出産退職型』や『職業継続型』の割合の方が高くなっています。理想を『職業継続型』としている人も、現実にもそれを実現できた割合は 2 割程度となっており、実際には『再就職型』である割合が 5 割近くとなっています。

2 女性が働く上で支障となること（問6）：40 ページ

「家事の負担が大きいこと」の割合が最も高く、次いで「夫・子どもの世話の負担が大きいこと」、「保育体制の不備」の順となっており、平成 23 年調査と比較すると大きな差異は認められません。性別で見ると、「家事の負担が大きいこと」、「高齢者の世話の負担が大きいこと」、「夫・子どもなどの理解や協力がでないこと」の割合は、男性に比べ、女性で5ポイント以上高く、特に「家事の負担が大きいこと」については、女性の30歳代、40歳代、60歳代で6割を超えています。

3 職場の現状（問7）：43 ページ

「特に男女格差はない」の割合が最も高く、「お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い」、「女性は昇進・昇格が遅い、または望めない」の割合も高くなっています。平成 23 年調査と比較して、「特に男女差はない」、「セクシュアル・ハラスメントを経験した、または周りに経験した人がいる」を除くすべてで割合が低くなっています。

「女性は昇進・昇格が遅い、または望めない」の割合は、女性の40歳代、50歳代で3割、「セクシュアル・ハラスメントを経験した、または周りに経験した人がいる」の割合は、女性の20歳代、40歳代で2割を超えています。

4 男女がともに職業人として活躍するために重要なこと（問8）：46 ページ

「仕事に必要な職業能力を身につけること」の割合が最も高く、次いで「能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること」、「結婚、出産などによりいったん退職した人が同じ企業に再び雇用されるようになること」の順となっており、この順は性別でも同じです。平成 23 年調査と比較して、「職業人として自覚をもつこと」、「仕事に必要な職業能力を身につけること」の割合が大きく下がっています。

また、女性では年齢層が低くなるほど「男は仕事、女は家庭」という従来の社会通念が変わること、「男女ともに育児休暇が取りやすくなること」の割合が高くなっています。また、女性の20歳代、30歳代で「結婚、出産などによりいったん退職した人が同じ企業に再び雇用されるようになること」の割合が、女性の40歳代、50歳代、男性の50歳代、60歳代で「仕事に必要な職業能力を身につけること」の割合が4割を超えています。

「職業生活について」 まとめと今後の取組の方向性

○平成 23 年調査と比較して、女性のライフスタイルとして、『職業継続型』を理想とする割合が高まっています。しかし、『職業継続型』、または、『再就職型』を理想としている人でも、それを実現できている人は2割程度と少なく、女性が働く上で支障となることとして、「家事の負担が大きいこと」、「夫・子どもの世話の負担が大きいこと」、「保育体制の不備」が挙げられています。そのため、子育て、仕事と家庭を両立することへの負担感を緩和し、安心して子育てができるよう保育サービスをはじめとする子育て支援サービスの充実や、男性も積極的に子育てに関われるような環境づくりや啓発に努めることが必要です。また、働き続けやすい職場環境の整備や再就職支援などに事業者とともに取り組んでいく必要があります。

○職場の現状では、「女性は昇進・昇格が遅い、または望めない」、「同期に同年齢で入社した男女では賃金、昇給に差がある」の女性の割合が高くなっています。性別に関わらず個人の能力に応じた評価を行い、労働における男女差別がなくなるよう事業者に対して啓発するとともに、子育て中など就業を一時中断している女性の職場復帰、再就職や起業など、個人の意欲と能力が活かされる環境づくりを進め、女性の活躍を推進していくことが重要です。

【3】結婚、家庭生活と男女の役割について

1 結婚、家庭に関する考え（問9）：49 ページ

男女とも年齢層が低くなるほど「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」で「賛成」の割合が高く、一方、年齢層が高くなるほど「④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」で「反対」の割合が高くなっています。また、女性で「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」、「③女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」の『反対派』（「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせたものをいう。以下同じ。）の割合が6割を超えています。

平成23年調査と比較して、『賛成派』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせたものをいう。以下同じ。）の割合が「⑤結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」で高くなっています。また、「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」では、『反対派』の割合が高くなっており、全国調査と比較して、10ポイント以上高くなっています。

2 家庭内の仕事分担の理想と実際との比較（問10・問11）：56 ページ、60 ページ

家庭内の仕事について、理想として「⑤育児・しつけ」、「⑥看護・介護」は、「夫妻とも同じくらい」の割合が高くなっていますが、実際は、家庭内の仕事のすべてで「妻」が担っている割合が高く、この結果は平成23年調査と同様となっています。

3 子育てについて（問12）：64 ページ

「男の子も女の子も本人が望むように教育を受けさせたい」の割合が最も高くなっていますが、性別で見ると、男性に比べ、女性で「男の子も女の子も同じように育てた方がよい」、「男の子も女の子も本人が望むように教育を受けさせたい」の割合が高く、一方、女性に比べ、男性で「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい」の割合が高くなっており、子育てについて男女の意識差が認められます。

4 安心して子どもを産み育てるために必要なこと（問13）：66 ページ

「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」の割合が最も高く、次いで、「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」、「保育サービスの充実」、「出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり」の順となっています。特に、現在子育て中の世代である30歳代では、男女とも「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」、「父親が子育てに十分かかわることができる職場環境の整備」の割合がともに

4割を超えています。

5 望ましい介護方法（問 14）：69 ページ

「配偶者・パートナー」の割合が最も高く、特に男性でその割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性は「ホームヘルパーや公的な介護制度の利用」の割合が高くなっているほか、「病院や老人福祉施設への入所」や「娘」の割合も高くなっています。なお、「ホームヘルパーや公的な介護制度の利用」の割合は、平成 23 年調査よりもさらに高くなっています。

6 高齢者介護が女性の役割となりがちな現状について（問 15）：70 ページ

「男性も女性とともに介護するべきである」の割合が最も高く、次いで「問題があるが、現状ではやむをえない」、「原則として介護は社会が行うべきである」の順となっており、平成 23 年調査と同様の結果となっています。

性別では、男性に比べ、女性で「男性も女性とともに介護するべきである」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「問題があるが、現状ではやむをえない」の割合が高くなっています。また他の性年齢に比べ、女性の 20 歳代、30 歳代、男性の 70 歳代以上で「男性も女性とともに介護するべきである」の割合が 6 割近くになっています。

「結婚、家庭生活と男女の役割について」 まとめと今後の取組の方向性

- 平成 23 年調査と比較すると、結婚・離婚や家庭、子どもを持つことに関して、自由な選択を認める人の割合は増加傾向にあります。今後も、固定的な性別役割分担を反映した社会通念や慣行を見直し、市民一人ひとりが男女共同参画の理解を深め、男女が互いの人権を尊重し、認め合い、高め合うことのできる社会を築いていけるよう広報・啓発活動を進めていくことが必要です。
- 家庭内の仕事の多くを「妻」が担っており、家庭内での女性の負担が大きいという傾向は、平成 23 年調査から変化していません。家庭生活においては、女性の中で『男性優遇感』が高く、性別による固定的な性別役割分担意識が根強く残っていることがうかがわれます。このことから、家事・育児・介護・家庭の仕事等は、家族が共同して行うという意識の啓発に努め、家庭生活における男女共同参画を促進することが必要です。
- 安心して子どもを産み育てるために必要なこととして、「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」のほかに「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」、「保育サービスの充実」、「出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり」が挙げられており、事業者の取り組みや子育て支援、就労支援の充実が望まれています。
- 介護については、男女がともに関わることを理想としながらも、実際は「妻」が担っている割合が高くなっています。そのため、家族介護者のワーク・ライフ・バランスを実現し、家族介護者に過度の負担がかからないような環境を整え、介護者の状況に応じたきめ細やかな支援を行うことが必要です。

【4】社会参加について

1 社会活動への参加状況・参加意向（問16）：72 ページ

「②自治会・PTA・子ども会など地域活動」で「現在参加している」の割合が、「①趣味・学習・スポーツ活動」、「⑤ボランティア活動・福祉活動」で「現在参加していないが、今後参加したい」の割合が、「③リサイクル・消費生活活動」、「④国際交流活動」、「⑥環境保護、まちづくりなどの住民運動や社会活動」、「⑦政治活動や宗教活動」で「参加したくない」の割合が最も高くなっています。

2 社会活動に参加する上で支障となること（問17）：81 ページ

「仕事が忙しい」の割合が最も高く、次いで「健康や体力に自信がない」、「グループの人間関係がわずらわしい」の順となっています。

なお、「グループの人間関係がわずらわしい」の割合は、平成23年調査と比較して高くなっています。

性別でみると、男性に比べ、女性では「家事が忙しい」、「小さい子どもがいる」、「健康や体力に自信がない」の割合が高く、一方、女性に比べ、男性では「仕事が忙しい」の割合が高くなっています。

また、男女ともに20歳代から50歳代までで「仕事が忙しい」の割合が高いほか、20歳代では「活動する仲間や場所が少ない」、「社会活動に関する情報が少ない」の割合も高く、年齢が高くなるほど「健康や体力に自信がない」の割合が高くなっています。

3 地域の現状（問18）：83 ページ

「会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」の割合が最も高く、次いで「特に男女格差はない」、「役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい」の順となっています。なお、「特に男女格差はない」は平成23年調査と同様、2割となっています。

4 男女が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと（問19）：85 ページ

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」の順となっています。

性別でみると、特に女性では「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が最も高くなっており、男性ではすべての年齢層で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が最も高くなっています。また、女性の20歳代、男性の30歳代から50歳代では「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」の割合も高くなっています。

5 防災分野における男女共同参画の推進のために必要なこと（問 20）：90 ページ

「避難所運営に男女双方の視点が反映するよう、男女それぞれの責任者を配置すること」の割合が最も高く、次いで「地域の防災を担う女性リーダーなどの人材を育成すること」、「地域防災計画や避難所運営マニュアルに男女共同参画の視点をより具体的に記述すること」の順となっています。

「社会参加について」 まとめと今後の取組の方向性

- 地域社会において、「会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」など固定的な性別役割分担意識に根ざした慣習がまだ残っている現状がうかがえます。そのため、地域社会での男女平等意識の啓発や、女性の視点や能力を十分反映できるよう、女性が地域活動に参画する機会を増やすことが必要です。
- 社会活動への参加の支障としては女性で「家事が忙しい」、「小さい子どもがいる」、男性で「仕事が忙しい」などの意見が多くなっています。そのため、女性の家事や育児の負担軽減や、男女ともに働き方の見直しとも併せて、多様な年代の女性・男性がもっと地域活動に参画できるよう、家庭と仕事の両立が可能となるような支援を行う必要があります。
- 社会活動への参加意向が強く、今後の地域おこし、まちづくりの担い手として期待できる若年層に対しては、社会活動に関する情報提供を推進するほか、社会活動に積極的に参加できるよう、ライフスタイルに合わせた参加しやすい活動や実施時間帯や場所の工夫、仲間づくりの機会の提供などを行うことが重要です。
- 近年、大規模な自然災害の発生により、災害対策が重要視されており、特に「避難所運営に男女双方の視点の反映」や「地域の防災を担う女性リーダーなどの人材を育成」などが求められています。そのため、男女でニーズの違いがあることや、障がい者や高齢者など災害発生時に困難に直面する人々に配慮する必要があることを認識するとともに、性別や年齢にかかわらず、男女共同参画の視点を組み入れた防災対策に取り組むことが必要です。

【5】ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

1 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の理想と現実（問 21）：92 ページ

「理想」は、男女ともに「仕事」と「家庭生活」をともに優先や「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先の割合が高くなっていますが、「現実」は「仕事」を優先の割合が最も高く、特に男性でその割合が高くなっています。また、これらの割合は平成 23 年調査と同様です。

全国調査（男女共同参画社会に関する世論調査）と比較すると、「理想」では、「仕事を優先」、「家庭生活」を優先の割合が低く、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先の割合が高くなっており、一方、「現実」では、「仕事」を優先の割合が高く、「家庭生活」を優先の割合は低くなっています。

2 ワーク・ライフ・バランスの実現のための工夫（問 22）：96 ページ□

「自分のための時間をとる」の割合が最も高く、次いで「効率よく仕事をする」、「年次有給休暇をしっかりとる」の順となっており、平成 23 年調査と比較して、「残業を減らすようにする」の割合が高くなっています。また、男女ともに年齢層が低くなるにつれて「年次有給休暇をしっかりとる」の割合が高くなる傾向がみられます。

「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について」まとめと今後の取組の方向性

- 職場での長時間労働を避けられない人が多く、仕事と生活の両立が難しくなっています。市民や事業者に働きかけ、ワーク・ライフ・バランスを推進する必要があります。性別に関わらず働きやすい職場づくりを進めるよう働きかけることが必要です。
- 家庭における家事、育児は主に女性が担うことが多く、自分の時間を持てるよう、男性の家事、育児、介護参加を促進するための意識啓発等も進めることが重要です。男性が従来からの仕事中心の生き方を振り返り、育児や介護など家庭内の仕事について責任を分かち合うことができるよう、男性の育児・介護への参加を働きかけ、知識や技術の習得を支援することが必要です。

【6】人権について

1 女性の人権が尊重されていないと感じること（問 23）：98 ページ

「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）」の割合が最も高く、次いで「昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い」、「女性の社会進出のための支援制度の不備」の順となっています。また、男性に比べ、女性では「家庭内での夫婦間の暴力やパートナーからの暴力」、「職場などにおけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」、「売買春、援助交際」、「アダルトビデオ、ポルノ雑誌における女性のヌード写真や映像の商品化など」、「電車内など公共の場における性情報の氾濫」の割合が高く、特に、女性の 20 歳代から 40 歳代までで「職場などにおけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」の割合が高くなっています。

2 メディアにおける性・暴力表現について（問 24）：100 ページ

メディアにおける表現について、6 割が問題があると感じており、特に女性 40 歳代、50 歳代で、問題があると思う割合が 7 割と高くなっています。ただし、全国調査（男女共同参画社会に関する世論調査）と比較すると、問題があると思う割合は 13 ポイント低くなっています。

3 メディアにおける性・暴力表現の問題点（問 24-1）：102 ページ

「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている」の割合が最も高く、次いで「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」、「児童に対する性犯罪を助長する」の順となっています。また、男女ともに 20 歳代で「女性に対する暴力を助長する」の割合が 2 割を超えています。

4 男女が心身ともに健康であるために必要なこと（問 25）：104 ページ

「性について正しい知識を持ち、判断する力をつけること」の割合が最も高く、次いで「思春期、青年期、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進」、「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施」の順となっています。

女性では、特に 20 歳代で「妊娠・出産・避妊・中絶に関する情報の提供」の割合が高くなっています。また、「性について正しい知識を持ち、判断する力をつけること」の割合は、女性の 20 歳代、男性の 40 歳代で、「あらゆる機会における健康診断等の促進」の割合は、女性の 20 歳代、30 歳代、男性の 20 歳代で高くなっています。

5 ドメスティック・バイオレンスの経験（問 26）：106 ページ

「自分が直接経験したことがある」の割合は約 4%、「自分のまわりに経験した（している）人がいる」の割合が約 10%となっています。

平成 23 年調査と比較して、「一般的な知識として知っている」の割合が高くなっています。

男性に比べ、女性で「自分が直接経験したことがある」の割合が高く、特に女性の 20 歳代、40 歳代で 1 割となっています。また、「自分のまわりに経験した（している）人がいる」の割合は、女性の 30 歳代で 2 割となっています。

6 ドメスティック・バイオレンスの相談先（問 26-1）：108 ページ

相談先としては「友人や知人に相談した」、「家族や親戚に相談した」の順に多く、ともに 3 割を超えています。一方、「どこ（だれ）にも相談しなかった」も 3 割弱あります。

「人権について」 まとめと今後の取組の方向性
○さまざまな分野で男女の固定的な役割分担意識が根強く残っている現状があるため、男女平等意識のさらなる啓発を進め、固定的な性別役割分担意識の払拭を図る必要があります。
○メディアにおける性・暴力表現について 6 割が問題があると感じていますが、全国と比べるとその割合は低くなっています。一部のメディアにおいては、女性の性的側面のみを強調したり、女性に対する暴力を無批判に取り扱った情報も少なくないなかで、さまざまなメディアからの情報を読み解き活用する能力（メディア・リテラシー）の向上を図るための啓発、学習機会の充実が必要です。
○性についてはさまざまな情報が氾濫し、誰もが正しい知識を身につけているとは必ずしも言えない状況である中で、男女ともに、特に若い世代において、妊娠・出産など性に対する正しい知識をもち、自己決定できるよう適切な情報提供や相談体制などの健康づくりの支援を充実していくことが求められています。
○ドメスティック・バイオレンスを経験あるいは見聞きしても相談しなかった割合が 3 割弱もあり、ドメスティック・バイオレンスを未然に防ぎ被害を潜在化させないために、相談機関の周知や情報提供の充実を図るとともに、関係機関が連携し、安心して相談できる体制づくりを進める必要があります。

【7】男女共同参画に関する施策などについて

1 男女共同参画関連事項の認知度（問 27）：109 ページ

「内容まで知っている」の割合が最も高いのは、「③男女雇用機会均等法」で、このほか「内容まで知っている」と「見聞きしたことはある」を合わせた割合は、「⑤育児・介護休業法」、「⑥配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」で高い一方で、「⑩リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康／権利）」、「⑧ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」、「⑫メディア・リテラシー（メディアからの情報を読み解く能力）」で低くなっています。

平成 23 年調査と比較して、「⑦デートDV（恋人同士など結婚していない男女間での体、言葉、態度による暴力）」、「⑨ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）」、「⑪ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」で「内容まで知っている」と「見聞きしたことはある」を合わせた割合が高くなっています。

2 「あいめっせ」認知度（問 28）：125 ページ

「センターの事業内容は知らないし、利用したこともない」の割合が 75.4%と、最も高くなっています。平成 23 年調査と比較しても大きな差異は認められません。

3 男女共同参画社会形成のために市が力を入れるべきこと（問 29）：127 ページ

「高齢者や障害者に対する介護サービスを充実させ介護の社会化をはかるとともに、男女がともに介護にかかわるための基盤づくりをすすめる」の割合が最も高く、次いで「労働の場における男女平等の徹底と、男女ともに家庭と仕事を両立できるような労働環境の整備を行う」、「男女がともに子育てにかかわるための取組や、地域ぐるみで子育てを支援する施策を充実させる」の順となっています。

平成 23 年調査と比較して、「女性の人権尊重のためあらゆる分野で性差別の解消をめざし、啓発活動を充実させる」、「男女がともに子育てにかかわるための取組や、地域ぐるみで子育てを支援する施策を充実させる」の割合が低くなっています。

性別で見ると、男性に比べて、女性で「労働の場における男女平等の徹底と、男女ともに家庭と仕事を両立できるような労働環境の整備を行う」、「女性の就労の機会が増えるよう、職業訓練や職業教育を充実させるなど環境の整備をはかる」、「高齢者や障害者に対する介護サービスを充実させ介護の社会化をはかるとともに、男女がともに介護にかかわるための基盤づくりをすすめる」の割合が高くなっています。

「男女共同参画に関する施策などについて」 まとめと今後の取組の方向性

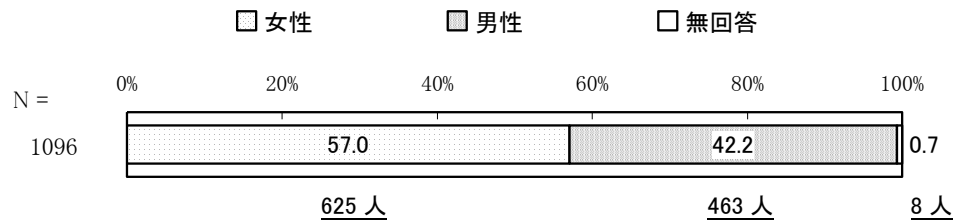
- 男女共同参画関連事項の認知度をみると、内容まで知っている割合は1割に満たない事項も多く、男女共同参画に関する市民の理解と知識をより深めるため、広報誌などの市の刊行物や市のホームページなどとともに、さまざまなメディアを媒体として、人権や男女平等・共同参画に配慮した広報活動を率先して行っていくことが重要です。また、男女共同参画推進の中核となるべき男女共同参画推進センター「あいめっせ」の認知度は特に若年層で低く、より一層の周知が必要です。
- 男女共同参画は市民生活のあらゆる分野にかかわっており、特に子育てや介護の支援や、ワーク・ライフ・バランスの推進が求められています。男女共同参画の推進のため、市民・地域・事業所の理解と協力のもとに、より一層の施策の展開が必要です。

Ⅲ 調査結果

(1) 回答者属性

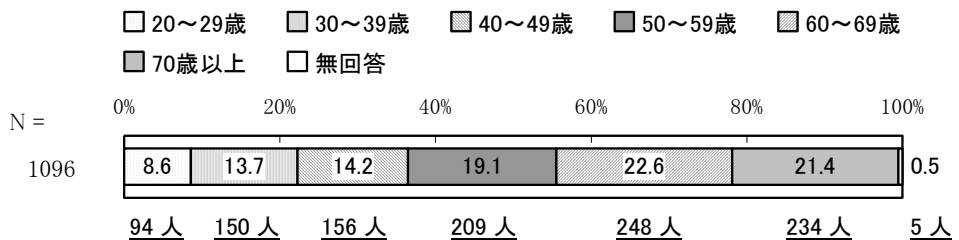
F 1 あなたの性別はどちらですか。
あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

「女性」の割合が57.0%、「男性」の割合が42.2%となっています。



F 2 あなたの年齢はおいくつですか（平成28年1月1日現在）。
あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

「60～69歳」の割合が22.6%と最も高く、次いで「70歳以上」の割合が21.4%、「50～59歳」の割合が19.1%となっています。



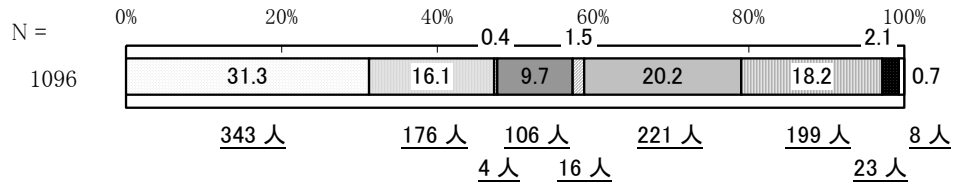
【性別】



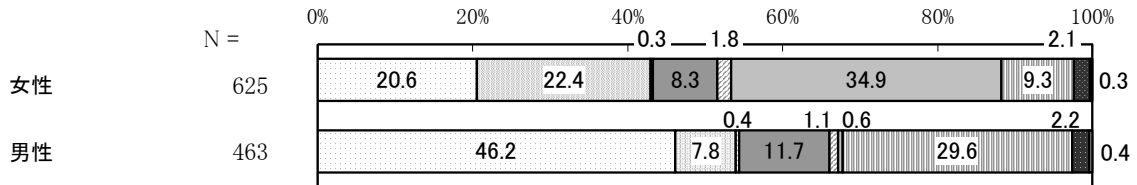
**F 3 あなたの職業は次のどれにあたりますか。
あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。**

「勤め人(常勤)」の割合が31.3%と最も高く、次いで「専業主婦・専業主夫」の割合が20.2%、「無職(5及び6を除く)」の割合が18.2%となっています。

- 勤め人(常勤)
- 勤め人(非常勤、パートタイム、アルバイトなど)
- 農林水産業(家族従事者を含む)
- (3以外の)その他自営業(事業の経営者、家業の手伝い、内職など)
- 学生
- 専業主婦・専業主夫
- 無職(5及び6を除く)
- その他
- 無回答

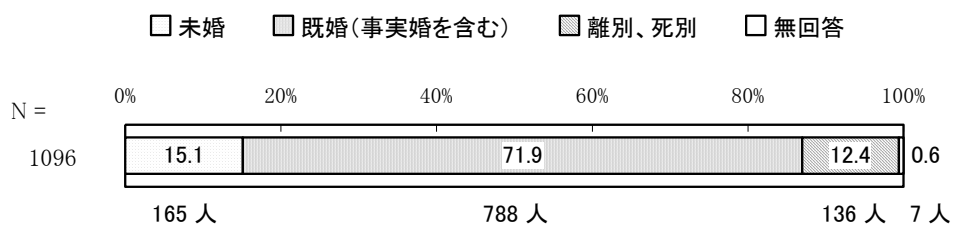


【性別】

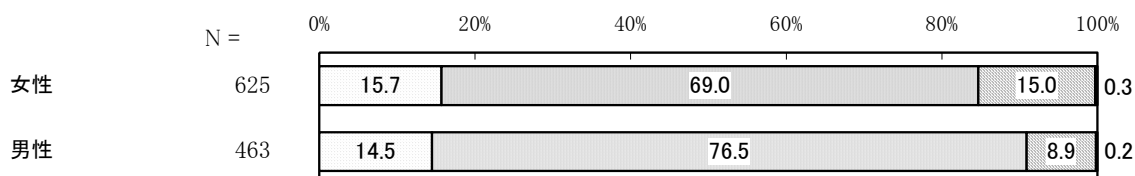


F 4 あなたは結婚されていますか。
あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

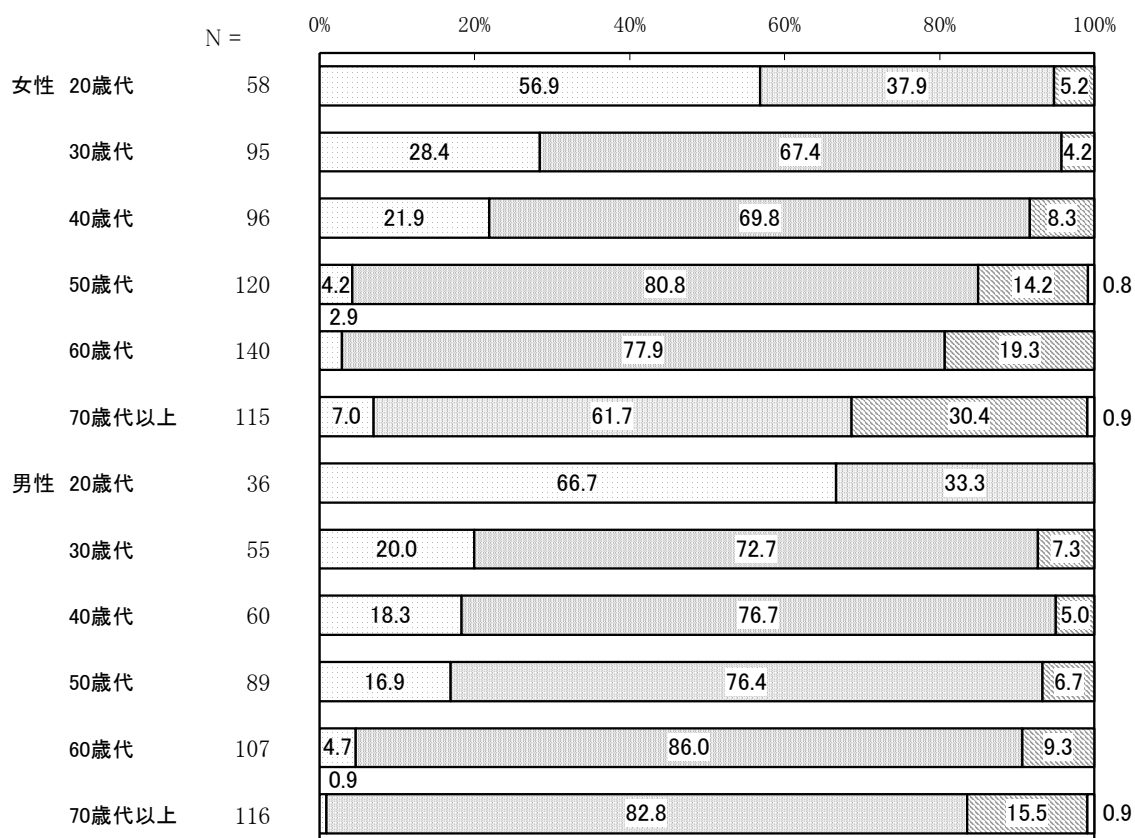
「既婚（事実婚を含む）」の割合が 71.9%と最も高く、次いで「未婚」の割合が 15.1%、「離別、死別」の割合が 12.4%となっています。



【性別】

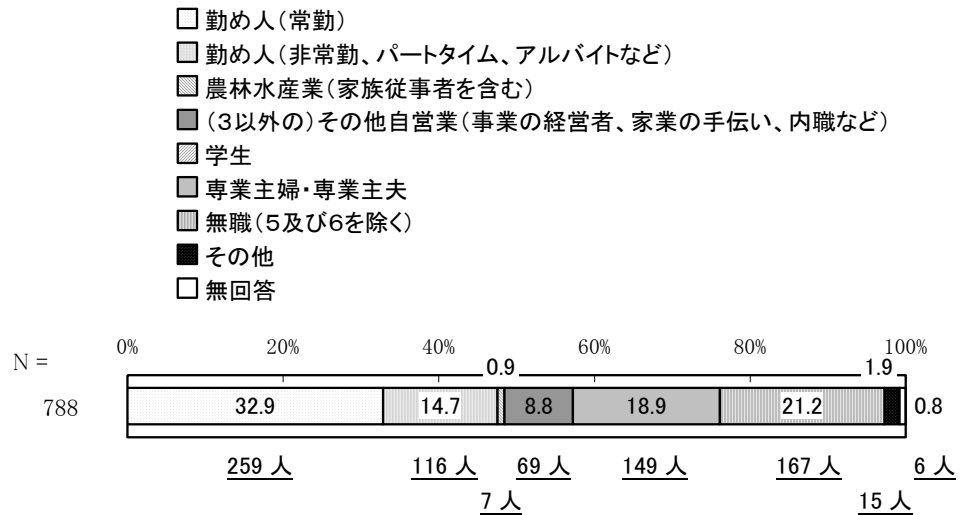


【性年齢別】

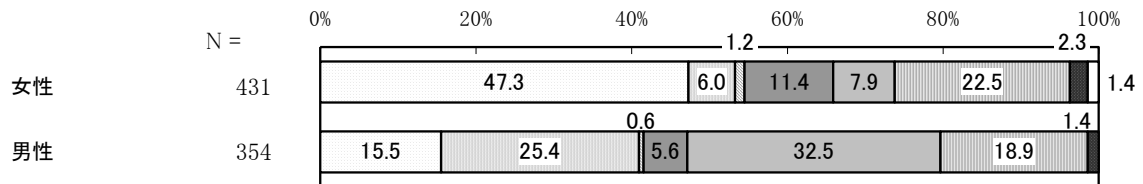


F4-1 この設問は、F4で「2. 既婚（事実婚を含む）」と回答した方にのみおたずねします。あなたの配偶者・パートナーの就労状況はどれですか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

「勤め人（常勤）」の割合が32.9%と最も高く、次いで「無職（5及び6を除く）」の割合が21.2%、「専業主婦・専業主夫」の割合が18.9%となっています。

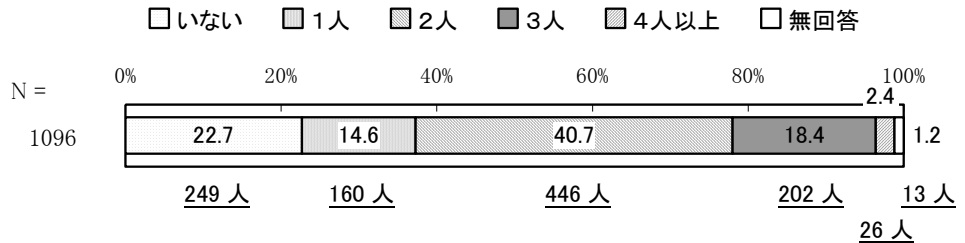


【性別】

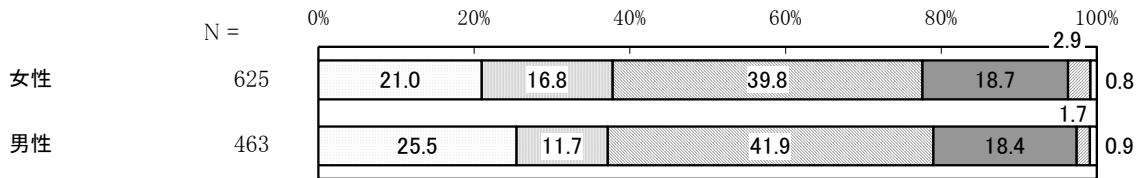


**F 5 あなたはお子さんがいらっしゃいますか。
あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。**

「2人」の割合が40.7%と最も高く、次いで「いない」の割合が22.7%、「3人」の割合が18.4%となっています。

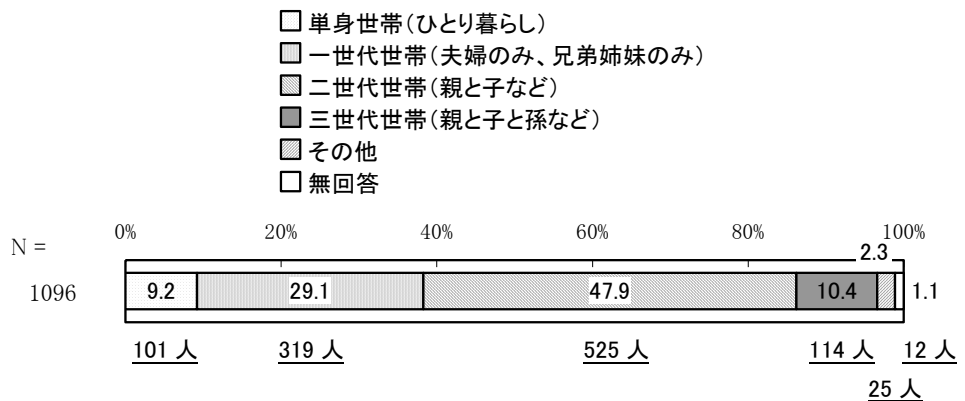


【性別】

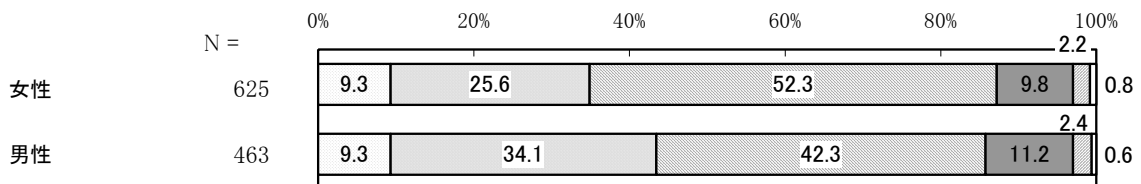


**F 6 あなたの世帯状況はどれですか。
あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。**

「二世世代世帯（親と子など）」の割合が47.9%と最も高く、次いで「一世世代世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ）」の割合が29.1%、「三世世代世帯（親と子と孫など）」の割合が10.4%となっています。



【性別】



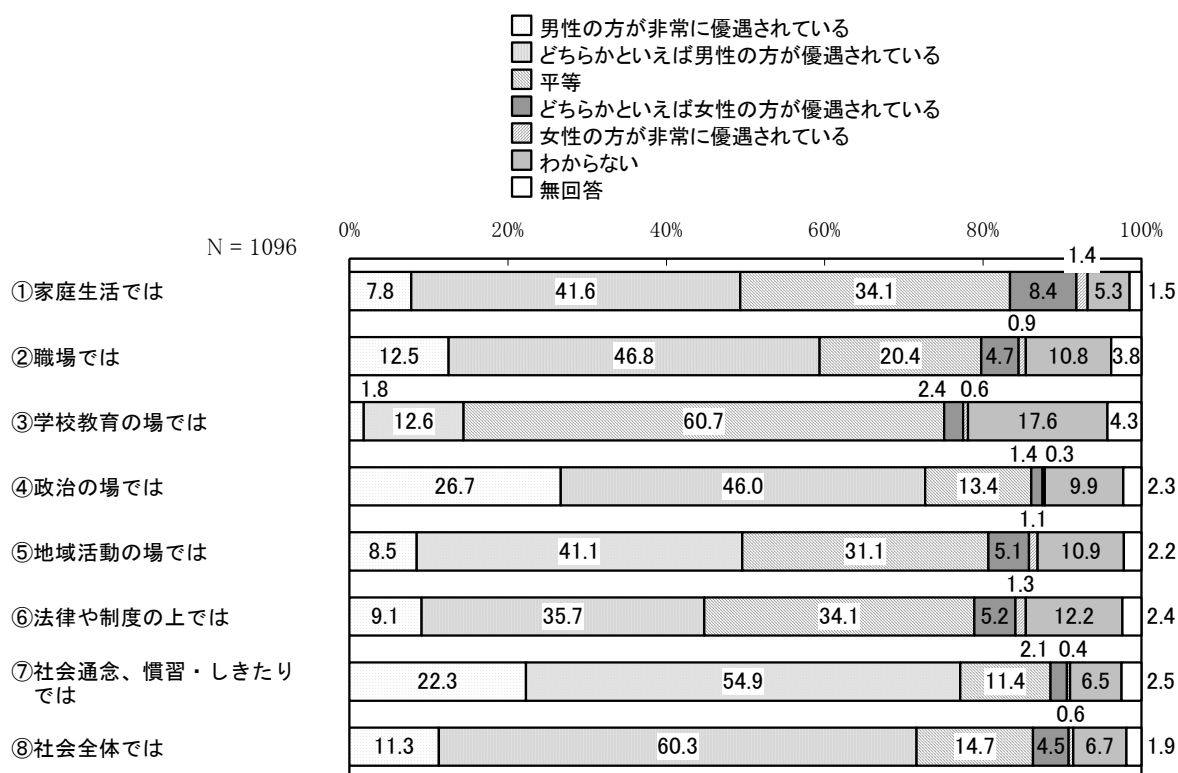
(2) 男女共同参画の状況について

問1 あなたは、今の社会において、次の各分野で男女の地位はどのようになっていると思いますか。①から⑧のそれぞれについて（ア）～（カ）の中からあなたの気持ちに最も近いものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

『男性優遇』の割合が「⑦社会通念、慣習・しきたり」で最も高く、次いで「④政治の場」、「⑧社会全体」となっています。また、平等の割合が「③学校教育の場」で最も高くなっています。

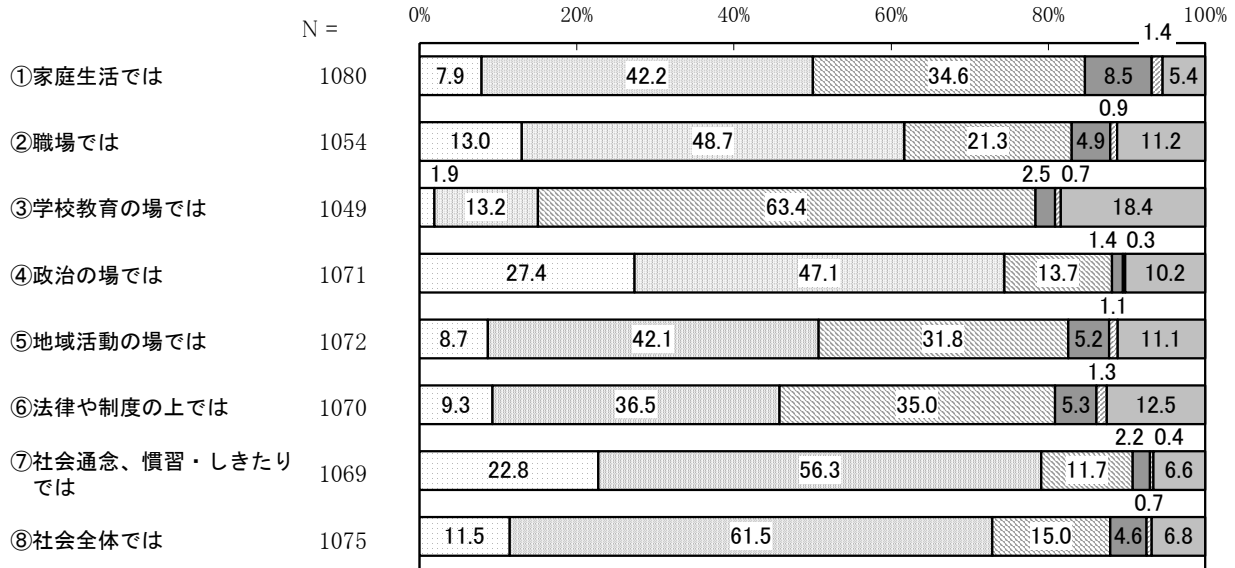
平成23年調査と比較すると、「④政治の場」、「⑥法律や制度の上」、「⑧社会全体」で『男性優遇』の割合が高くなっています。

平成17年調査と比較すると、「①家庭生活」で「平等」の割合が高くなっています。



※全国調査、兵庫県調査と比較するため無回答を除いています。

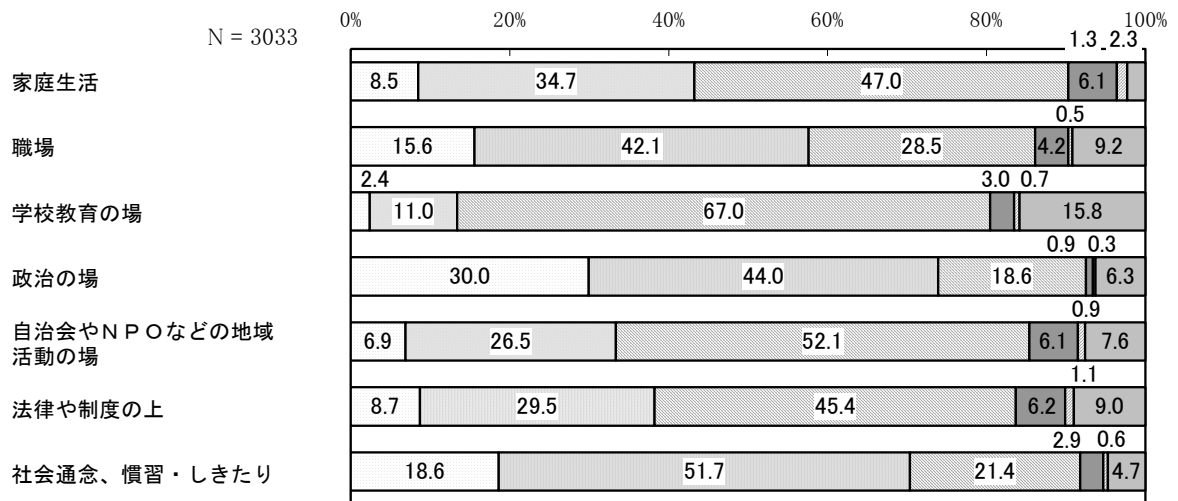
- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない



【全国調査】（男女共同参画社会に関する世論調査）

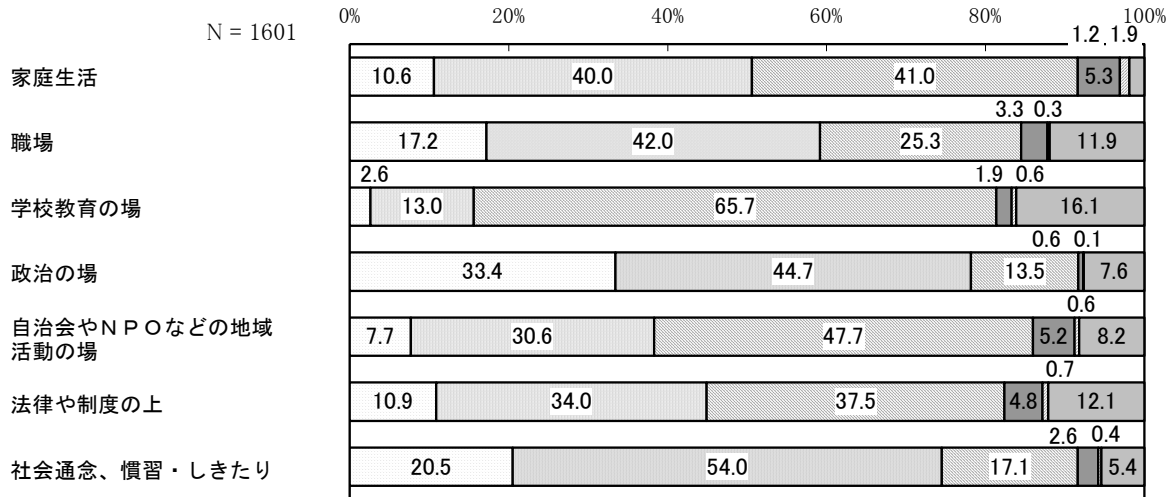
全国調査と比較すると、「①家庭生活」、「⑤法律や制度の上」、「⑥社会通念、慣習・しきたり」、「⑦自治会やNPOなどの地域活動の場」で『男性優遇』の割合が高くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない

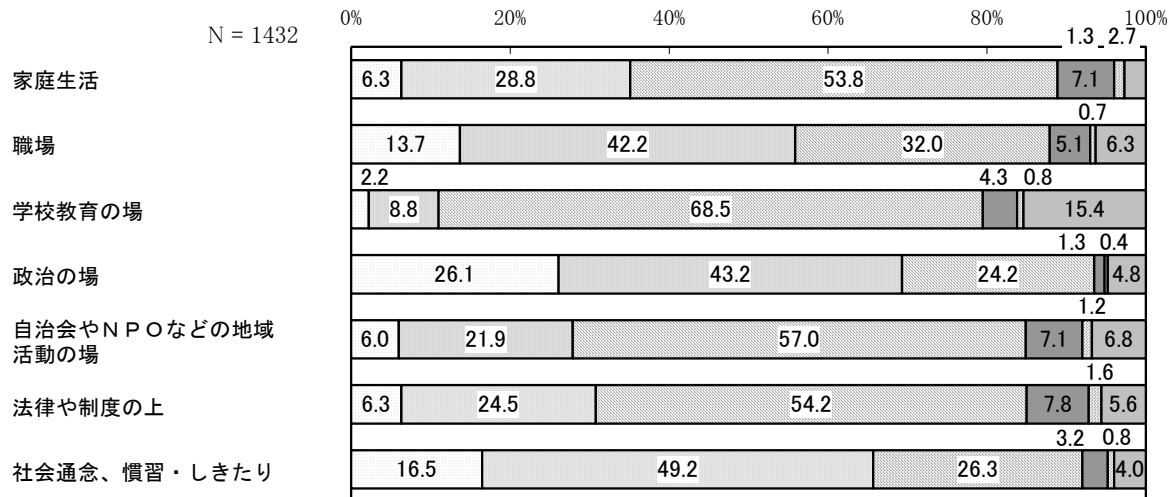


【女性（全国）】

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない

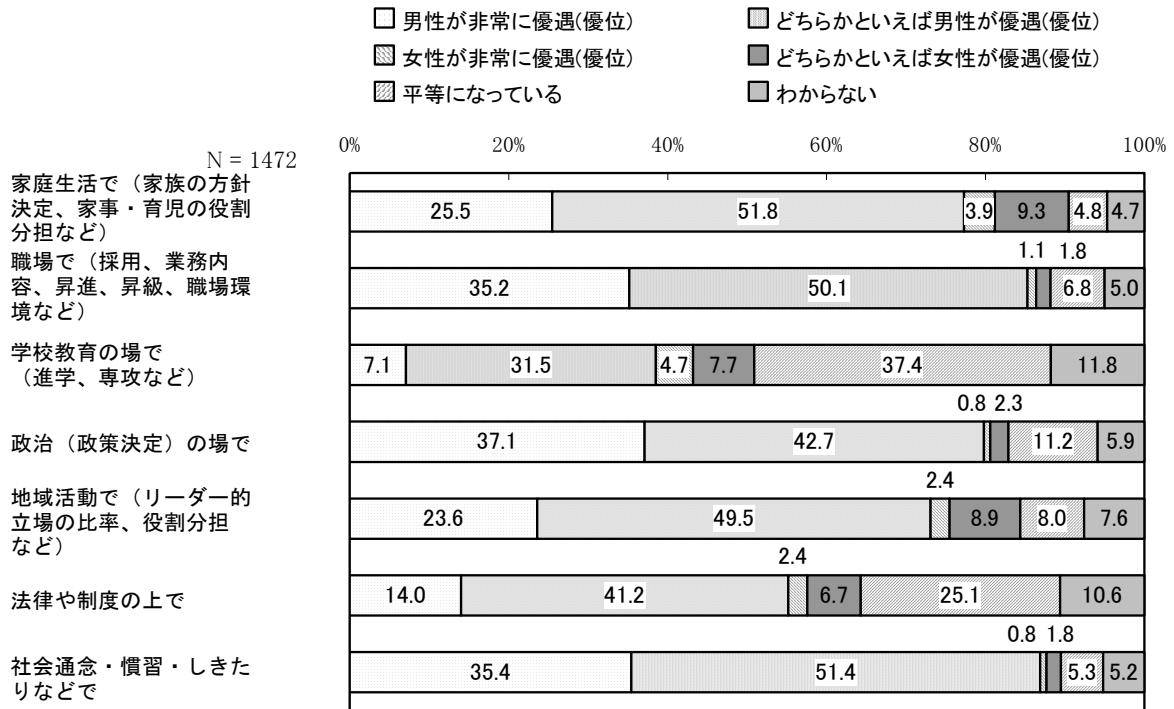


【男性（全国）】



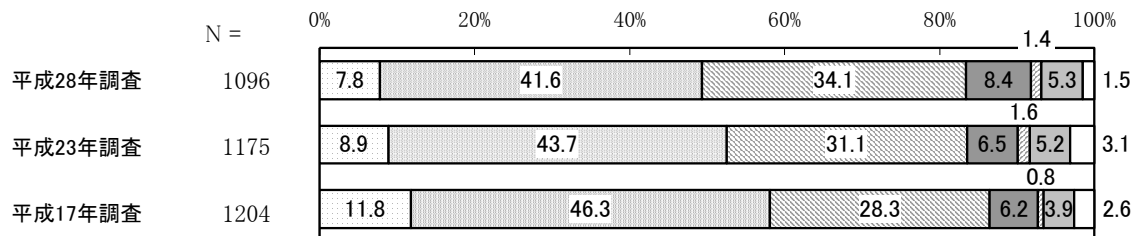
【兵庫県調査】

兵庫県調査と比較すると、『男性優遇』の割合が全ての項目で低くなっています。

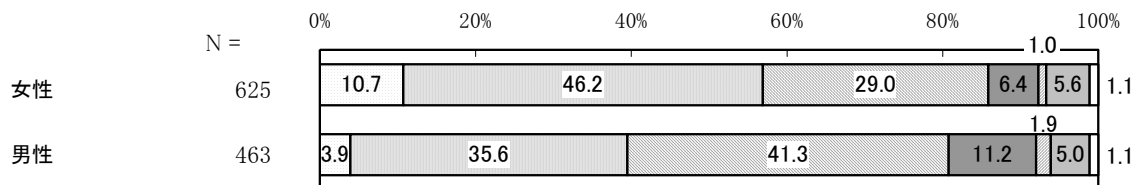


①家庭生活では

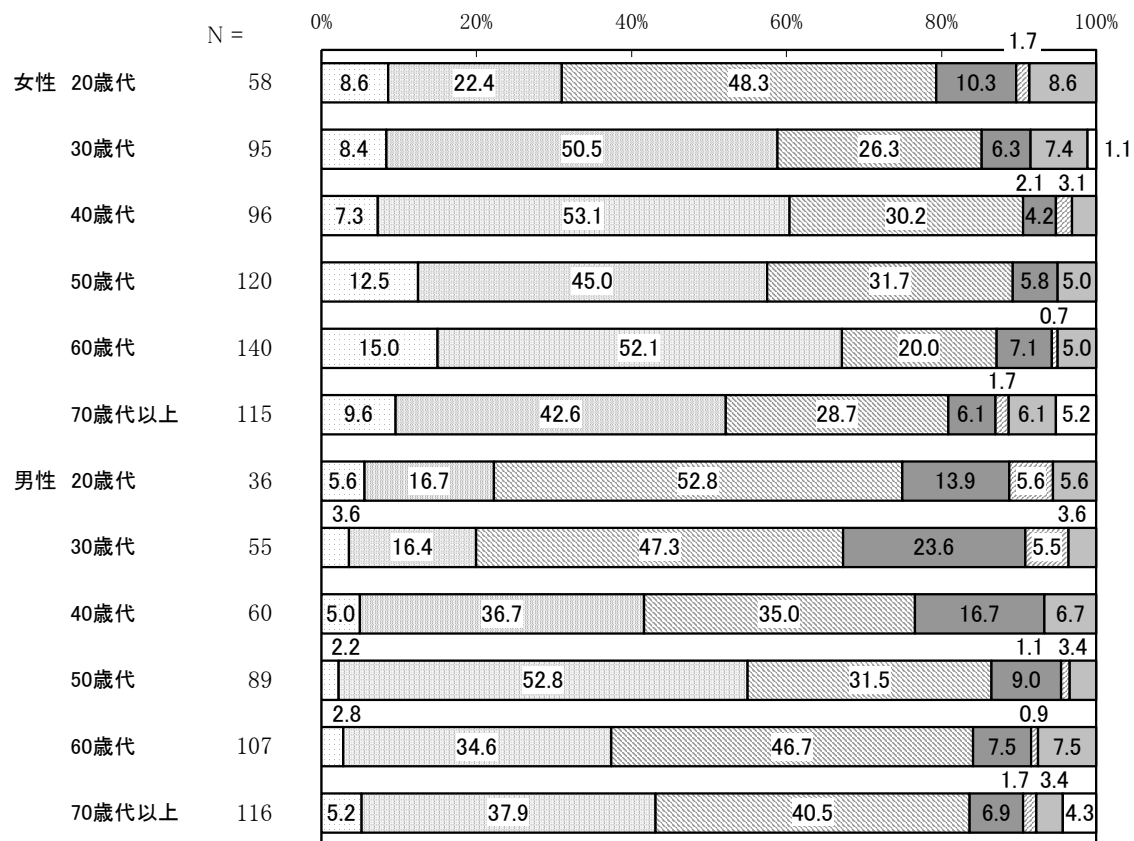
- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【性別】

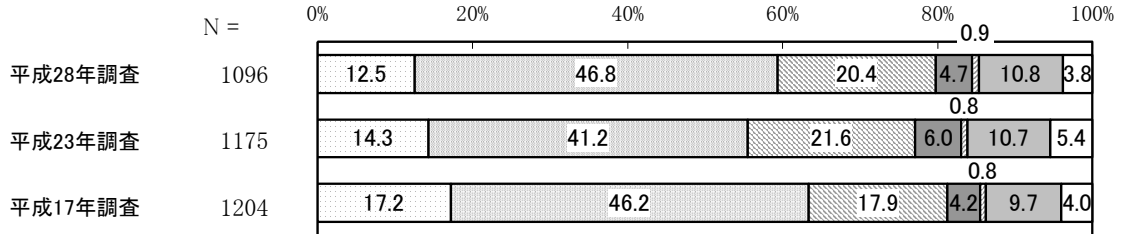


【性年齢別】

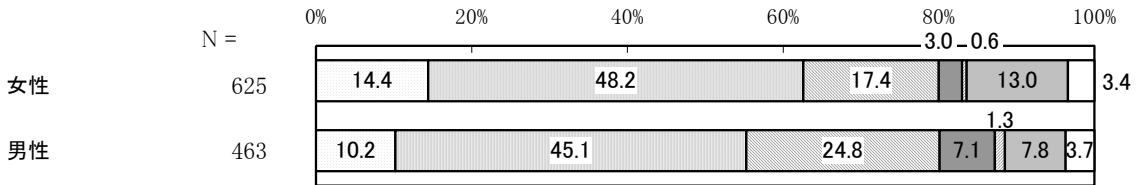


②職場では

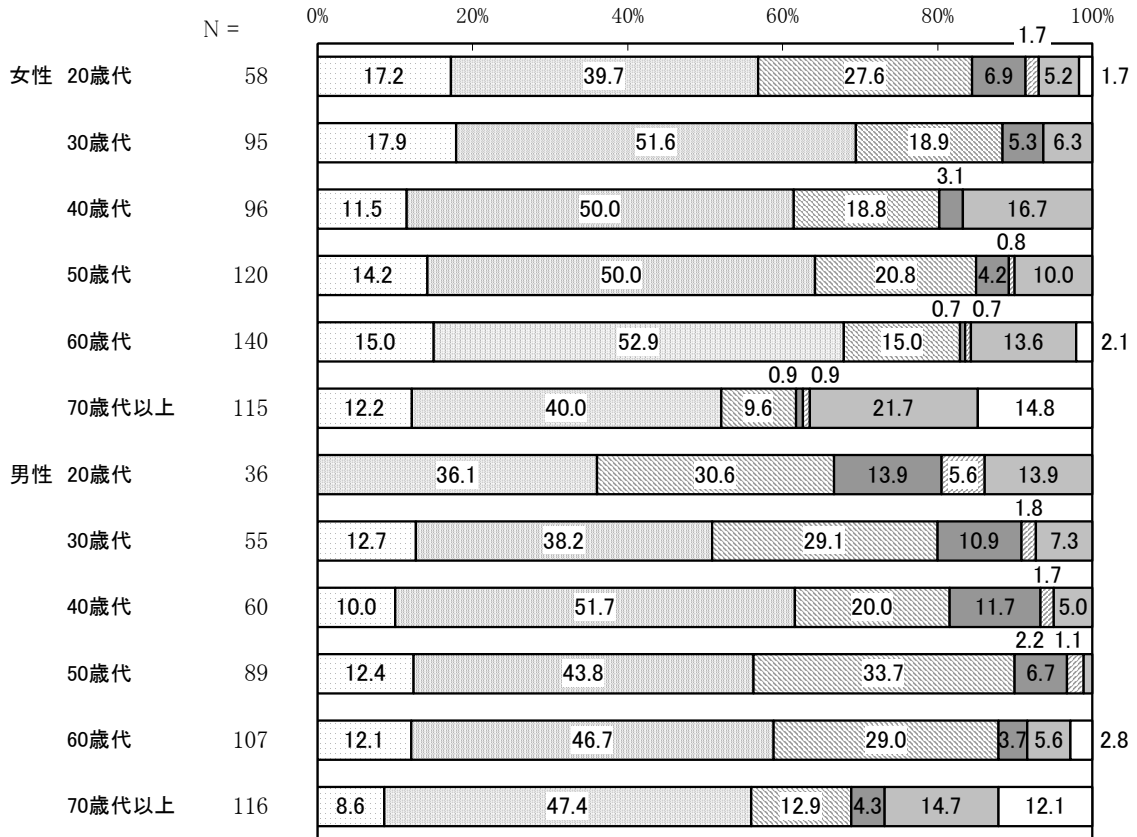
- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等
- ▧ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▦ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【性別】

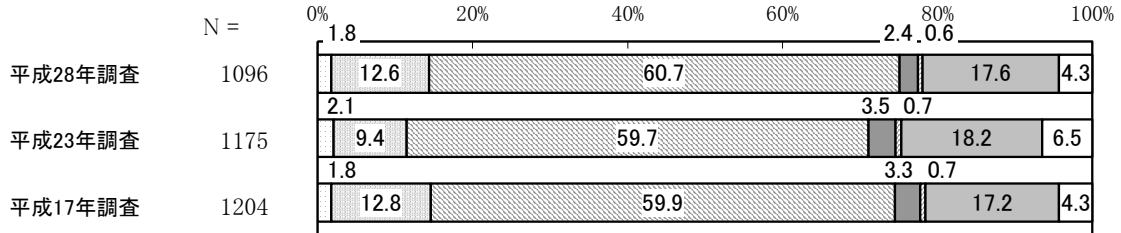


【性年齢別】

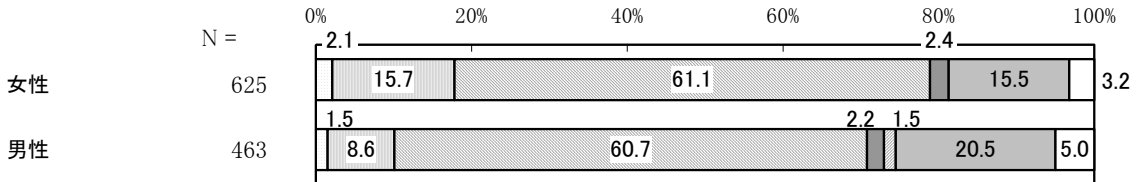


③学校教育の場では

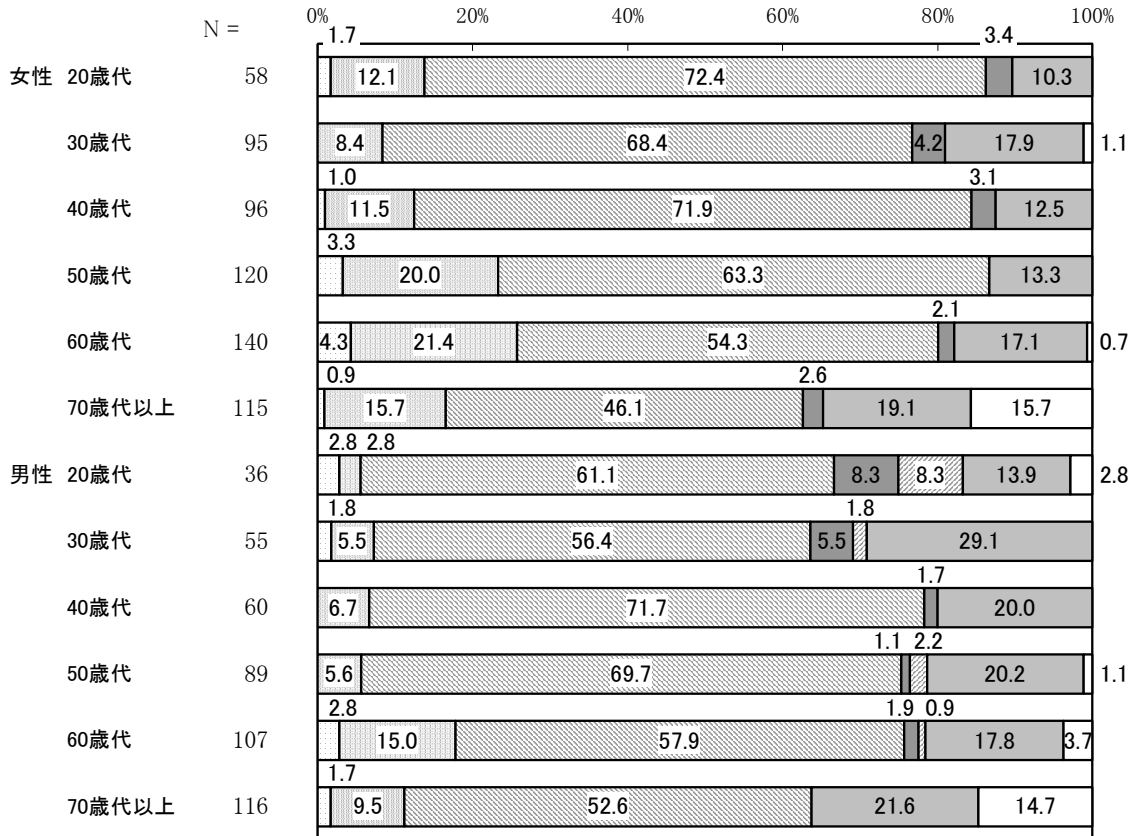
- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【性別】

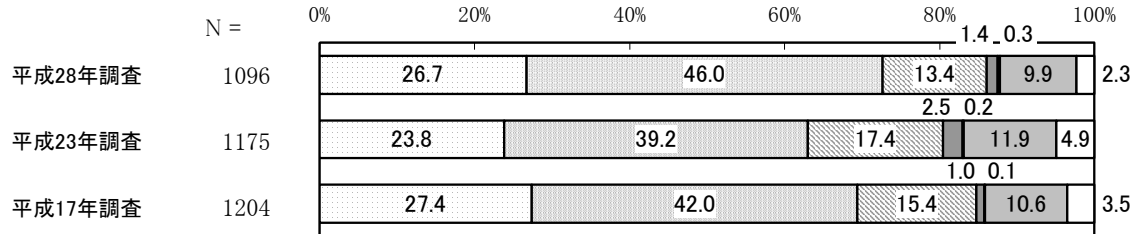


【性年齢別】

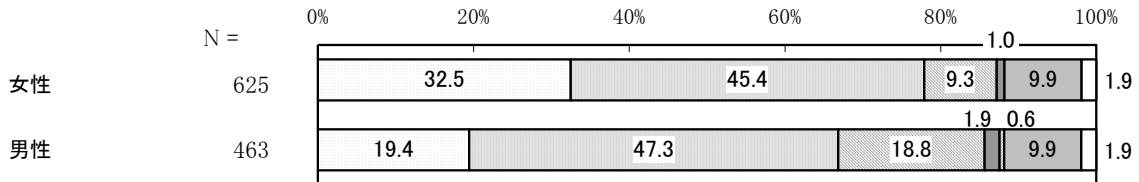


④政治の場では

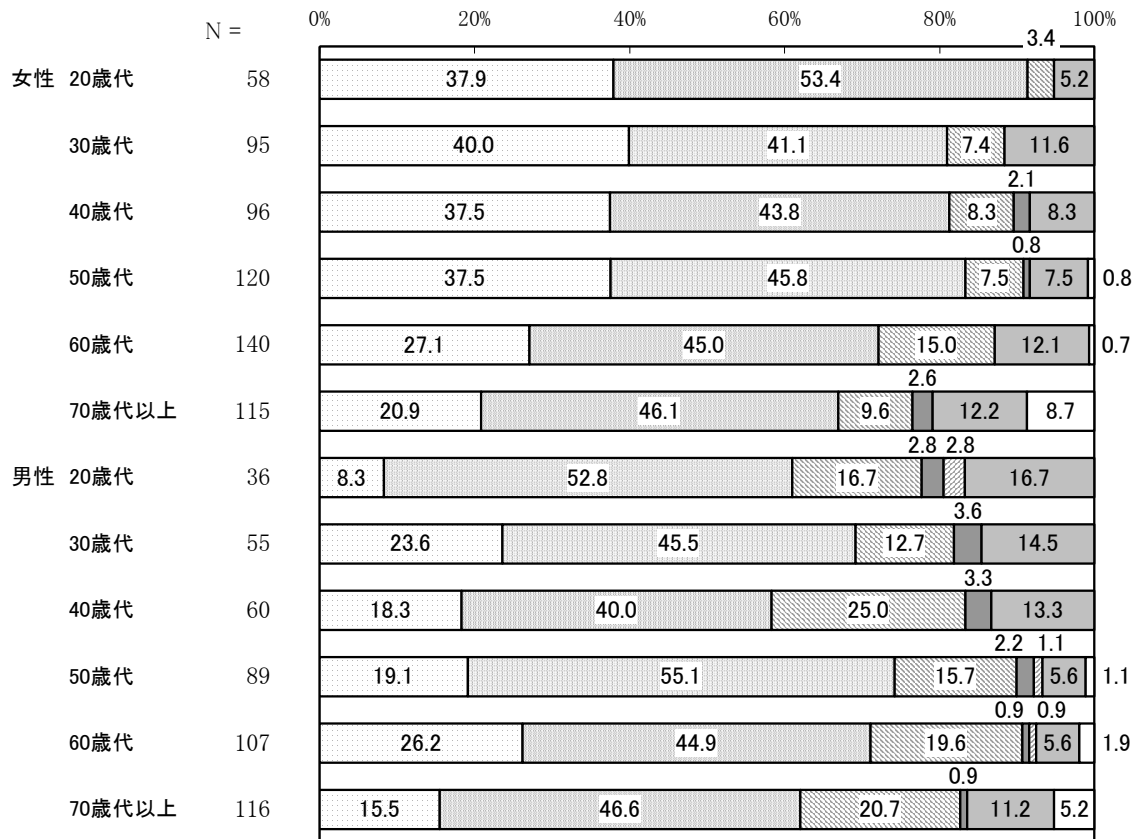
- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等
- ▧ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▦ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【性別】

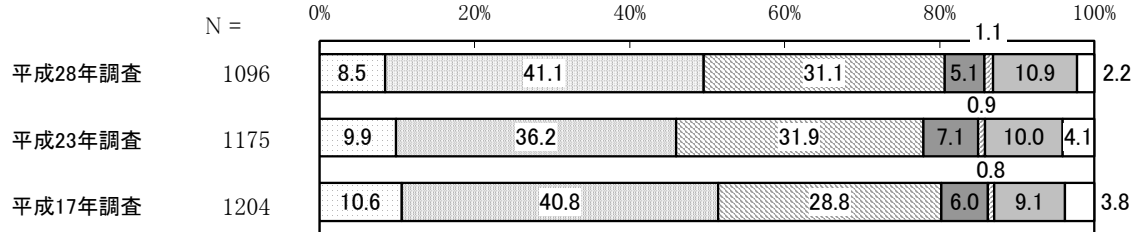


【性年齢別】

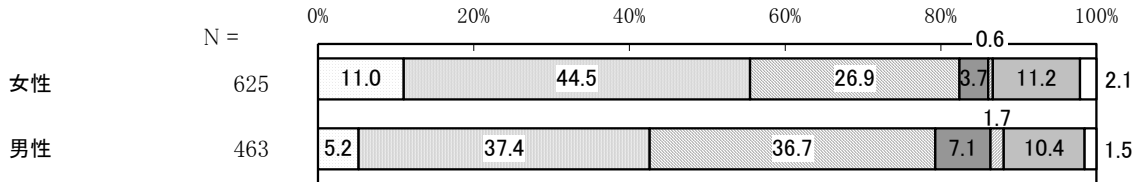


⑤地域活動の場では

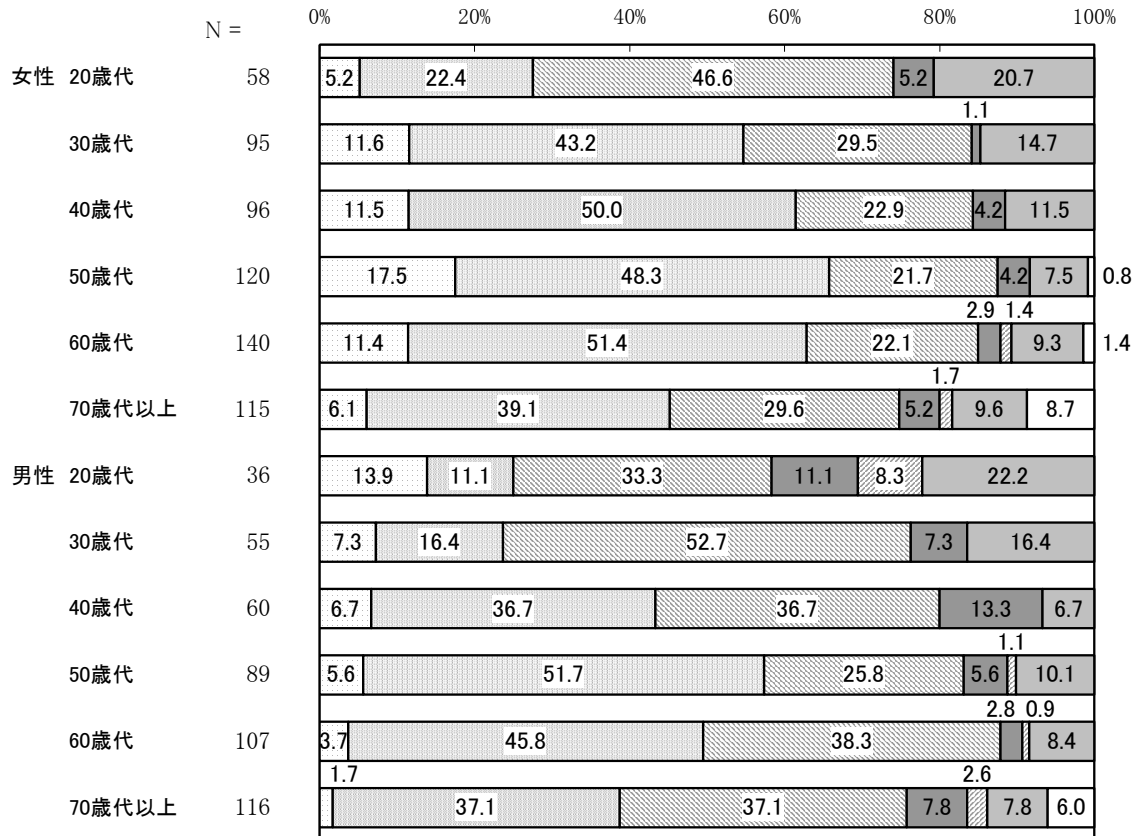
- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▧ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【性別】

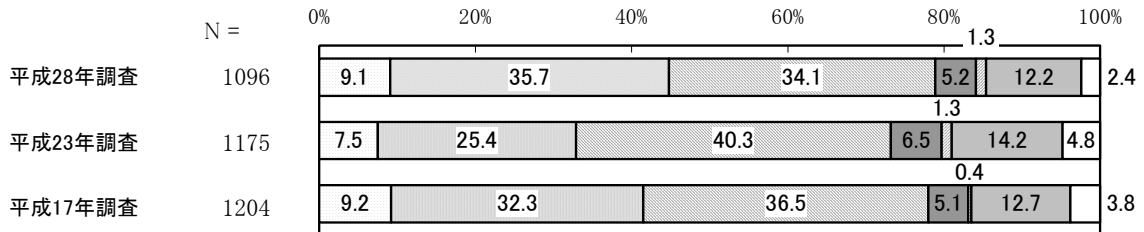


【性年齢別】

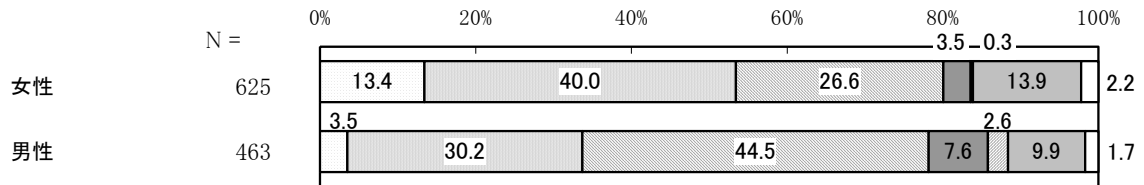


⑥法律や制度の上では

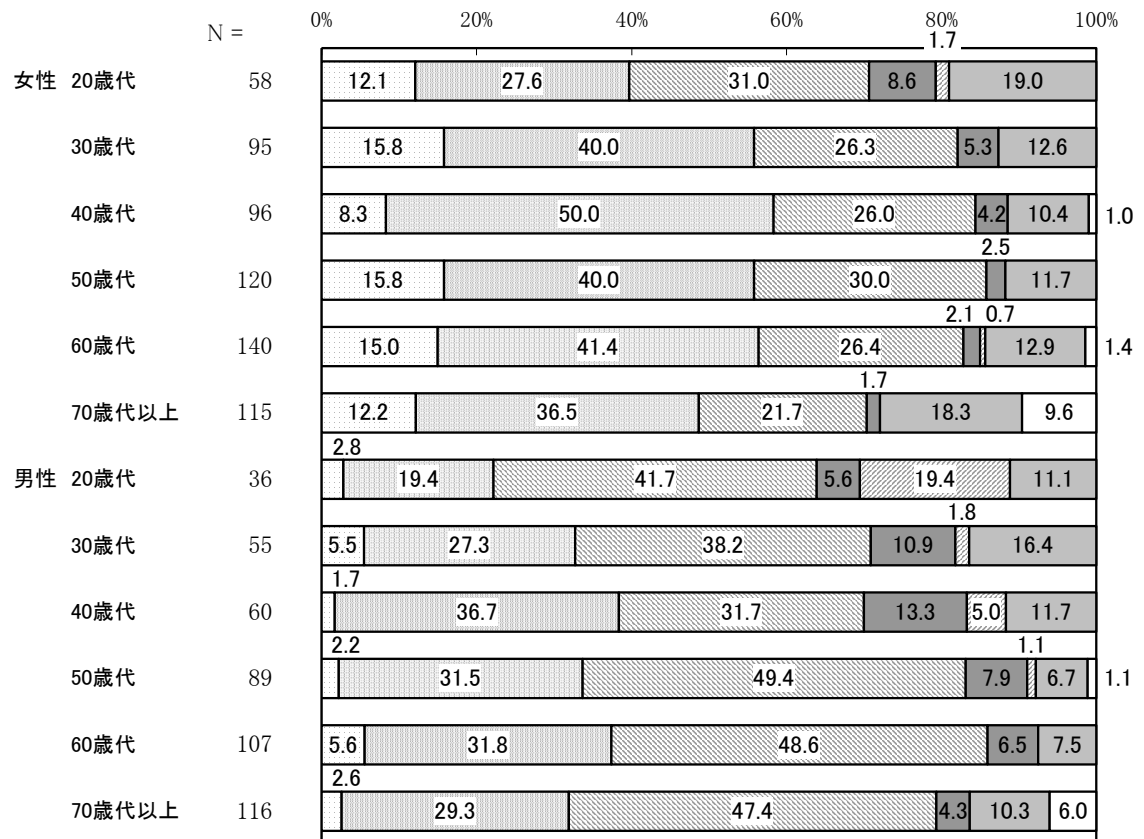
- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- ▩ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▧ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【性別】

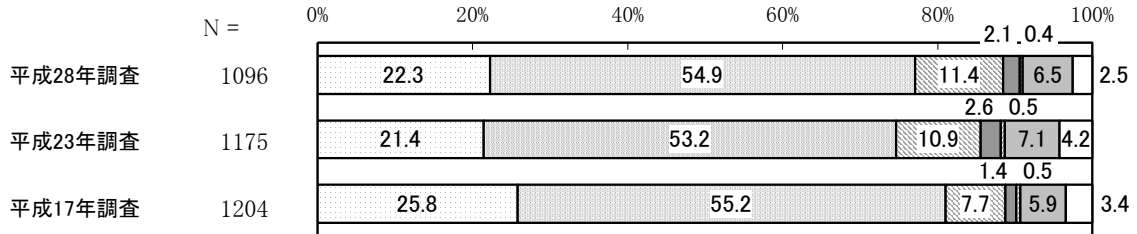


【性年齢別】

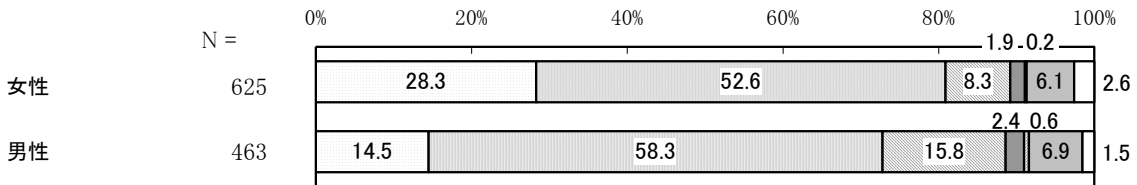


⑦社会通念、慣習・しきたりでは

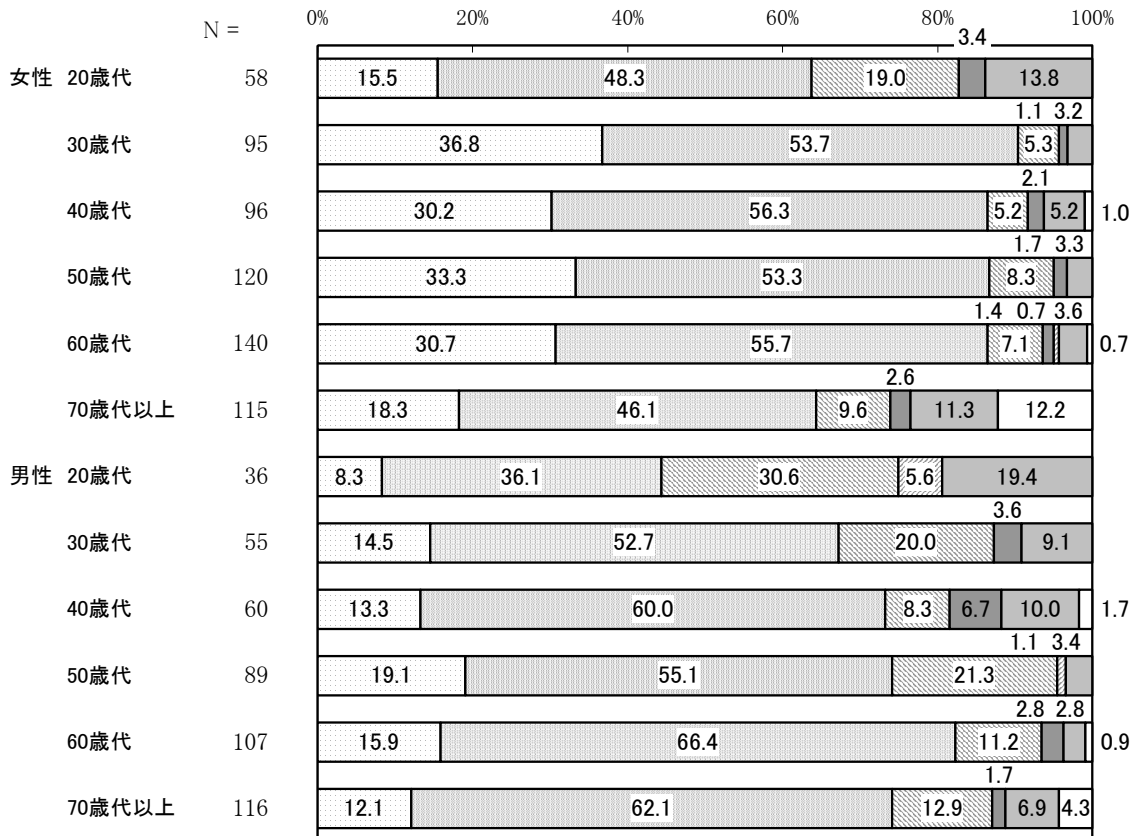
- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【性別】

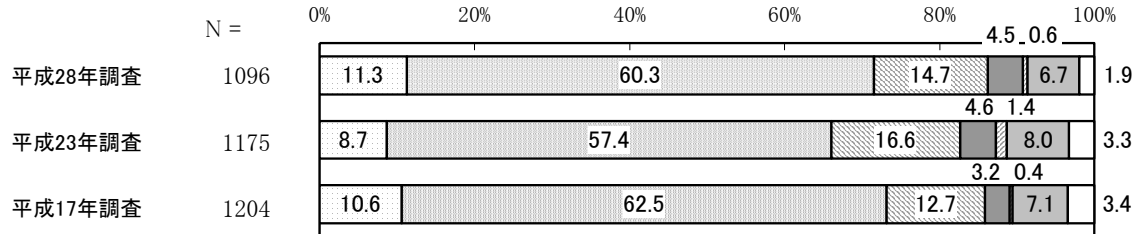


【性年齢別】

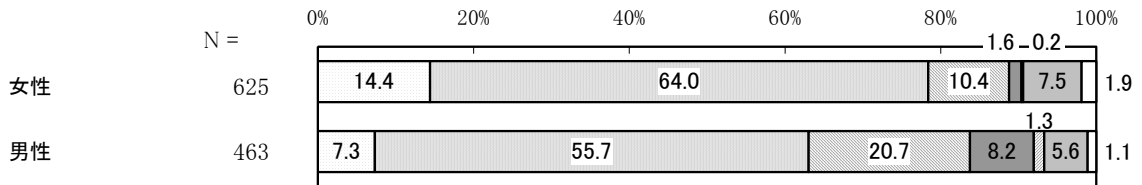


⑧社会全体では

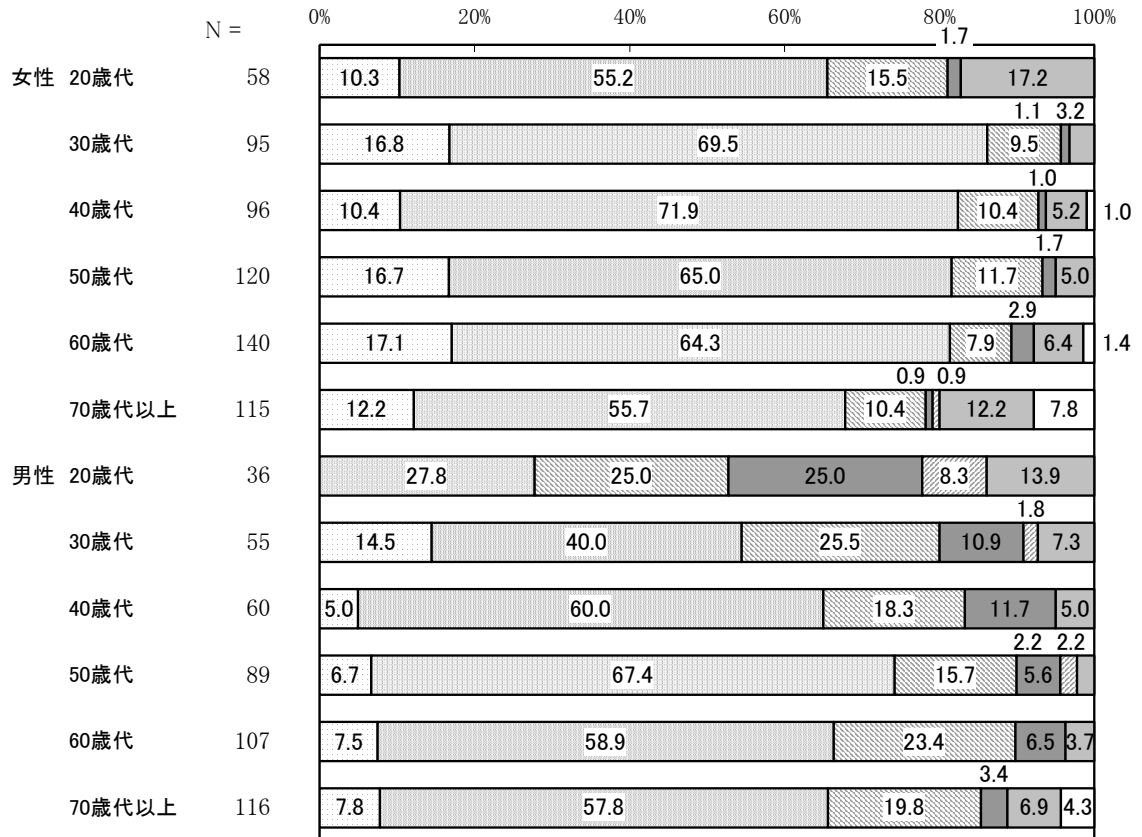
- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【性別】



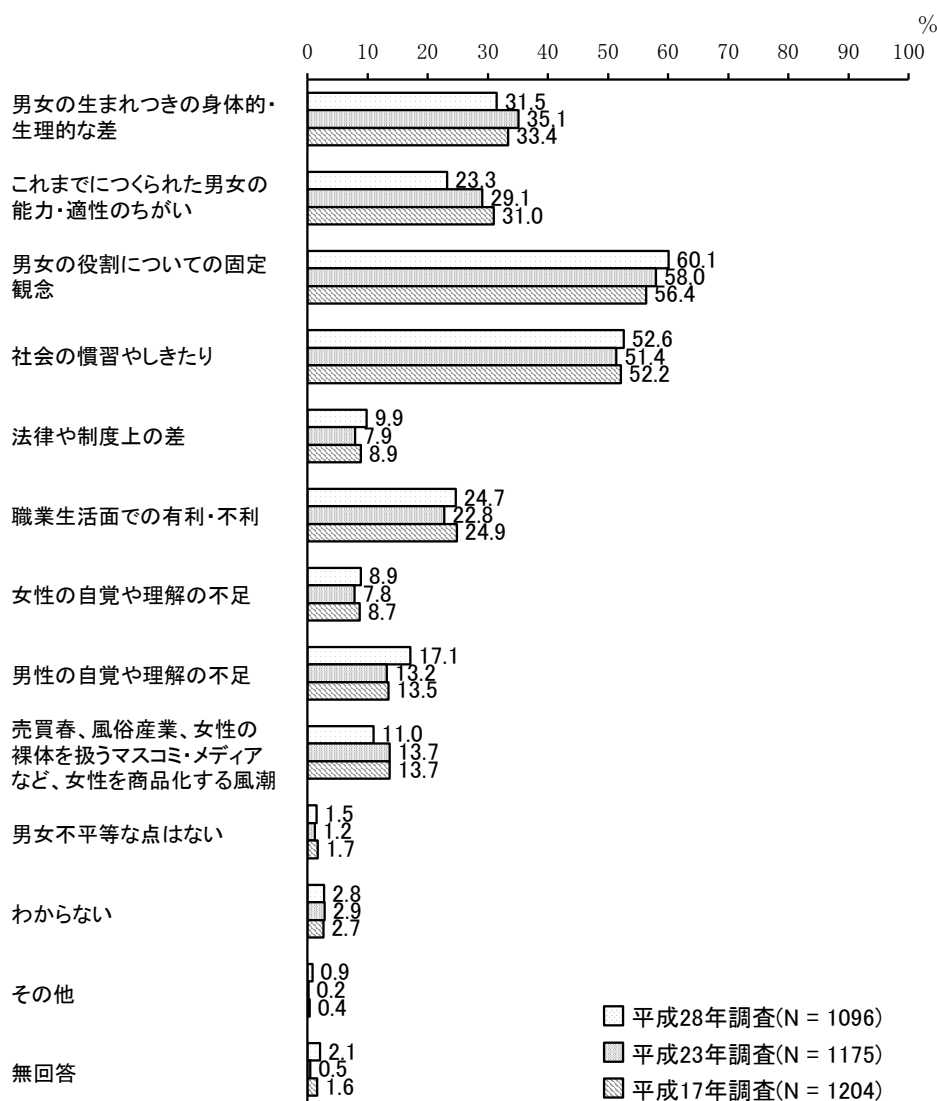
【性年齢別】



問2 社会にはいろいろな面で男女間に不平等があるといわれていますが、不平等が生じる原因はどこにあると思いますか。次の中から3つまで（1つでもよい）選んで番号に○をつけてください。

「男女の役割についての固定観念」の割合が60.1%と最も高く、次いで「社会の慣習やしきたり」の割合が52.6%、「男女の生まれつきの身体的・生理的な差」の割合が31.5%となっています。

「これまでにつくられた男女の能力・適性のちがい」の割合は、平成17年調査、平成23年調査と比較して、徐々に低くなっています。



【性別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	男女の生まれつきの身体的・生理的な差	これまでにつくられた男女の能力・適性のちがい	男女の役割についての固定観念	社会の慣習やしきたり	法律や制度上の差	職業生活面での有利・不利
女性	625	25.9	21.0	64.3	55.0	10.7	27.7
男性	463	39.1	26.8	55.1	49.5	8.9	21.0

区分	女性の自覚や理解の不足	男性の自覚や理解の不足	売買取、風俗産業、女性の裸体を扱うマスコミ・メディアなど、女性を商品化する風潮	男女不平等な点はない	わからない	その他	無回答
女性	7.5	20.0	12.6	1.3	3.0	1.0	1.1
男性	10.8	13.4	9.1	1.7	2.4	0.9	2.6

【性年齢別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	男女の生まれつきの身体的・生理的な差	これまでにつくられた男女の能力・適性のちがい	男女の役割についての固定観念	社会の慣習やしきたり	法律や制度上の差	職業生活面での有利・不利
女性 20歳代	58	32.8	19.0	69.0	56.9	8.6	31.0
30歳代	95	24.2	22.1	70.5	62.1	18.9	31.6
40歳代	96	28.1	19.8	67.7	60.4	10.4	28.1
50歳代	120	27.5	23.3	66.7	56.7	10.8	30.8
60歳代	140	25.0	19.3	62.1	52.1	9.3	26.4
70歳代以上	115	21.7	20.9	53.9	46.1	7.0	20.9
男性 20歳代	36	47.2	13.9	55.6	33.3	19.4	5.6
30歳代	55	38.2	25.5	50.9	40.0	9.1	14.5
40歳代	60	33.3	26.7	60.0	50.0	11.7	30.0
50歳代	89	50.6	28.1	65.2	55.1	10.1	20.2
60歳代	107	33.6	28.0	51.4	56.1	7.5	29.0
70歳代以上	116	36.2	29.3	50.0	48.3	4.3	17.2

区分	女性の自覚や理解の不足	男性の自覚や理解の不足	売買取、風俗産業、女性の裸体を扱うマスコミ・メディアなど、女性を商品化する風潮	男女不平等な点はない	わからない	その他	無回答
女性 20歳代	1.7	10.3	20.7	—	1.7	—	1.7
30歳代	6.3	16.8	12.6	1.1	2.1	—	1.1
40歳代	13.5	17.7	13.5	1.0	1.0	—	—
50歳代	5.8	25.0	10.8	0.8	1.7	0.8	0.8
60歳代	7.1	25.0	12.9	1.4	2.9	0.7	0.7
70歳代以上	8.7	18.3	8.7	2.6	7.8	3.5	2.6
男性 20歳代	8.3	13.9	19.4	—	2.8	2.8	2.8
30歳代	12.7	20.0	3.6	—	7.3	1.8	1.8
40歳代	15.0	15.0	3.3	1.7	1.7	1.7	1.7
50歳代	10.1	16.9	11.2	1.1	—	—	1.1
60歳代	7.5	12.1	12.1	2.8	2.8	—	1.9
70歳代以上	12.1	7.8	6.9	2.6	1.7	0.9	5.2

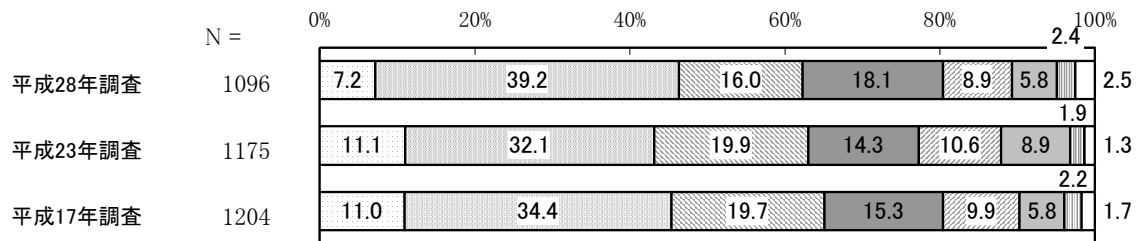
問3 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野に参画していくためには、どのようなことが最も重要だと思いますか。
次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

「男女にかかわる、さまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」の割合が39.2%と最も高く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること」の割合が18.1%、「女性自身が経済力をつけたり知識・技術を習得したりするなど、積極的に力の向上をはかること」の割合が16.0%となっています。

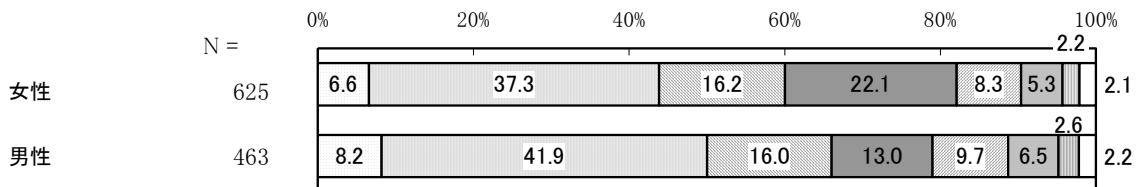
平成23年調査と比較すると、「男女にかかわる、さまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」の割合が高くなっています。

平成17年調査と比較すると、大きな差異は認められません。

- 法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること
- 男女にかかわる、さまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
- 女性自身が経済力をつけたり知識・技術を習得したりするなど、積極的に力の向上をはかること
- 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること
- 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
- わからない
- その他
- 無回答



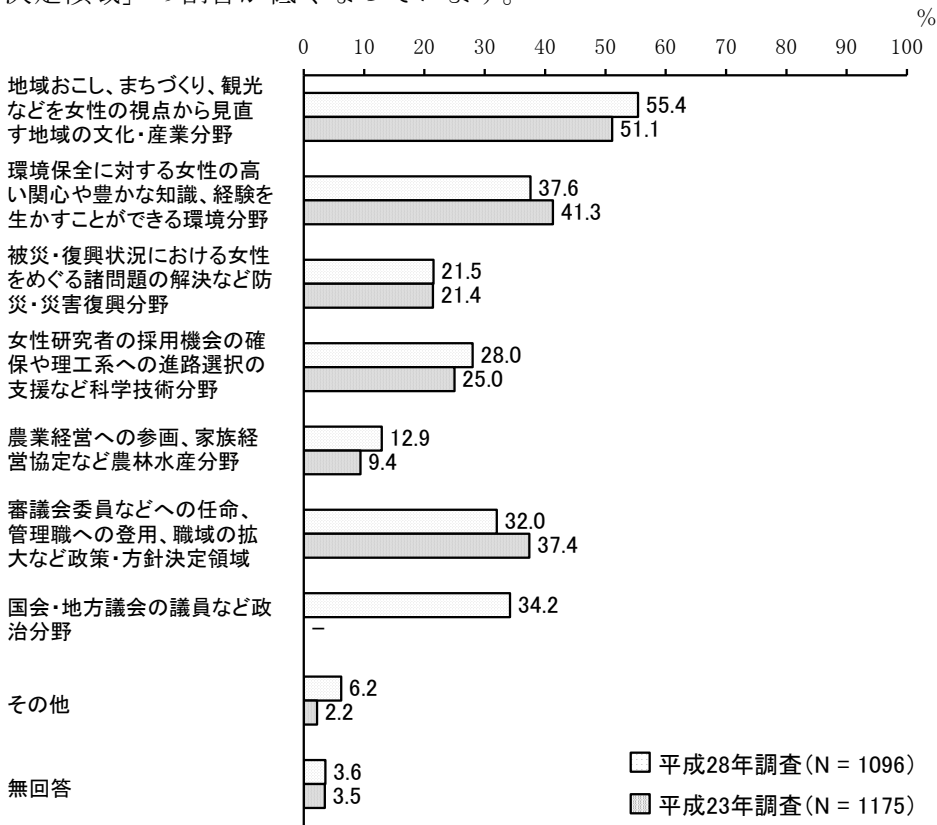
【性別】



問4 あなたは、今後どのような分野、領域で女性の参画が必要になるとお思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野」の割合が55.4%と最も高く、次いで「環境保全に対する女性の高い関心や豊かな知識、経験を生かすことができる環境分野」の割合が37.6%、「国会・地方議会の議員など政治分野」の割合が34.2%となっています。

平成23年調査と比較すると、「審議会委員などへの任命、管理職への登用、職域の拡大など政策・方針決定領域」の割合が低くなっています。



【性別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野	環境保全に対する女性の高い関心や豊かな知識、経験を生かすことができる環境分野	被災・復興状況における女性をめぐり諸問題の解決など防災・災害復興分野	女性研究者の採用機会の確保や理工系への進路選択の支援など科学技術分野	農業経営への参画、家族経営協定など農林水産分野	審議会委員などへの任命、管理職への登用、職域の拡大など政策・方針決定領域	国会・地方議会の議員など政治分野	その他	無回答
女性	625	54.2	42.2	22.7	27.5	13.1	32.6	35.0	5.0	3.7
男性	463	57.2	31.7	20.3	28.9	12.5	31.7	33.5	8.0	2.8

【性年齢別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野	環境保全に対する女性の高い関心や豊かな知識、経験を生かすことができる環境分野	被災・復興状況における女性をめぐり諸問題の解決など防災・災害復興分野	被験・復興状況における女性をめぐり諸問題の解決など防災・災害復興分野	女性研究者の採用機会の確保や理工系への進路選択の支援など科学技術分野	農業経営への参画、家族経営協定など農林水産分野	審議会委員などへの任命、管理職への登用、職域の拡大など政策・方針決定領域	国会・地方議会の議員など政治分野	その他	無回答
女性 20歳代	58	43.1	25.9	20.7	39.7	5.2	36.2	41.4	12.1	—	
30歳代	95	57.9	32.6	27.4	29.5	14.7	44.2	37.9	5.3	3.2	
40歳代	96	53.1	41.7	26.0	25.0	7.3	29.2	44.8	5.2	1.0	
50歳代	120	50.8	47.5	24.2	21.7	8.3	30.8	31.7	5.0	3.3	
60歳代	140	58.6	43.6	19.3	29.3	17.1	33.6	31.4	2.1	3.6	
70歳代以上	115	56.5	51.3	20.0	26.1	20.9	25.2	28.7	4.3	8.7	
男性 20歳代	36	47.2	25.0	8.3	25.0	11.1	19.4	25.0	13.9	2.8	
30歳代	55	52.7	18.2	23.6	29.1	9.1	16.4	38.2	9.1	—	
40歳代	60	58.3	31.7	23.3	20.0	10.0	30.0	40.0	10.0	—	
50歳代	89	57.3	23.6	20.2	24.7	10.1	30.3	31.5	5.6	2.2	
60歳代	107	67.3	40.2	25.2	28.0	14.0	43.9	36.4	6.5	3.7	
70歳代以上	116	52.6	38.8	16.4	38.8	16.4	33.6	29.3	7.8	5.2	

(3) 職業生活について

問5 理想的な女性のライフスタイルと実際の状況（現実）についておたずねします。
 あなたが女性の場合はあなた自身について、男性であればあなたの妻について、理想と現実をそれぞれ（ア）～（カ）の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。
 ※結婚していない方も、結婚していると仮定してお答えください。

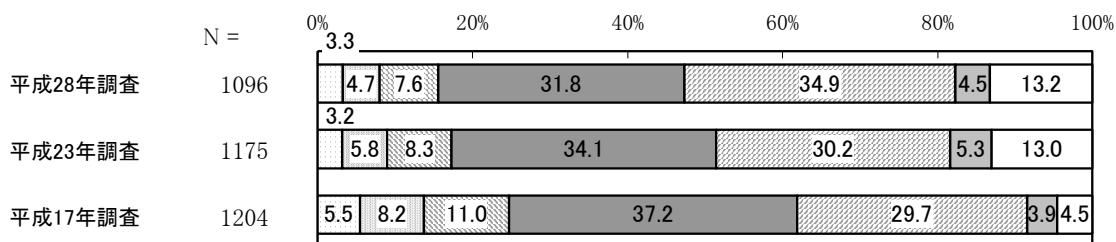
①理想

「ずっと職業を続ける」の割合が34.9%と最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ」の割合が31.8%となっています。

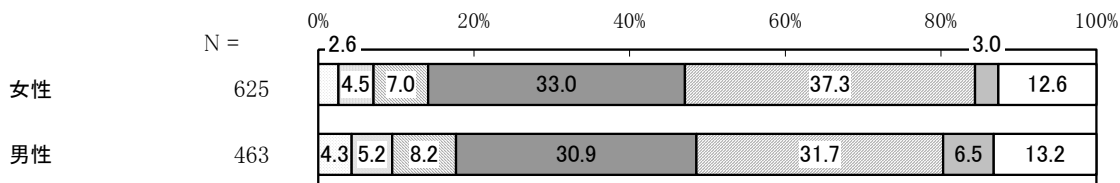
平成23年調査と比較すると、大きな差異は認められません。

平成17年調査と比較すると、「ずっと職業を続ける」の割合が高くなっています。また、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ」の割合が低くなっています。

- 職業をもたない
- 結婚するまでは、職業をもつ
- 子どもができるまでは、職業をもつ
- 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ
- ずっと職業を続ける
- わからない
- 無回答



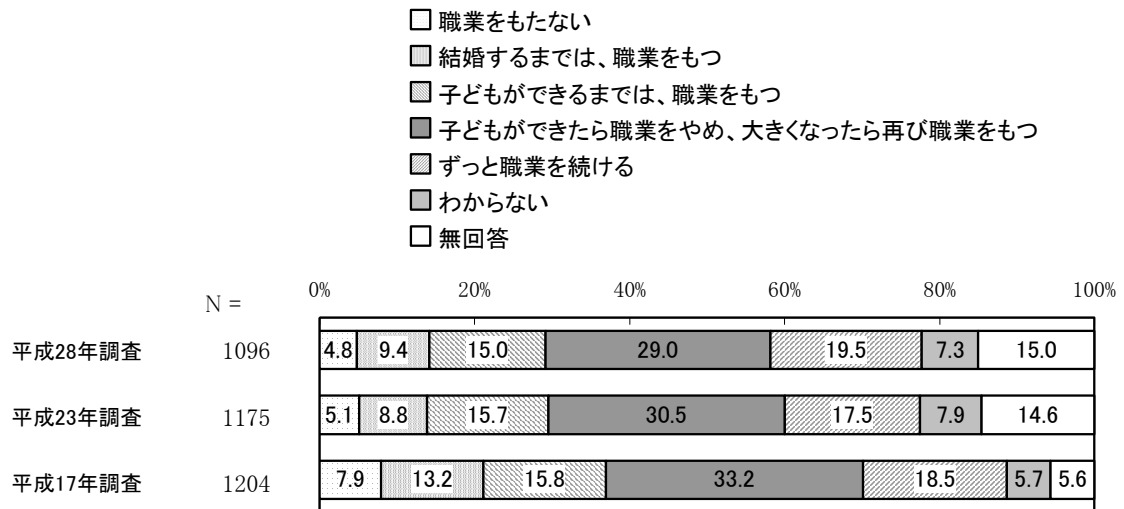
【性別】



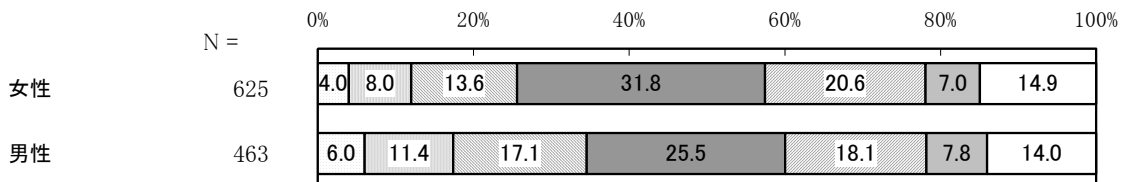
②現実

「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ」の割合が 29.0%と最も高く、次いで「ずっと職業を続ける」の割合が 19.5%、「子どもができるまでは、職業をもつ」の割合が 15.0%となっています。

平成 17 年調査、平成 23 年調査と比較すると、大きな差異は認められません。



【性別】



【女性のライフスタイルの理想と現実の関係】

女性のライフスタイルの理想と現実の関係をみると、理想と現実が一致した割合は2割程度となっています。また、性別でみると、男女ともに理想と現実が一致した割合は2割程度となっています。

単位：%

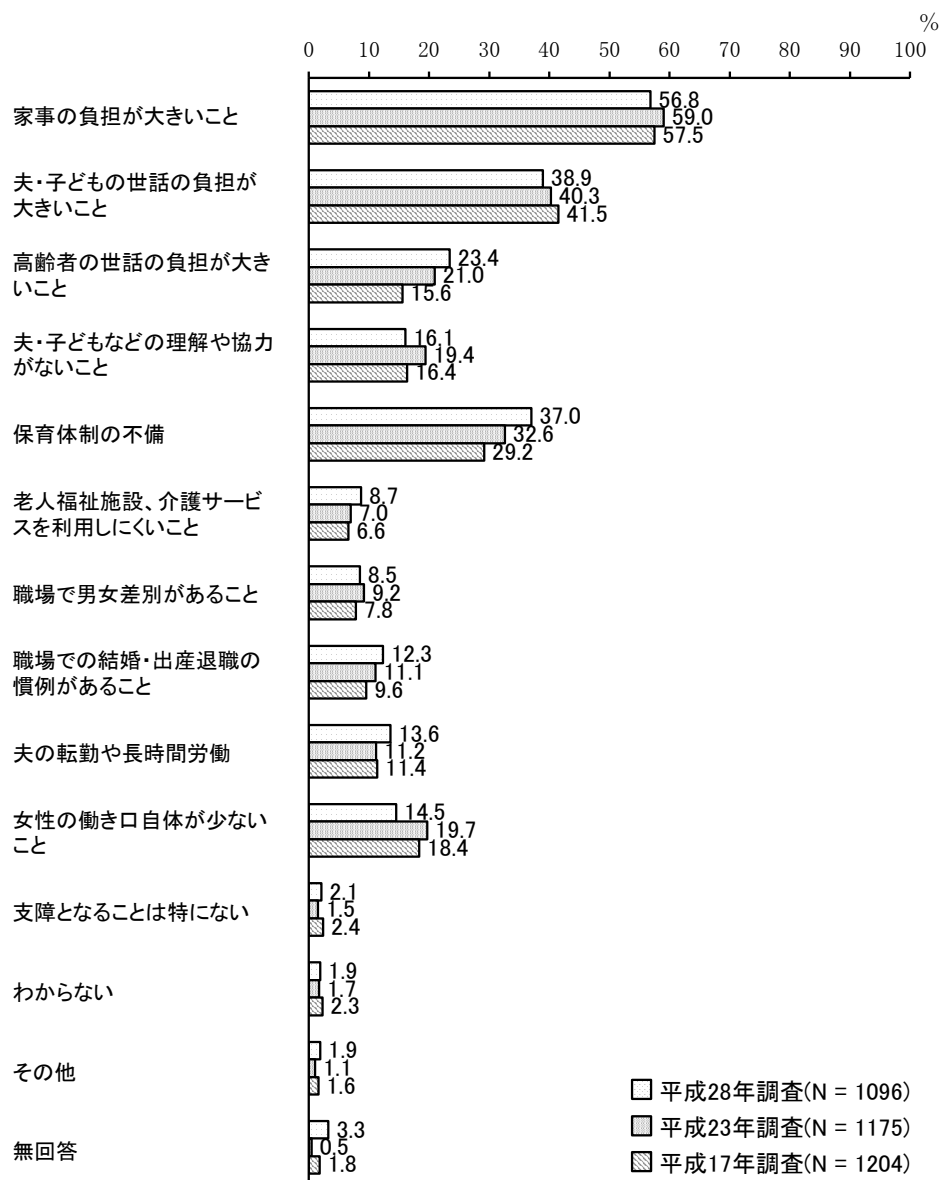
区分		有効回答数 (件)	現実							
			職業をもたない	結婚するまでは、 職業をもつ	子どもができるまでは、 職業をもつ	子どもができたなら職業 をやめ、大きくなったら 再び職業をもつ	ずっと職業を続ける	わからない	無回答	
理想	全体	1096	4.8	9.4	15.0	29.0	19.5	7.3	15.0	
	職業をもたない	36	16.7	5.6	16.7	25.0	25.0	5.6	5.6	
	結婚するまでは、職業をもつ	52	15.4	21.2	11.5	30.8	9.6	7.7	3.8	
	子どもができるまでは、職業をもつ	83	6.0	12.0	7.2	41.0	20.5	8.4	4.8	
	子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ	349	3.7	12.9	27.5	23.8	22.1	6.3	3.7	
	ずっと職業を続ける	382	2.6	8.1	11.8	43.2	24.3	4.5	5.5	
	わからない	49	8.2	4.1	8.2	8.2	12.2	57.1	2.0	
	女性	職業をもたない	16	12.5	—	25.0	31.3	25.0	6.3	—
		結婚するまでは、職業をもつ	28	7.1	21.4	3.6	35.7	14.3	10.7	7.1
		子どもができるまでは、職業をもつ	44	4.5	4.5	9.1	43.2	22.7	6.8	9.1
		子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ	206	3.4	11.2	26.2	23.3	25.2	6.8	3.9
		ずっと職業を続ける	233	2.6	7.7	9.4	46.8	22.7	5.2	5.6
		わからない	19	5.3	5.3	—	15.8	10.5	57.9	5.3
	男性	職業をもたない	20	20.0	10.0	10.0	20.0	25.0	5.0	10.0
結婚するまでは、職業をもつ		24	25.0	20.8	20.8	25.0	4.2	4.2	—	
子どもができるまでは、職業をもつ		38	7.9	21.1	5.3	39.5	15.8	10.5	—	
子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ		143	4.2	15.4	29.4	24.5	17.5	5.6	3.5	
ずっと職業を続ける		147	2.7	8.8	15.6	37.4	27.2	3.4	4.8	
わからない		30	10.0	3.3	13.3	3.3	13.3	56.7	—	

問6 あなたは、女性が働く上で、支障となることはどのようなことだと思いますか。
次の中から3つまで（1つでもよい）選んで番号に○をつけてください。

「家事の負担が大きいこと」の割合が56.8%と最も高く、次いで「夫・子どもの世話の負担が大きいこと」の割合が38.9%、「保育体制の不備」の割合が37.0%となっています。

平成23年調査と比較すると、大きな差異は認められません。

平成17年調査と比較すると、「高齢者の世話の負担が大きいこと」、「保育体制の不備」などの割合が高くなっています。



【性別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	家事の負担が大きいこと	夫・子どもの世話の負担が大きいこと	高齢者の世話の負担が大きいこと	夫・子どもなどの理解や協力が無いこと	保育体制の不備	老人福祉施設、介護サービスを利用しにくいこと	職場で男女差別があること
女性	625	59.7	37.6	27.2	18.7	33.8	8.5	9.0
男性	463	53.8	40.8	18.8	12.7	41.9	8.9	8.0

区分	職場での結婚・出産退職の慣例があること	夫の転勤や長時間労働	女性の働き口自体が少ないこと	支障となることは特になし	わからない	その他	無回答
女性	10.9	12.8	15.8	1.9	1.6	2.6	2.4
男性	14.3	14.9	12.7	2.2	2.4	1.1	3.7

【性年齢別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	家事の負担が大きいこと	夫・子どもの世話の負担が大きいこと	高齢者の世話の負担が大きいこと	夫・子どもなどの理解や協力がいないこと	保育体制の不備	老人福祉施設、介護サービスを利用しにくいこと	職場で男女差別があること
女性 20歳代	58	56.9	41.4	19.0	15.5	44.8	6.9	13.8
30歳代	95	64.2	43.2	10.5	16.8	44.2	3.2	8.4
40歳代	96	62.5	47.9	22.9	19.8	34.4	6.3	8.3
50歳代	120	55.0	38.3	35.0	25.0	41.7	10.8	5.8
60歳代	140	66.4	32.9	33.6	17.1	21.4	6.4	12.1
70歳代以上	115	51.3	27.0	33.0	16.5	26.1	15.7	7.0
男性 20歳代	36	55.6	33.3	8.3	13.9	44.4	2.8	11.1
30歳代	55	52.7	49.1	9.1	9.1	45.5	—	10.9
40歳代	60	50.0	43.3	10.0	13.3	38.3	3.3	6.7
50歳代	89	60.7	47.2	21.3	14.6	44.9	7.9	6.7
60歳代	107	56.1	37.4	28.0	14.0	42.1	11.2	8.4
70歳代以上	116	48.3	36.2	20.7	11.2	38.8	16.4	6.9

区分	退職の慣例があること	職場での結婚・出産	労働	夫の転勤や長時間	女性の働き口自体が少ないこと	支障となることは特にな	わからない	その他	無回答
女性 20歳代	19.0	6.9	17.2	1.7	3.4	—	5.2		
30歳代	12.6	17.9	24.2	1.1	1.1	3.2	2.1		
40歳代	9.4	15.6	17.7	1.0	1.0	5.2	—		
50歳代	16.7	13.3	10.8	—	—	4.2	—		
60歳代	7.1	10.7	12.9	3.6	—	0.7	2.9		
70歳代以上	4.3	11.3	15.7	3.5	5.2	1.7	5.2		
男性 20歳代	8.3	13.9	11.1	5.6	8.3	—	2.8		
30歳代	14.5	20.0	10.9	1.8	3.6	1.8	1.8		
40歳代	18.3	23.3	6.7	1.7	—	3.3	6.7		
50歳代	19.1	23.6	16.9	1.1	—	—	1.1		
60歳代	14.0	7.5	13.1	0.9	1.9	0.9	3.7		
70歳代以上	10.3	8.6	13.8	3.4	3.4	0.9	5.2		

問7 この設問は、就労している方（F3で「1. 勤め人（常勤）」「2. 勤め人（非常勤、パートタイム、アルバイトなど）」「3. 農林水産業」「4. その他自営業」と回答した方）にのみおたずねします。

※ただし、「5. 学生」と回答した方でも、アルバイトなどで就労している方は、お答えください。

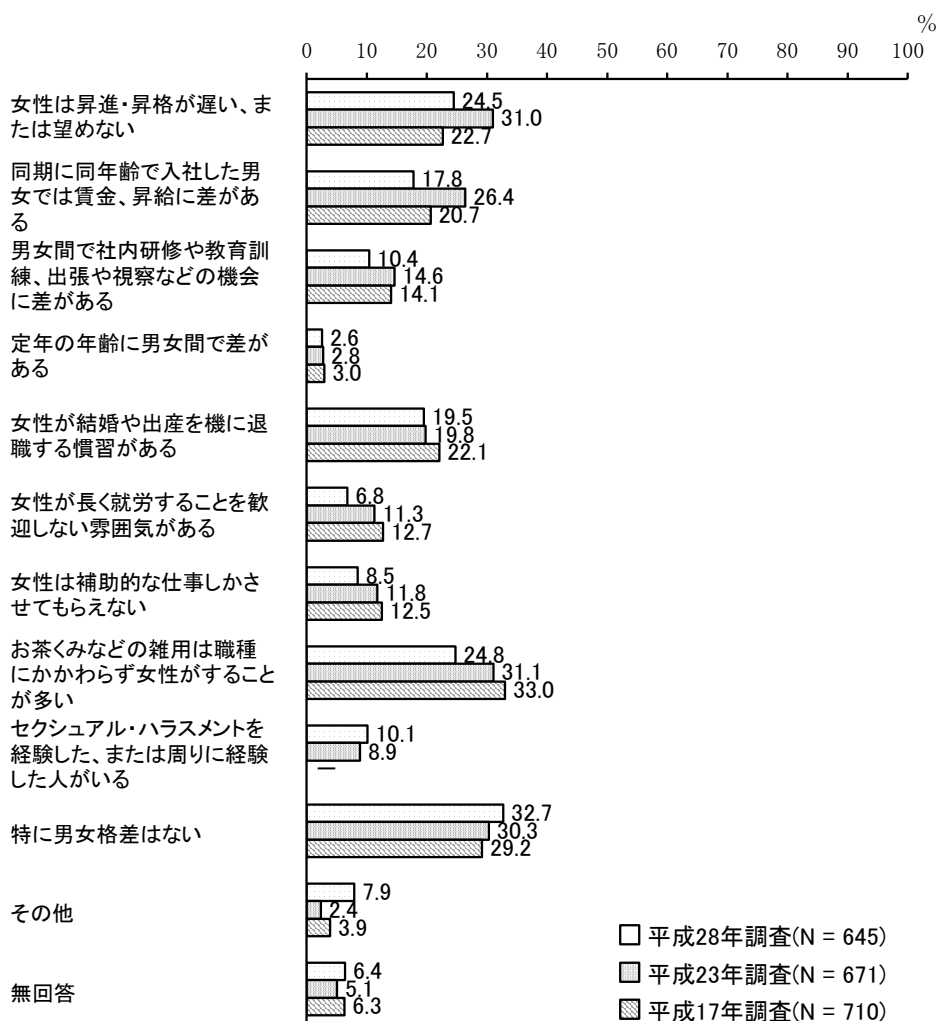
あなたの職場で、現在次のようなことがありますか。

次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「特に男女格差はない」の割合が32.7%と最も高く、次いで「お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い」の割合が24.8%、「女性は昇進・昇格が遅い、または望めない」の割合が24.5%となっています。

平成23年調査と比較すると、「同期に同年齢で入社した男女では賃金、昇給に差がある」、「女性は昇進・昇格が遅い、または望めない」、「お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い」の割合が低くなっています。

平成17年調査と比較すると、「女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある」、「お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い」の割合が低くなっています。



【性別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	女性はや昇進・昇格が遅い、または望めない	同期に同年齢で入社した男女では賃金、昇給に差がある	男女間で社内研修や教育訓練、出張や視察などの機会に差がある	定年の年齢に男女間で差がある	女性が結婚や出産を機に退職する慣習がある	女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある
女性	334	25.1	18.6	7.5	2.7	18.9	6.9
男性	311	23.8	17.0	13.5	2.6	20.3	6.8

区分	女性はや補助的な仕事しかさせてもらえない	お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い	セクシュアル・ハラースメントを経験した、または周りに経験した人がいる	特に男女格差はない	その他	無回答
女性	7.2	25.4	15.0	33.2	7.5	6.0
男性	10.0	24.1	4.8	32.2	8.4	6.8

【性年齢別】

単位：%

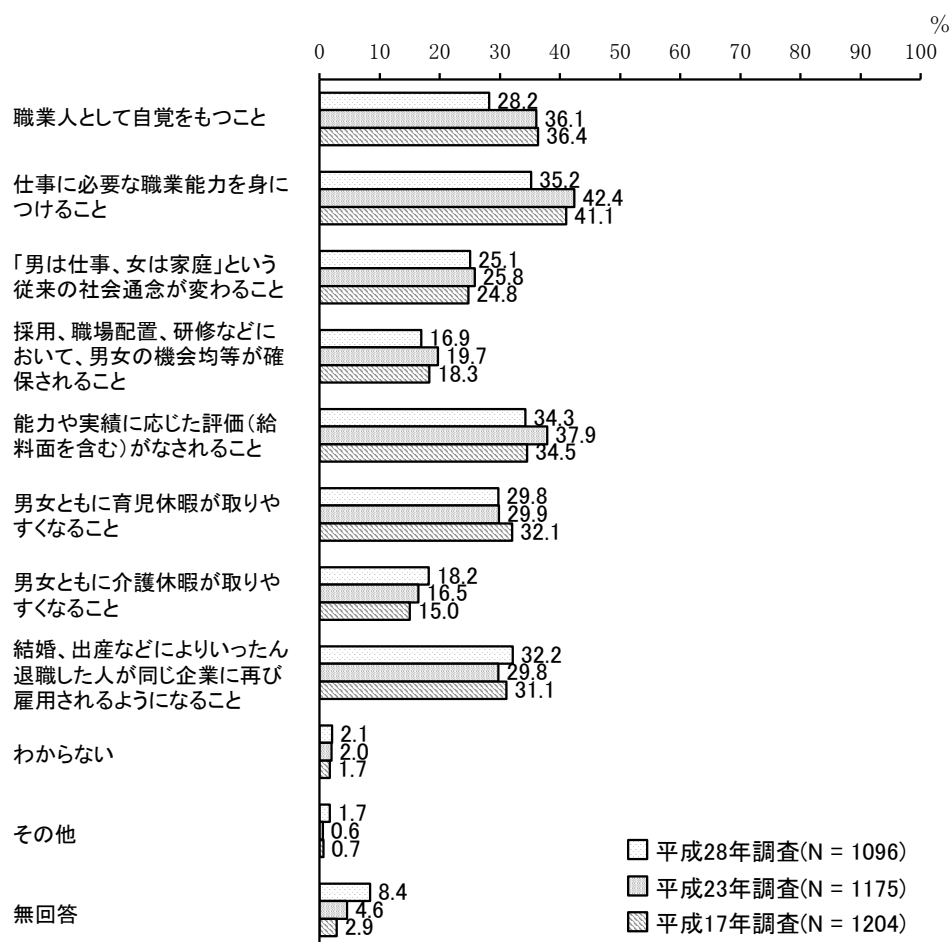
区分	有効回答数 (件)	女性は昇進・昇格が遅い、または望めない	同期に同年齢で入社した男女では賃金、昇給に差がある	男女間で社内研修や教育訓練、出張や視察などの機会に差がある	定年の年齢に男女間で差がある	女性が結婚や出産を機に退職する慣習がある	女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある
女性 20歳代	48	16.7	12.5	12.5	2.1	16.7	2.1
30歳代	71	23.9	18.3	2.8	2.8	21.1	7.0
40歳代	70	32.9	17.1	5.7	4.3	17.1	7.1
50歳代	85	30.6	21.2	8.2	1.2	22.4	9.4
60歳代	45	17.8	22.2	11.1	4.4	8.9	8.9
70歳代以上	14	14.3	21.4	7.1	—	28.6	—
男性 20歳代	30	20.0	10.0	3.3	—	23.3	6.7
30歳代	55	12.7	10.9	9.1	3.6	16.4	1.8
40歳代	58	29.3	25.9	12.1	3.4	17.2	8.6
50歳代	85	27.1	16.5	14.1	2.4	18.8	7.1
60歳代	70	27.1	17.1	22.9	2.9	25.7	8.6
70歳代以上	13	15.4	23.1	7.7	—	23.1	7.7

区分	女性は補助的な仕事しかさせてもらえない	お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い	セクシュアル・ハラスメントを経験した、または周りに経験した人がいる	特に男女格差はない	その他	無回答
女性 20歳代	8.3	29.2	20.8	31.3	6.3	10.4
30歳代	5.6	22.5	16.9	33.8	8.5	5.6
40歳代	8.6	28.6	21.4	35.7	4.3	2.9
50歳代	7.1	25.9	12.9	29.4	9.4	3.5
60歳代	6.7	17.8	4.4	42.2	8.9	6.7
70歳代以上	7.1	28.6	—	21.4	7.1	21.4
男性 20歳代	6.7	23.3	6.7	30.0	3.3	6.7
30歳代	5.5	18.2	1.8	45.5	14.5	1.8
40歳代	12.1	29.3	5.2	32.8	10.3	5.2
50歳代	12.9	23.5	7.1	27.1	5.9	5.9
60歳代	8.6	24.3	4.3	30.0	5.7	11.4
70歳代以上	15.4	30.8	—	23.1	15.4	15.4

問8 あなたは一般的に、男女がともに職業人として職場で能力を発揮し、かつ継続して勤務するためには、どのようなことが重要だと思いますか。
次の中から3つまで（1つでもよい）選んで番号に○をつけてください。

「仕事に必要な職業能力を身につけること」の割合が35.2%と最も高く、次いで「能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること」の割合が34.3%、「結婚、出産などによりいったん退職した人が同じ企業に再び雇用されるようになること」の割合が32.2%となっています。

平成17年調査、平成23年調査と比較すると、「職業人として自覚をもつこと」、「仕事に必要な職業能力を身につけること」の割合が低くなっています。



【性別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	職業人として自覚 をもつこと	仕事に必要な職業 能力を身につける こと	「男は仕事、女は家 庭」という従来の社 会通念が変わること	採用、職場配置、研 修などにおいて、男 女の機会均等が確 保されること	能力や実績に応じ た評価(給料面を含 む)がなされること
女性	625	28.3	36.2	26.4	14.4	35.2
男性	463	28.3	34.3	23.8	20.3	33.3

区分	男女ともに育児休 暇が取りやすくな ること	男女ともに介護休 暇が取りやすくな ること	結婚、出産などに よって退職した人 が同じ企業に再 び雇用されるよ うになること	わからない	その他	無回答
女性	28.8	20.3	33.1	1.9	1.4	8.3
男性	31.7	15.8	31.5	2.2	1.9	7.8

【性年齢別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	職業人として自覚を もつこと	仕事に必要な職業能 力を身につけること	「男は仕事、女は家 庭」という従来の社 会通念が変わること	採用、職場配置、研 修などにおいて、男 女の機会均等が確保 されること	能力や実績に応じた 評価(給料面を含む) がなされること
女性 20歳代	58	13.8	32.8	48.3	15.5	32.8
30歳代	95	20.0	28.4	40.0	12.6	36.8
40歳代	96	36.5	42.7	38.5	18.8	36.5
50歳代	120	33.3	43.3	20.8	12.5	40.8
60歳代	140	31.4	33.6	15.7	17.9	39.3
70歳代以上	115	27.0	34.8	13.0	9.6	23.5
男性 20歳代	36	25.0	33.3	33.3	11.1	33.3
30歳代	55	21.8	18.2	29.1	12.7	25.5
40歳代	60	31.7	31.7	28.3	16.7	33.3
50歳代	89	28.1	40.4	24.7	19.1	36.0
60歳代	107	30.8	40.2	18.7	30.8	39.3
70歳代以上	116	28.4	33.6	19.8	19.8	29.3

区分	男女ともに育児休 暇が取りやすくな ること	男女ともに介護休 暇が取りやすくな ること	再び雇用されるよ うになること	結婚、出産などに よって退職した人 が同じ企業に再 雇用されること	わからない	その他	無回答
女性 20歳代	46.6	19.0	43.1	3.4	3.4	1.7	
30歳代	45.3	21.1	42.1	1.1	1.1	3.2	
40歳代	33.3	19.8	24.0	1.0	1.0	3.1	
50歳代	24.2	28.3	32.5	—	1.7	3.3	
60歳代	22.1	16.4	37.1	0.7	0.7	11.4	
70歳代以上	14.8	16.5	23.5	6.1	1.7	21.7	
男性 20歳代	38.9	—	27.8	—	2.8	2.8	
30歳代	54.5	23.6	30.9	5.5	3.6	3.6	
40歳代	26.7	15.0	28.3	1.7	3.3	5.0	
50歳代	36.0	20.2	32.6	2.2	—	4.5	
60歳代	29.9	18.7	33.6	0.9	1.9	5.6	
70歳代以上	19.8	11.2	31.9	2.6	1.7	17.2	

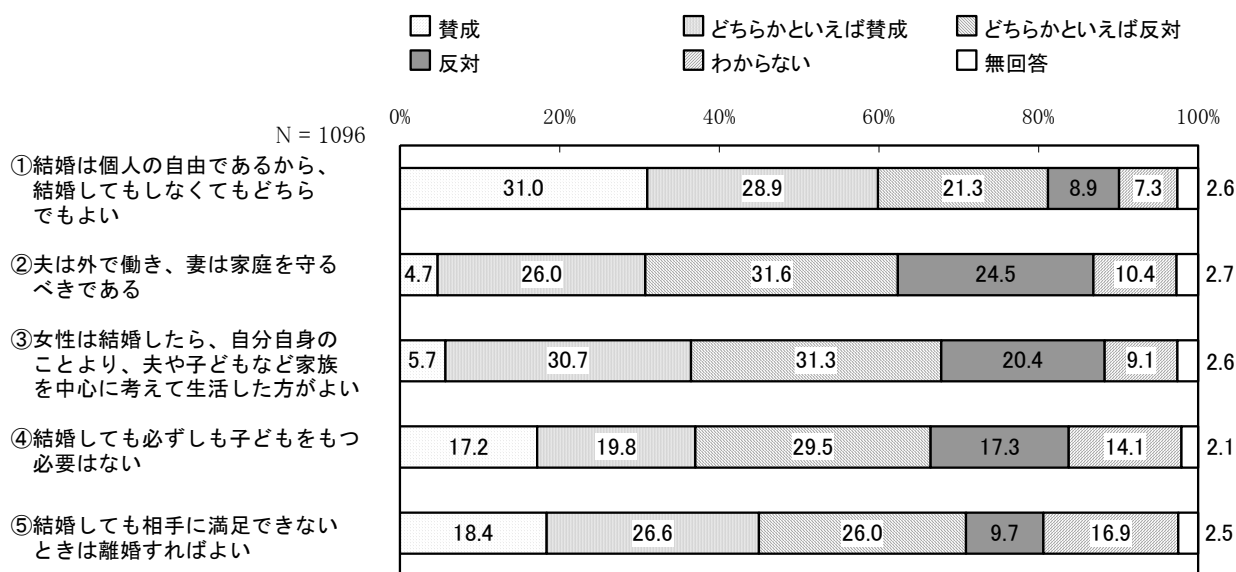
(4) 結婚、家庭生活と男女の役割について

問9 あなたは、結婚、家庭に関する次のような考えについて、どのように思いますか。
①から⑤のそれぞれについて（ア）～（オ）の中からあなたの気持ちに最も近いものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

『賛成派』の割合が「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」で最も高く、次いで「⑤結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」となっています。
『反対派』の割合が「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」で最も高く、次いで「③女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」となっています。

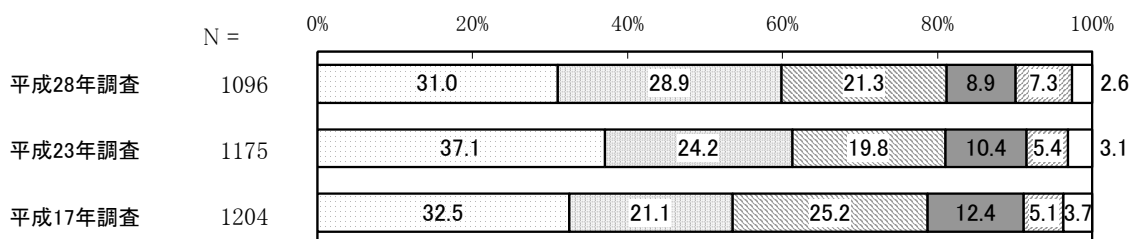
平成23年調査と比較すると、『賛成派』の割合が「⑤結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」で高くなっています。また、『反対派』の割合が「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」で高くなっています。

平成17年調査と比較すると、『賛成派』の割合が「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」、「④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」、「⑤結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」で高くなっています。

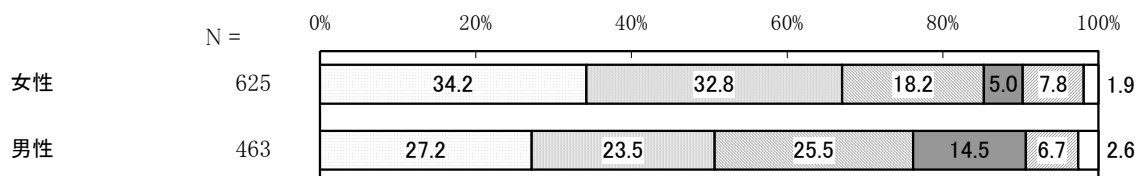


①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

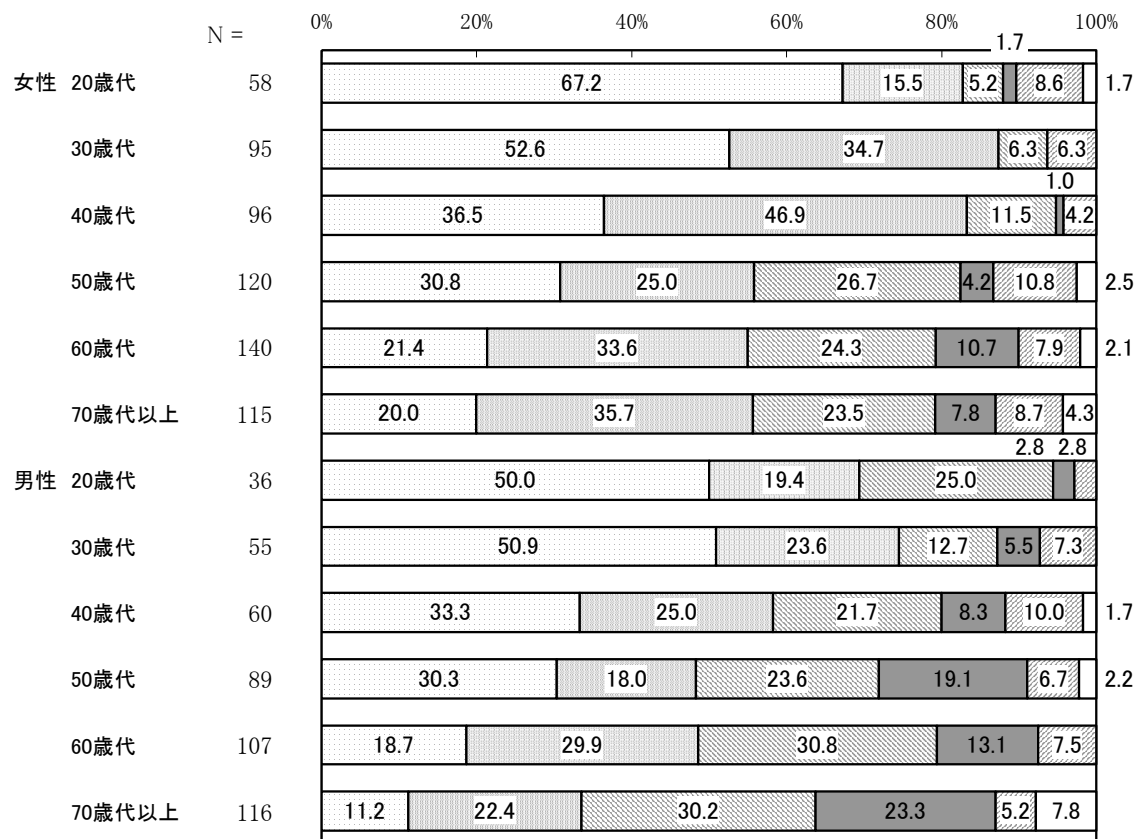
□賛成 □どちらかといえば賛成 □どちらかといえば反対
 ■反対 ▨わからない □無回答



【性別】

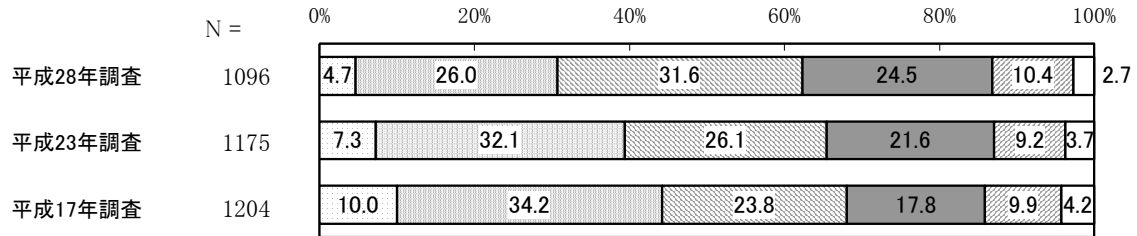


【性年齢別】

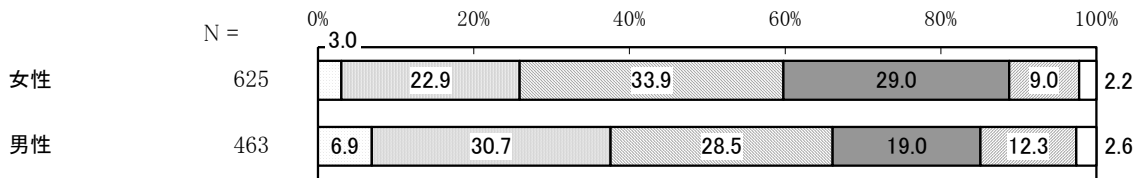


②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

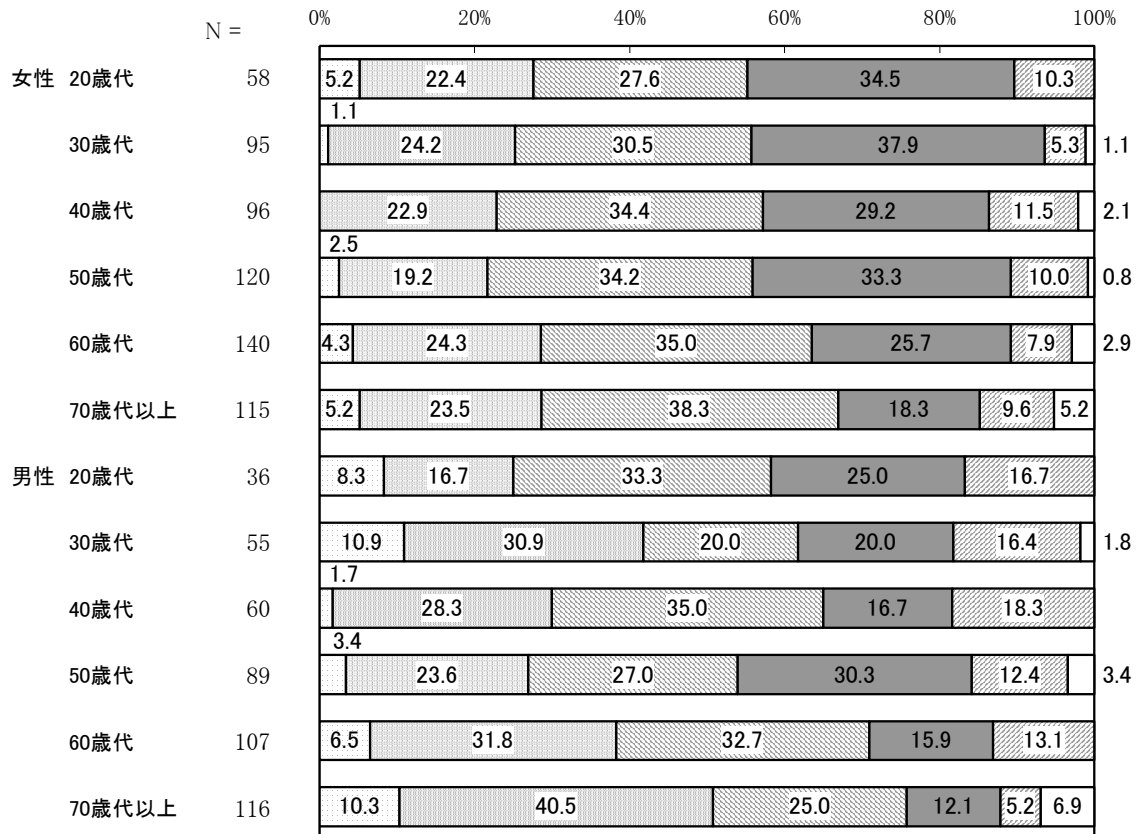
□ 賛成 □ どちらかといえば賛成 □ どちらかといえば反対
 ■ 反対 □ わからない □ 無回答



【性別】

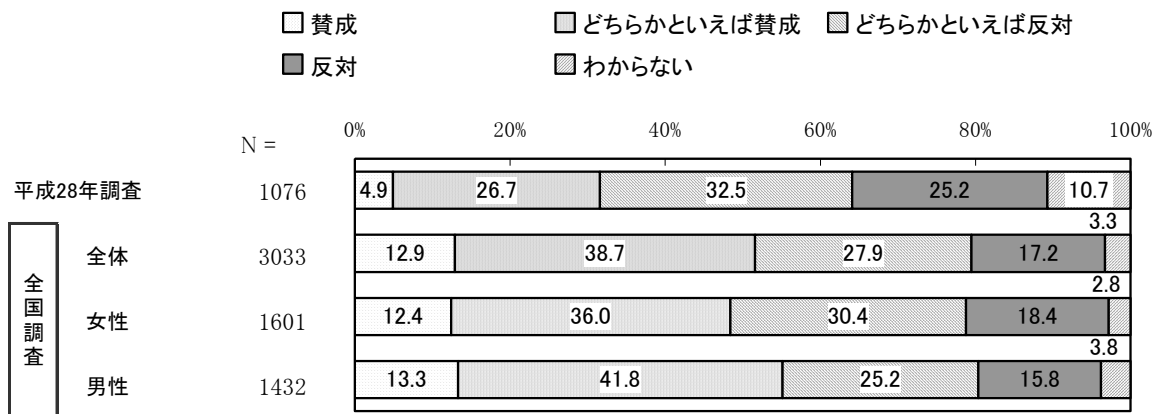


【性年齢別】



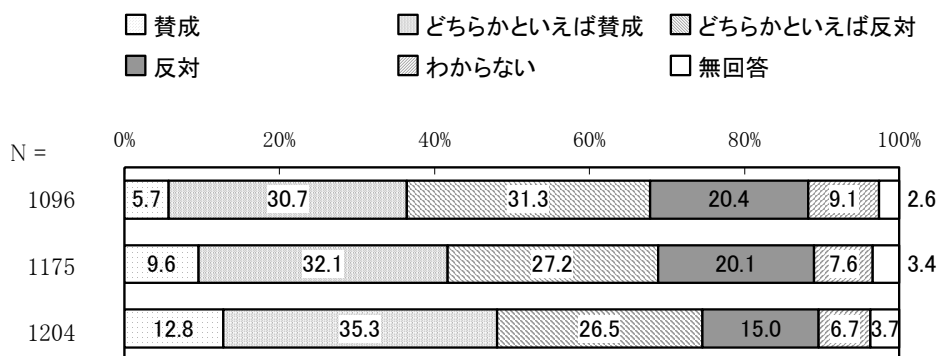
【全国調査】（男女共同参画社会に関する世論調査）

全国調査と比較すると、『反対派』の割合が高くなっています。

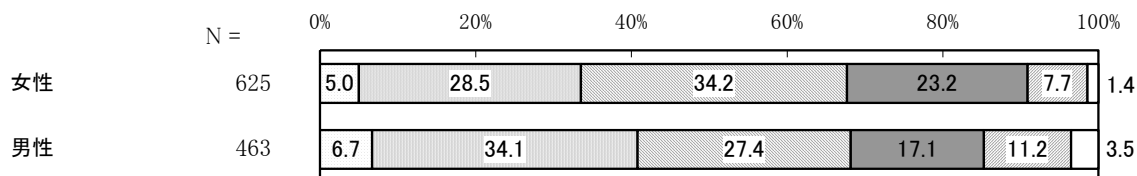


※全国調査と比較するため、無回答を除いています。

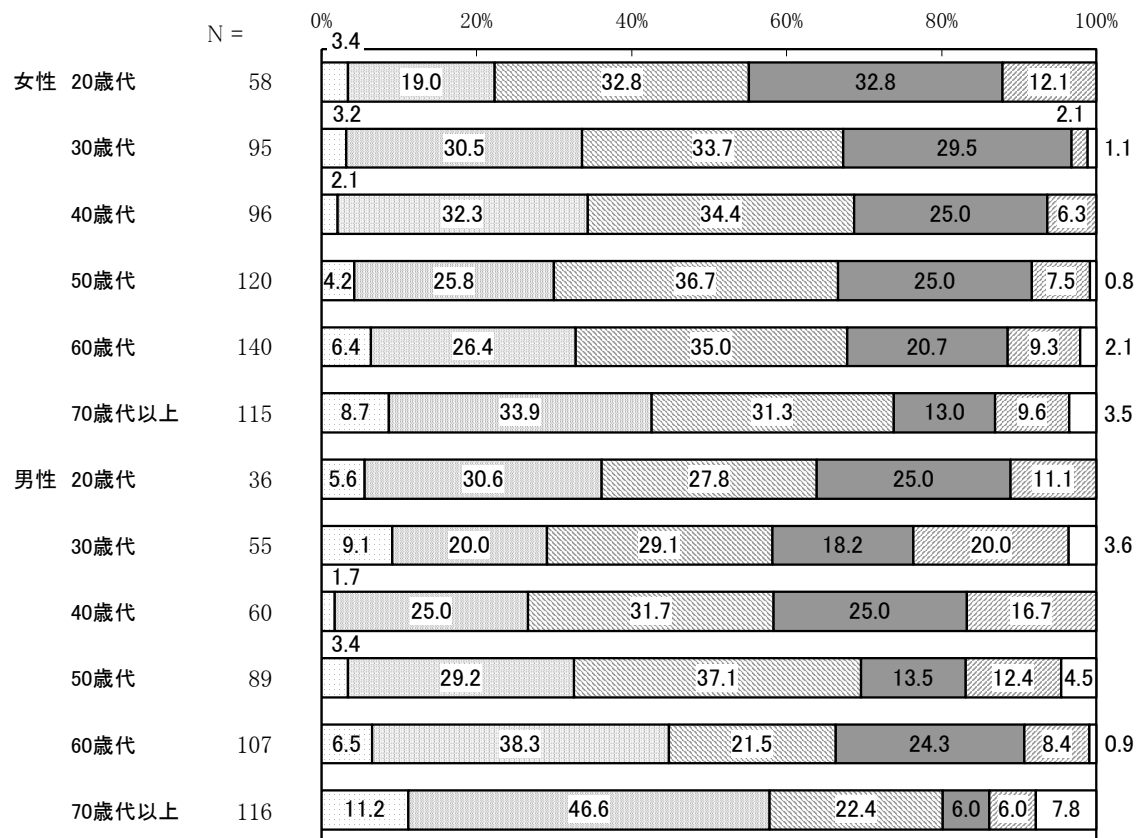
③女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい



【性別】

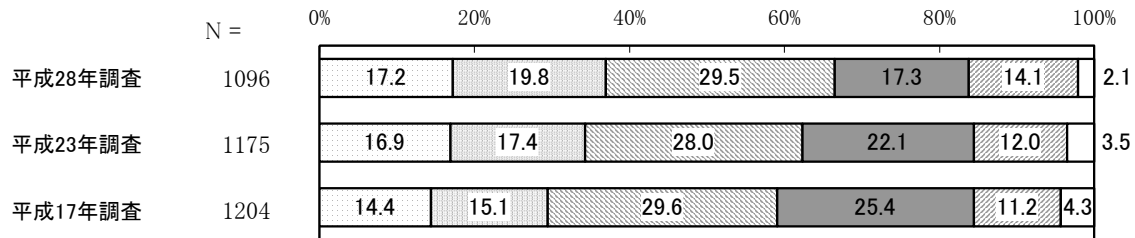


【性年齢別】

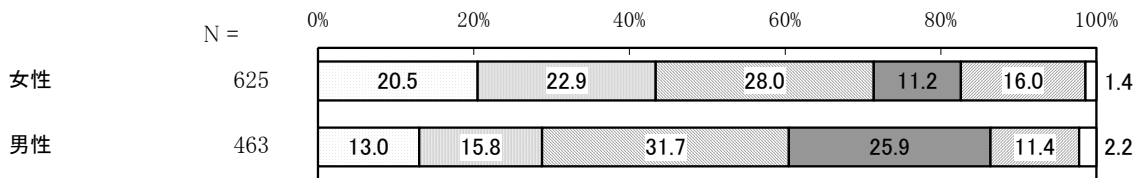


④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない

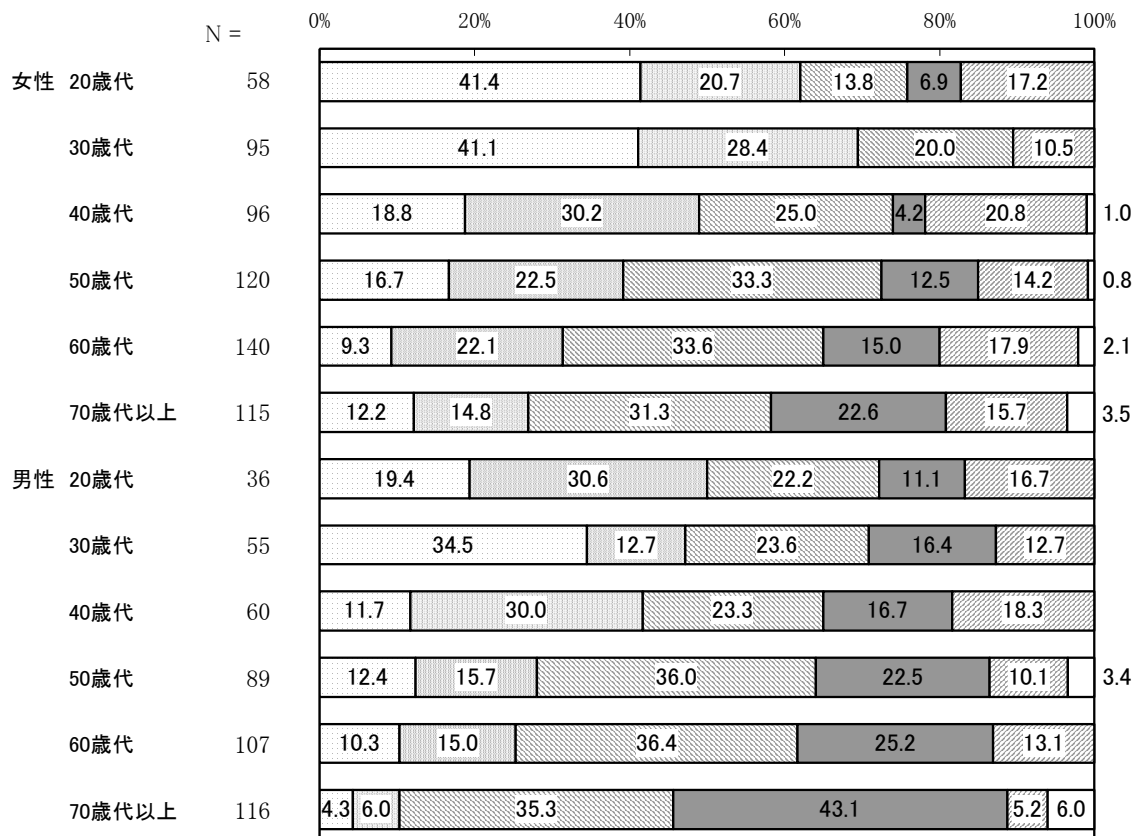
□ 賛成 □ どちらかといえば賛成 □ どちらかといえば反対
 ■ 反対 □ わからない □ 無回答



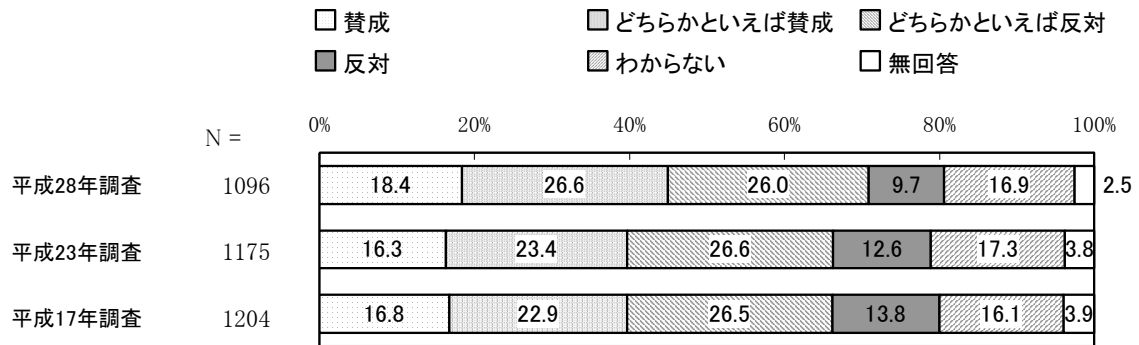
【性別】



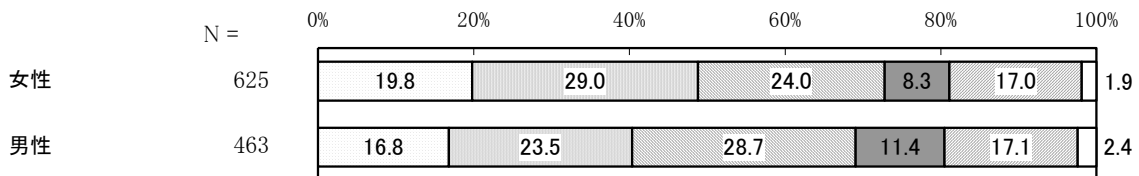
【性年齢別】



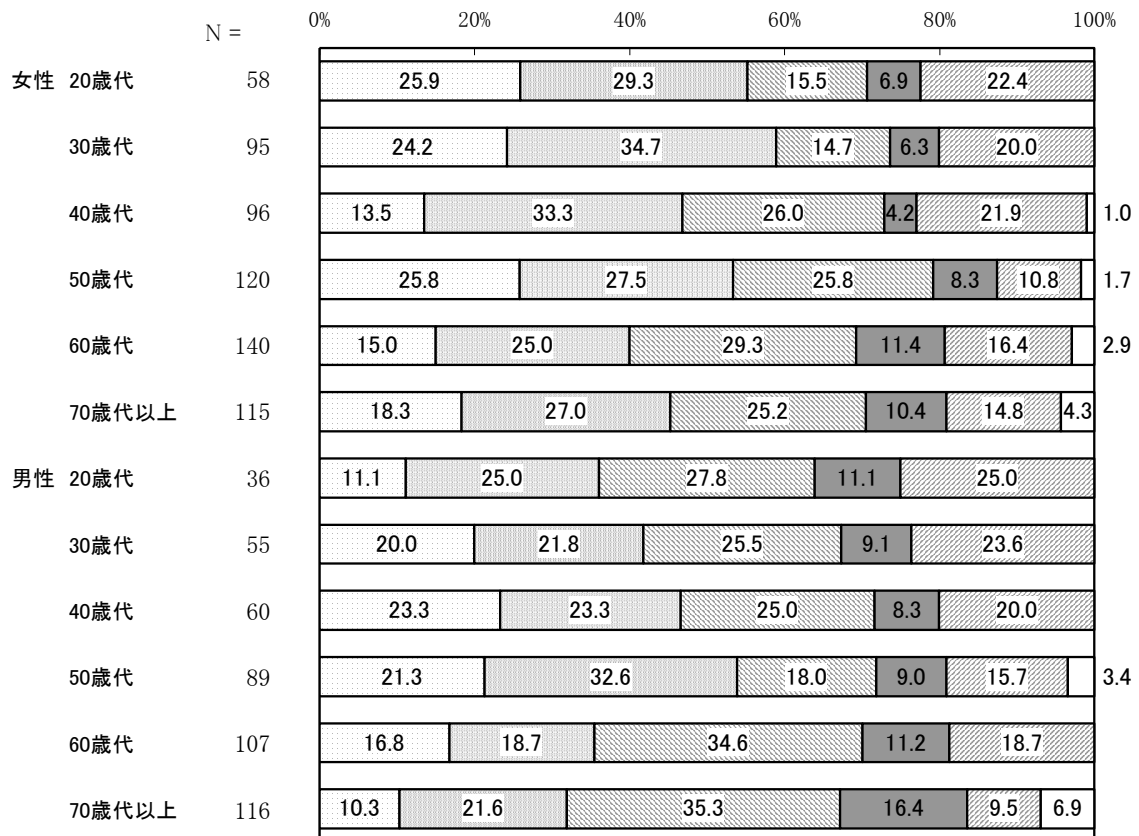
⑤結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい



【性別】



【性年齢別】

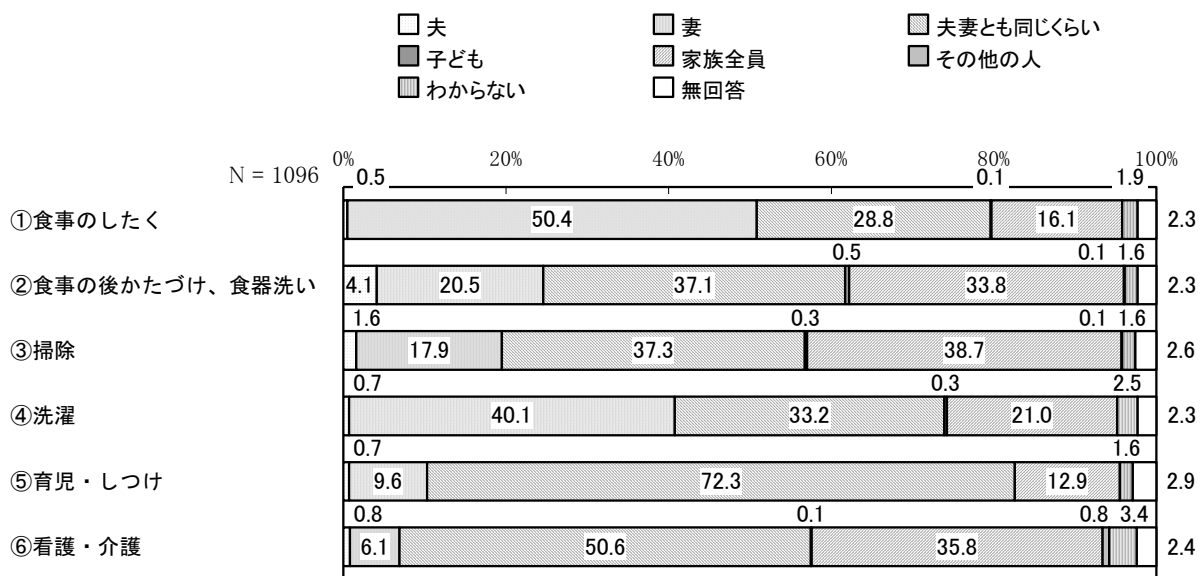


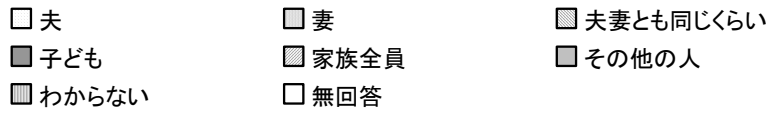
問10 あなたは、次にあげるような家庭内の仕事を、主にだれが分担するのが理想だと思いますか。①から⑥のそれぞれについて（ア）～（キ）の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

「①食事のしたく」、「④洗濯」で「妻」の割合が、「②食事の後かたづけ、食器洗い」、「⑤育児・しつけ」、「⑥看護・介護」で「夫妻とも同じくらい」の割合が、「③掃除」で「家族全員」の割合が最も高くなっています。

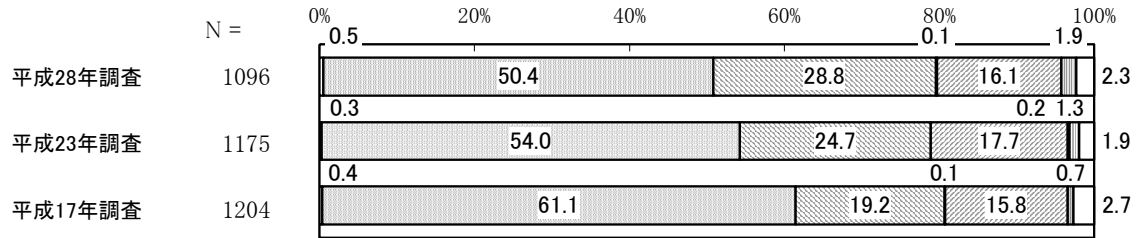
平成23年調査と比較すると、「③掃除」、「④洗濯」で「夫妻とも同じくらい」の割合が高くなっています。また、「③掃除」、「④洗濯」で「妻」の割合が低くなっています。

平成17年調査と比較すると、「①食事のしたく」、「②食事の後かたづけ、食器洗い」、「③掃除」、「④洗濯」で「夫妻とも同じくらい」の割合が高くなっています。

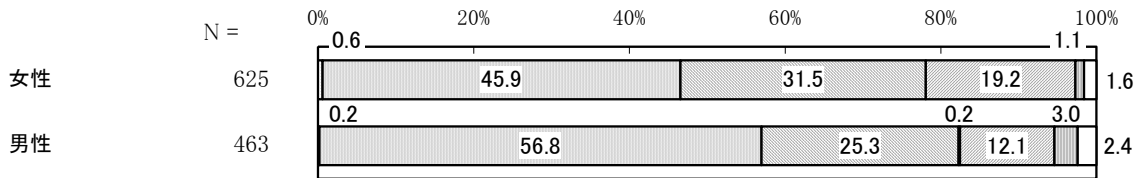




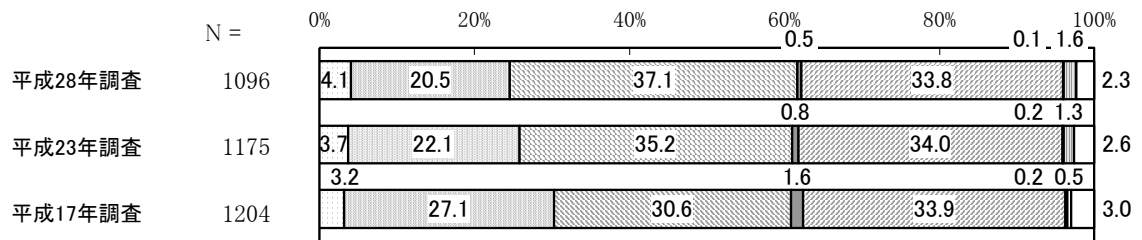
①食事のしたく



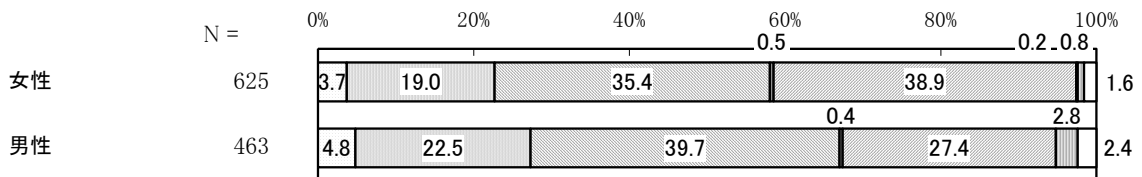
【性別】



②食事の後かたづけ、食器洗い

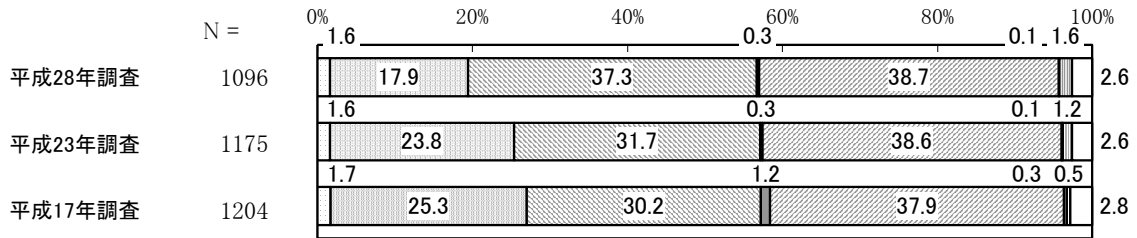


【性別】

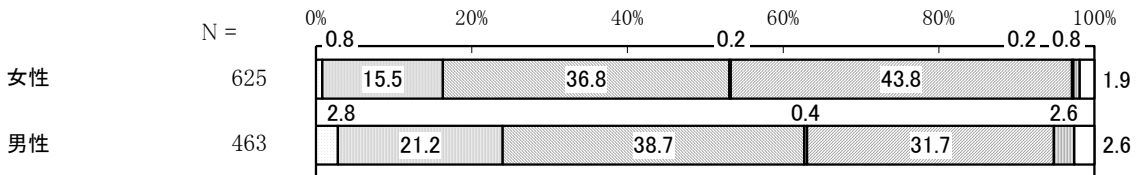


- 夫
- 子ども
- わからない
- 妻
- 家族全員
- 無回答
- 夫妻とも同じくらい
- その他の人

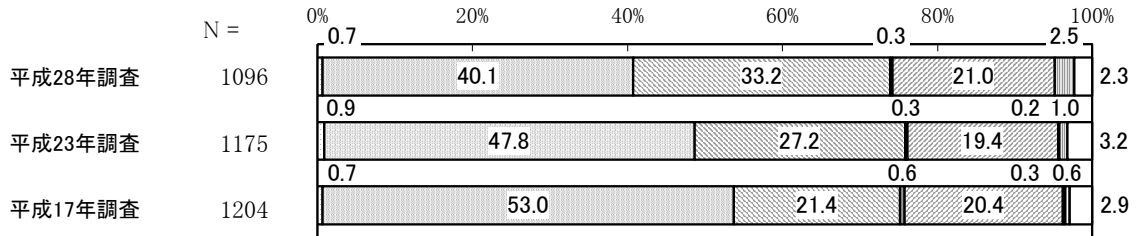
③掃除



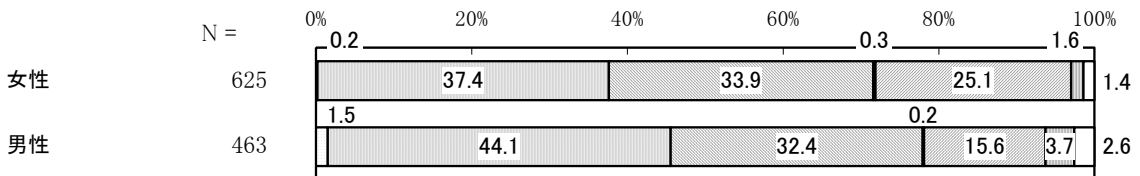
【性別】



④洗濯

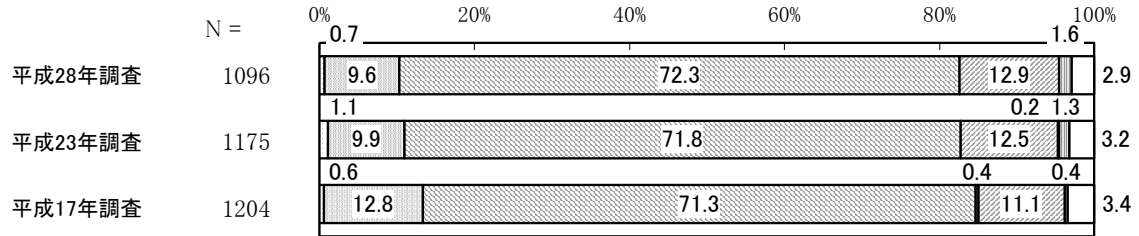


【性別】

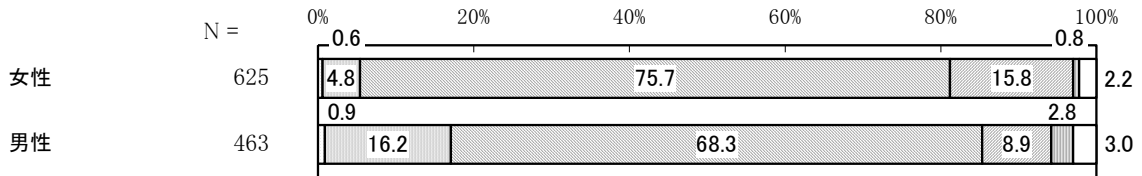


- 夫
- 子ども
- わからない
- 妻
- 家族全員
- 無回答
- 夫妻とも同じくらい
- その他の人

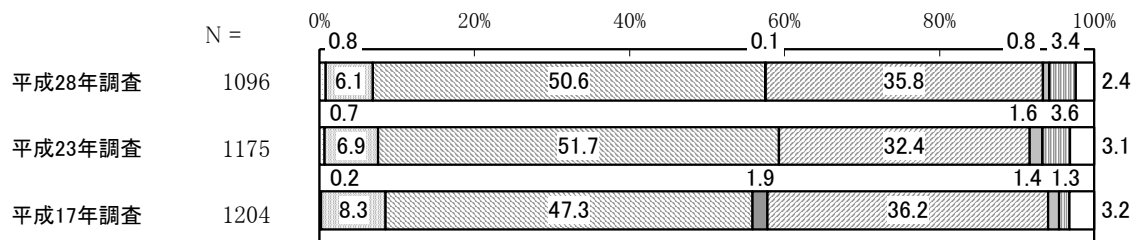
⑤育児・しつけ



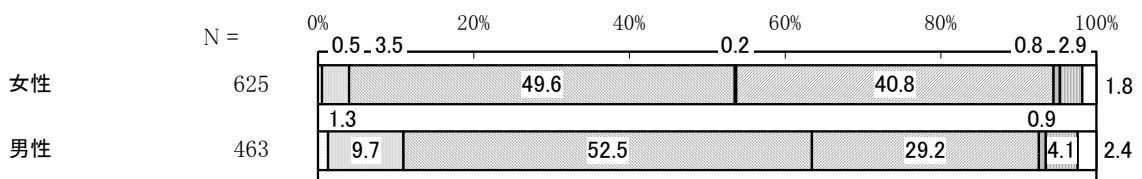
【性別】



⑥看護・介護



【性別】



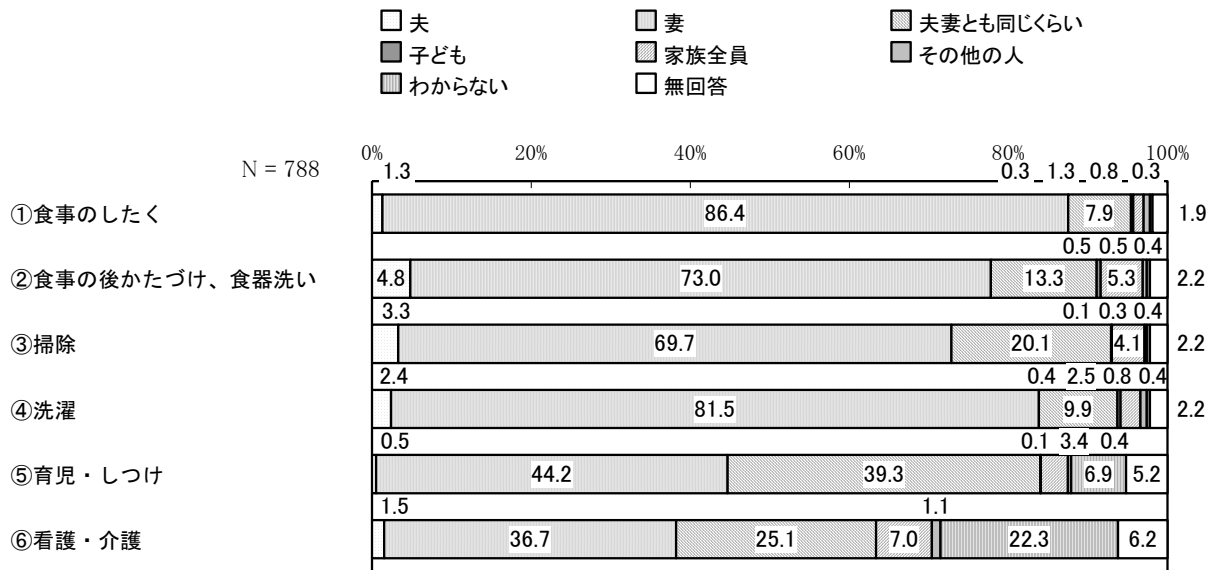
問 11 この設問は、F 4で「2. 既婚（事実婚を含む）」と回答した方にのみおたずねします。あなたの家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、実際に主にだれが分担していますか。①から⑥のそれぞれについて（ア）～（キ）の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

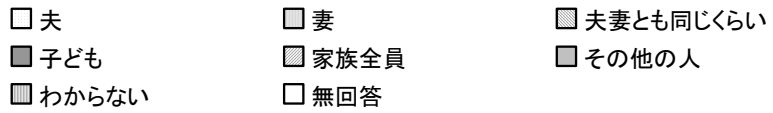
全ての項目で「妻」の割合が最も高くなっています。

平成 23 年調査と比較すると、大きな差異は認められません。

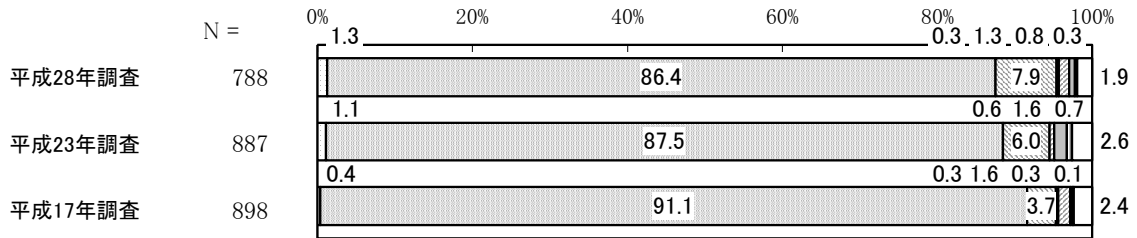
平成 17 年調査と比較すると、「③掃除」で「夫妻とも同じくらい」の割合が高くなっています。

また、「②食事の後かたづけ、食器洗い」で「妻」の割合が低くなっています。

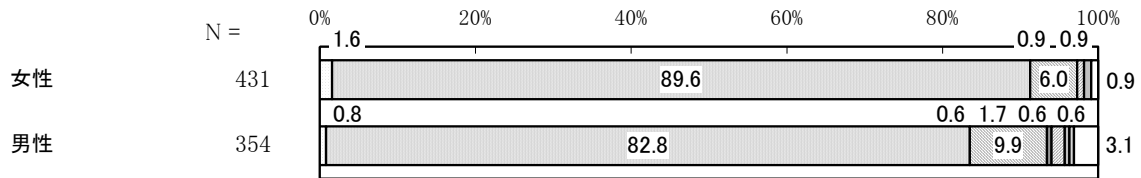




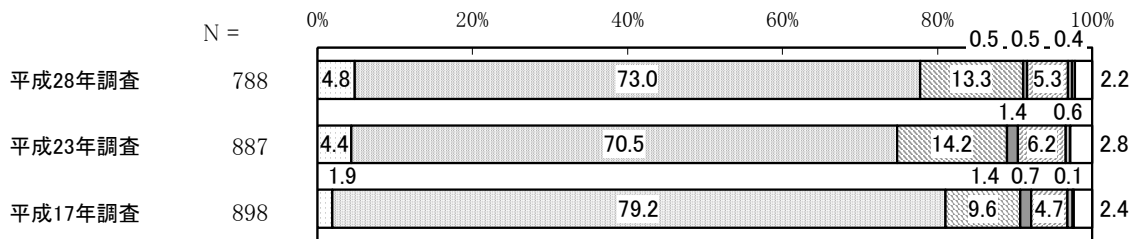
①食事のしたく



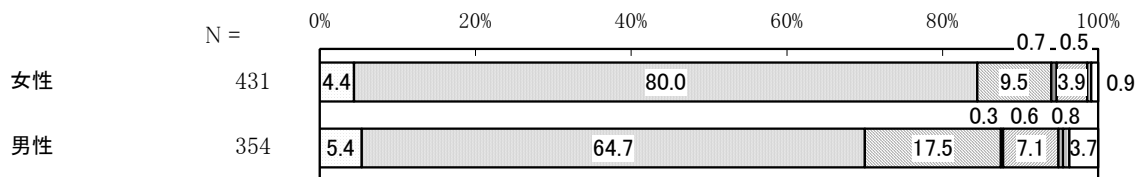
【性別】



②食事の後かたづけ、食器洗い

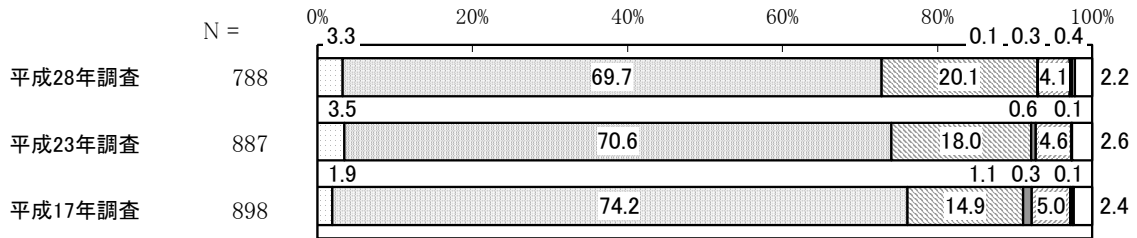


【性別】

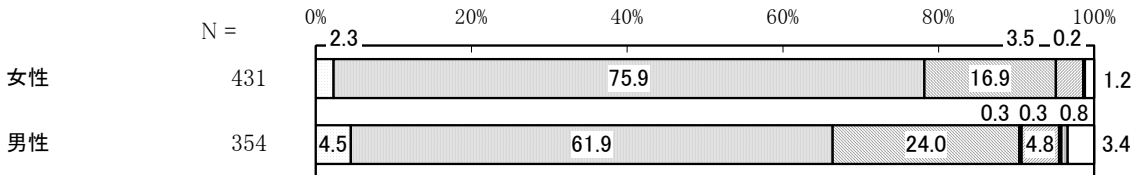


- 夫
- 子ども
- わからない
- 妻
- 家族全員
- 無回答
- 夫妻とも同じくらい
- その他の人

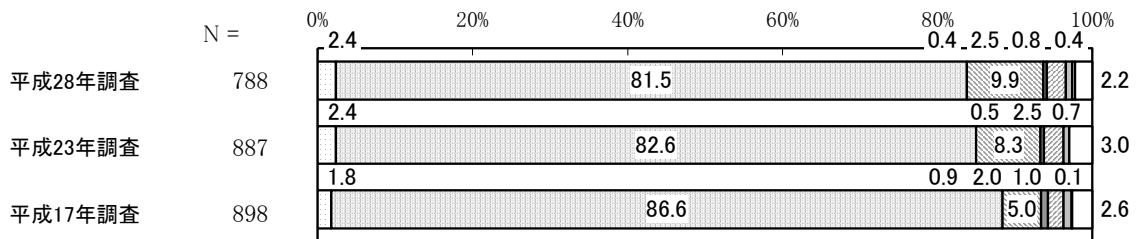
③掃除



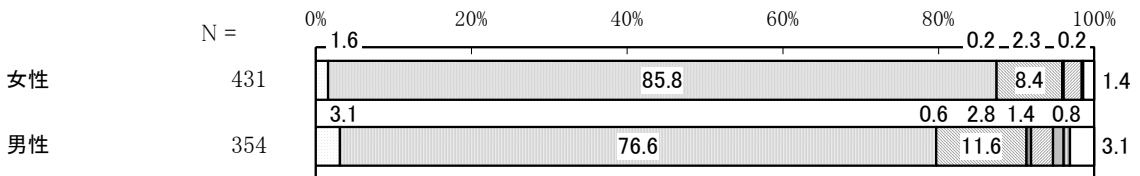
【性別】

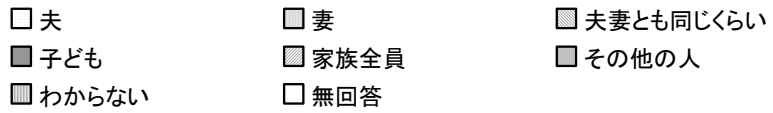


④洗濯

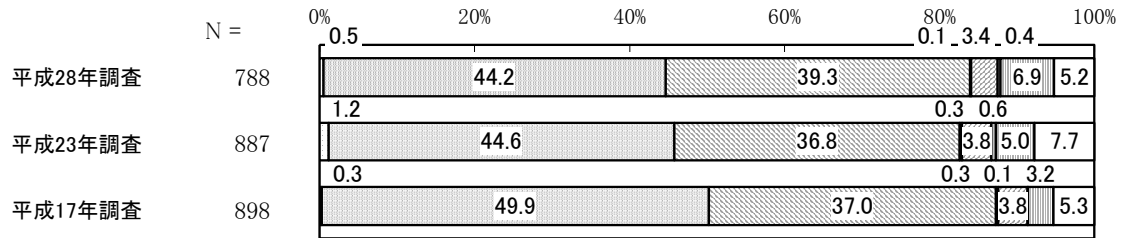


【性別】

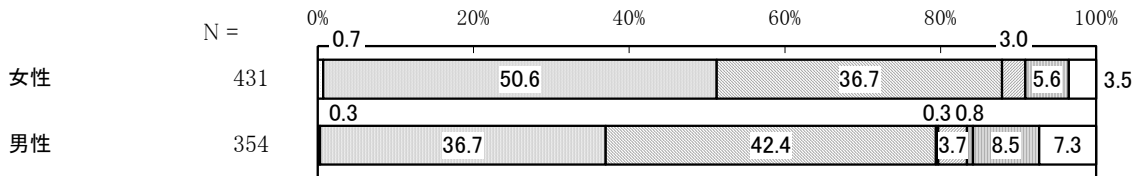




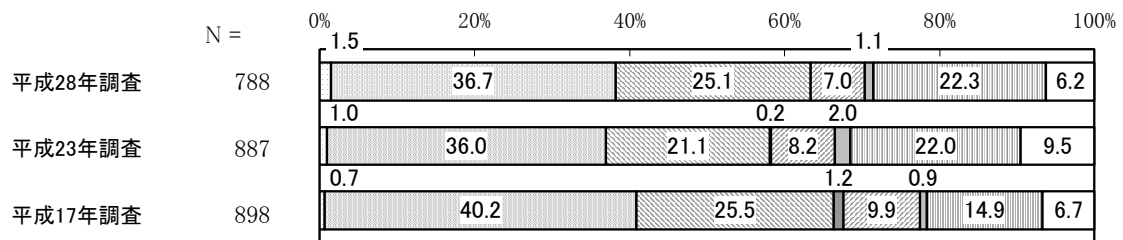
⑤育児・しつけ



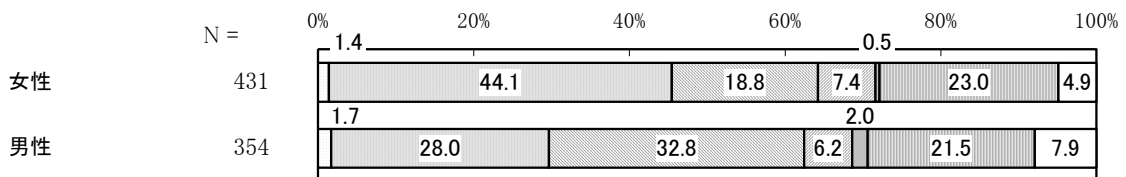
【性別】



⑥看護・介護



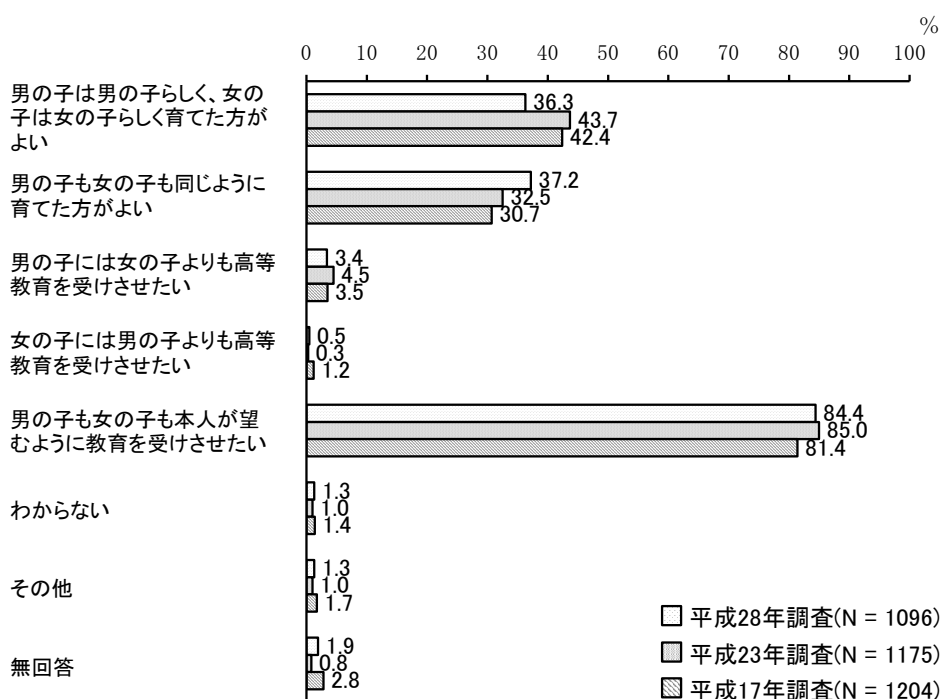
【性別】



問12 あなたは、子育てについて、どのように考えますか。
 次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。
 ※お子さんのいない方もいると仮定してお答えください。

「男の子も女の子も本人が望むように教育を受けさせたい」の割合が84.4%と最も高く、次いで「男の子も女の子も同じように育てた方がよい」の割合が37.2%、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい」の割合が36.3%となっています。

「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい」の割合は、平成17年調査、平成23年調査と比較して、低くなっています。



【性別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい	男の子も女の子も同じように育てた方がよい	男の子には女の子よりも高等教育を受けさせたい	女の子には男の子よりも高等教育を受けさせたい	男の子も女の子も本人が望むように教育を受けさせたい	わからない	その他	無回答
女性	625	26.9	42.1	2.6	0.5	89.1	0.2	1.6	1.3
男性	463	49.0	31.3	4.5	0.4	78.8	2.6	0.9	2.2

【性年齢別】

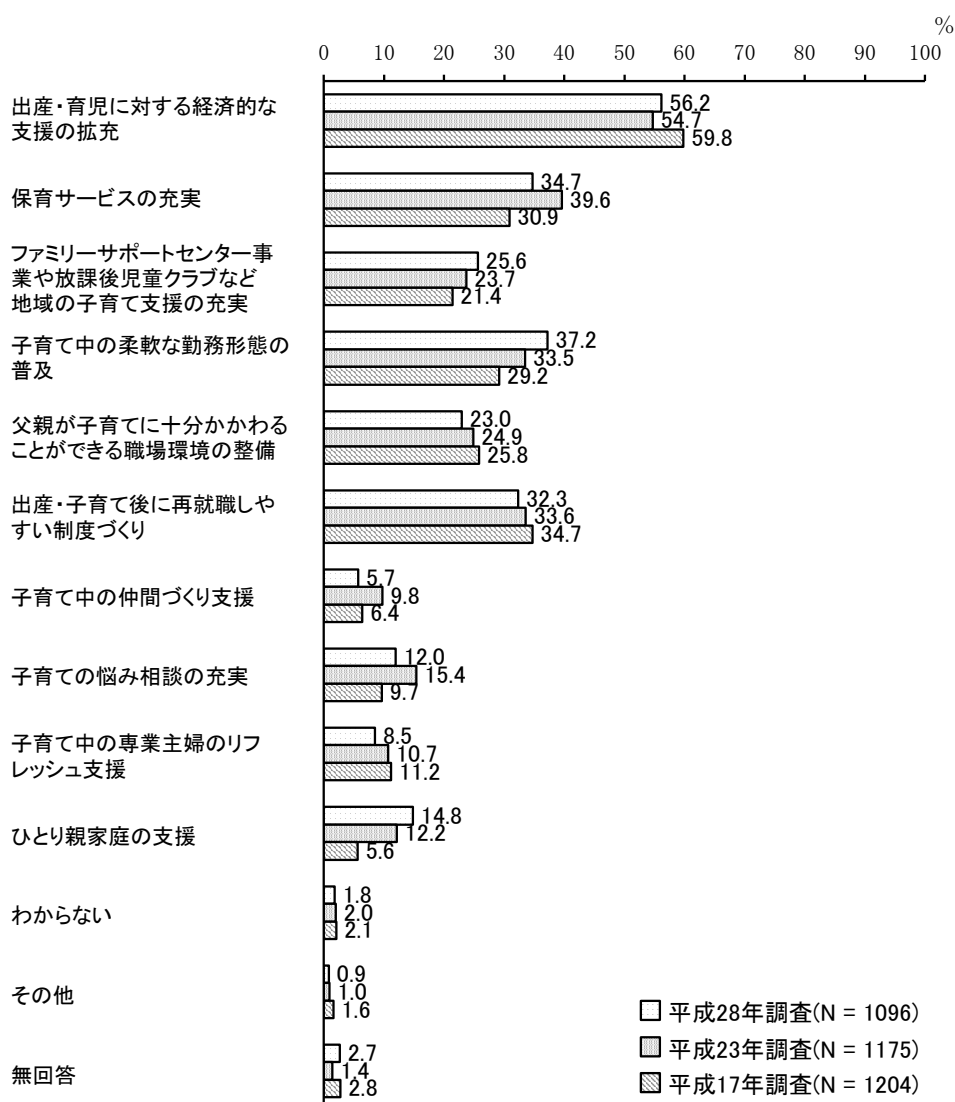
単位：%

区分	有効回答数(件)	男の子は男の子らしく、 女の子は女の子らしく育 てた方がよい	男の子も女の子も同じよ うに育てた方がよい	男の子には女の子よりも 高等教育を受けさせたい	女の子には男の子よりも 高等教育を受けさせたい	男の子も女の子も本人が 望むように教育を受けさ せたい	わからない	その他	無回答
女性 20歳代	58	12.1	50.0	1.7	—	84.5	—	6.9	—
30歳代	95	21.1	36.8	1.1	—	88.4	1.1	3.2	—
40歳代	96	24.0	39.6	3.1	—	90.6	—	—	—
50歳代	120	26.7	43.3	1.7	—	88.3	—	0.8	1.7
60歳代	140	32.1	41.4	4.3	2.1	90.7	—	1.4	—
70歳代以上	115	35.7	44.3	2.6	—	89.6	—	—	5.2
男性 20歳代	36	27.8	25.0	2.8	—	72.2	2.8	—	2.8
30歳代	55	50.9	25.5	3.6	1.8	74.5	5.5	—	1.8
40歳代	60	45.0	25.0	3.3	1.7	81.7	1.7	—	—
50歳代	89	44.9	31.5	4.5	—	74.2	5.6	—	—
60歳代	107	50.5	38.3	3.7	—	84.1	0.9	3.7	0.9
70歳代以上	116	58.6	32.8	6.9	—	80.2	0.9	—	6.0

問13 安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思いますか。
次の中から3つまで（1つでもよい）選んで番号に○をつけてください。

「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」の割合が56.2%と最も高く、次いで「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」の割合が37.2%、「保育サービスの充実」の割合が34.7%となっています。

平成23年調査と比較すると、大きな差異は認められませんが、平成23年調査、平成17年調査と比較すると、「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」、「ひとり親家庭の支援」、「ファミリーサポートセンター事業や放課後児童クラブなど地域の子育て支援の充実」の割合が徐々に高くなっています。



【性別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	出産・育児に対する経 済的な支援の拡充	保育サービスの充実	ファミリーサポートセ ンター事業や放課後児 童クラブなど地域の子 育て支援の充実	子育て中の柔軟な勤務 形態の普及	父親が子育てに十分か かわることができる職 場環境の整備	出産・子育て後に再就 職しやすい制度づくり
女性	625	52.0	32.2	29.4	40.2	24.6	32.5
男性	463	62.4	38.7	20.7	33.5	21.2	32.6

区分	子育て中の仲間づ くり支援	子育ての悩み相談 の充実	子育て中の専業主 婦のリフレッシュ 支援	ひとり親家庭の支 援	わからない	その他	無回答
女性	7.7	13.3	9.4	16.3	1.1	0.5	1.8
男性	3.0	10.4	7.1	13.0	2.6	1.1	3.5

【性年齢別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	出産・育児に対する経 済的な支援の拡充	保育サービスの充実	ファミリーサポートセ ンター事業や放課後児 童クラブなど地域の子 育て支援の充実	子育て中の柔軟な勤務 形態の普及	父親が子育てに十分か かわることができる職 場環境の整備	出産・子育て後に再就 職しやすい制度づくり
女性 20歳代	58	74.1	39.7	15.5	36.2	27.6	29.3
30歳代	95	63.2	37.9	24.2	43.2	40.0	30.5
40歳代	96	52.1	35.4	32.3	42.7	21.9	33.3
50歳代	120	42.5	35.0	33.3	50.8	25.0	34.2
60歳代	140	45.0	27.9	36.4	39.3	17.1	35.7
70歳代以上	115	50.4	23.5	26.1	27.0	20.9	29.6
男性 20歳代	36	55.6	33.3	11.1	30.6	33.3	19.4
30歳代	55	69.1	45.5	12.7	47.3	41.8	18.2
40歳代	60	65.0	36.7	21.7	38.3	20.0	30.0
50歳代	89	62.9	44.9	13.5	33.7	22.5	37.1
60歳代	107	60.7	36.4	27.1	33.6	13.1	35.5
70歳代以上	116	61.2	35.3	26.7	25.0	14.7	38.8

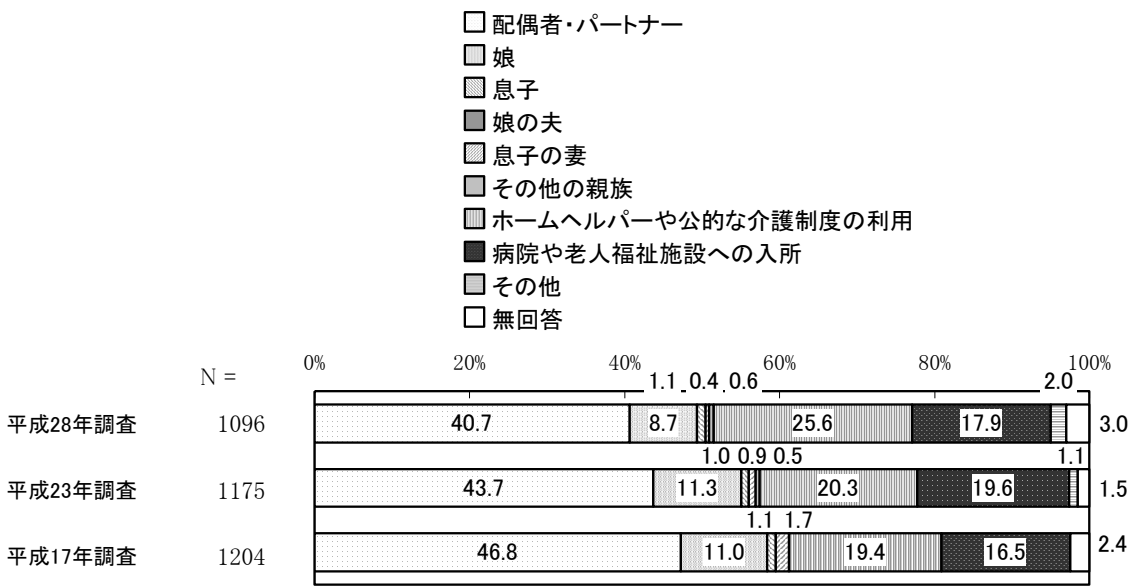
区分	子育て中の仲間づくり 支援	子育ての悩み相談の 充実	子育て中の専業主婦の リフレッシュ支援	ひとり親家庭の支援	わからない	その他	無回答
女性 20歳代	8.6	10.3	12.1	20.7	1.7	1.7	—
30歳代	4.2	7.4	10.5	16.8	1.1	1.1	1.1
40歳代	8.3	14.6	12.5	12.5	1.0	—	2.1
50歳代	8.3	13.3	7.5	15.8	—	0.8	1.7
60歳代	9.3	15.7	8.6	17.9	—	—	1.4
70歳代以上	7.0	15.7	7.0	15.7	3.5	—	3.5
男性 20歳代	5.6	16.7	5.6	11.1	5.6	2.8	5.6
30歳代	3.6	3.6	18.2	7.3	3.6	—	—
40歳代	5.0	8.3	10.0	10.0	—	3.3	3.3
50歳代	4.5	10.1	2.2	18.0	3.4	—	2.2
60歳代	—	15.0	5.6	19.6	1.9	1.9	2.8
70歳代以上	2.6	8.6	6.0	7.8	2.6	—	6.0

問 14 もし、あなたが介護が必要になったら、主にだれに世話をしてもらいたいですか。
次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

「配偶者・パートナー」の割合が40.7%と最も高く、次いで「ホームヘルパーや公的な介護制度の利用」の割合が25.6%、「病院や老人福祉施設への入所」の割合が17.9%となっています。

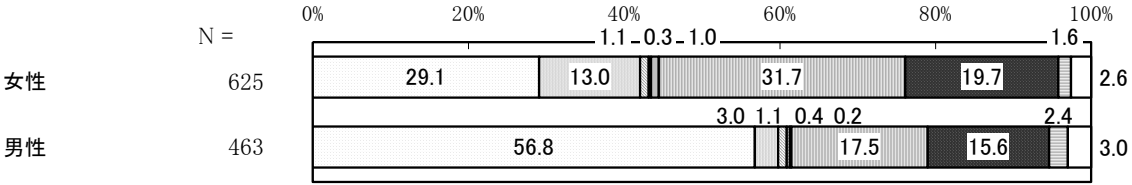
平成23年調査と比較すると、「ホームヘルパーや公的な介護制度の利用」の割合が高くなっています。

平成17年調査と比較すると、「ホームヘルパーや公的な介護制度の利用」の割合が高くなっています。また、「配偶者・パートナー」の割合が低くなっています。



※平成17年調査は1.0%未満の数値が省略されていました。

【性別】

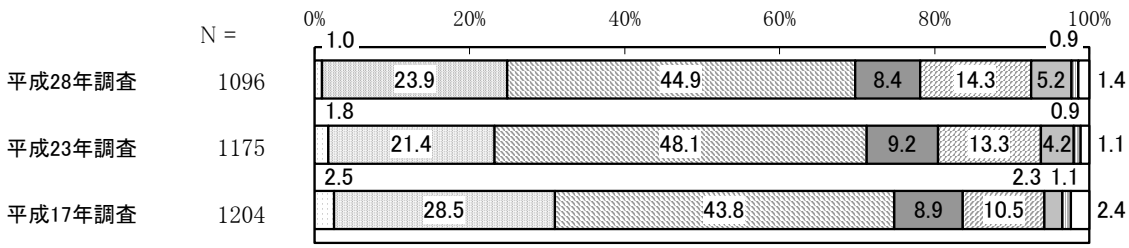


問 15 あなたは、高齢者介護が女性の役割となりがちである現状についてどのように考えますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

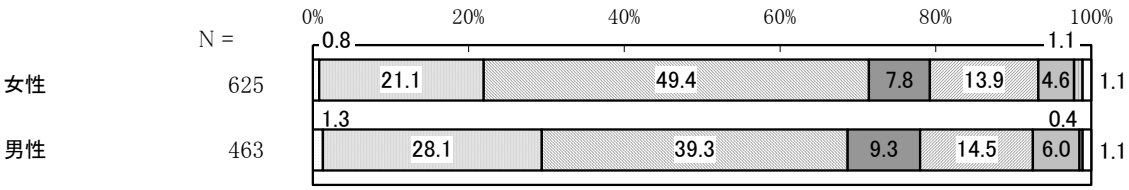
「男性も女性とともに介護すべきである」の割合が44.9%と最も高く、次いで「問題があるが、現状ではやむをえない」の割合が23.9%、「原則として介護は社会が行うべきである」の割合が14.3%となっています。

平成17年調査、平成23年調査と比較すると、大きな差異は認められません。

- 女性の役割だと思う
- 問題があるが、現状ではやむをえない
- 男性も女性とともに介護すべきである
- 男女にかかわらず、主に実の子どもが介護すべきである
- 原則として介護は社会が行うべきである
- わからない
- その他
- 無回答

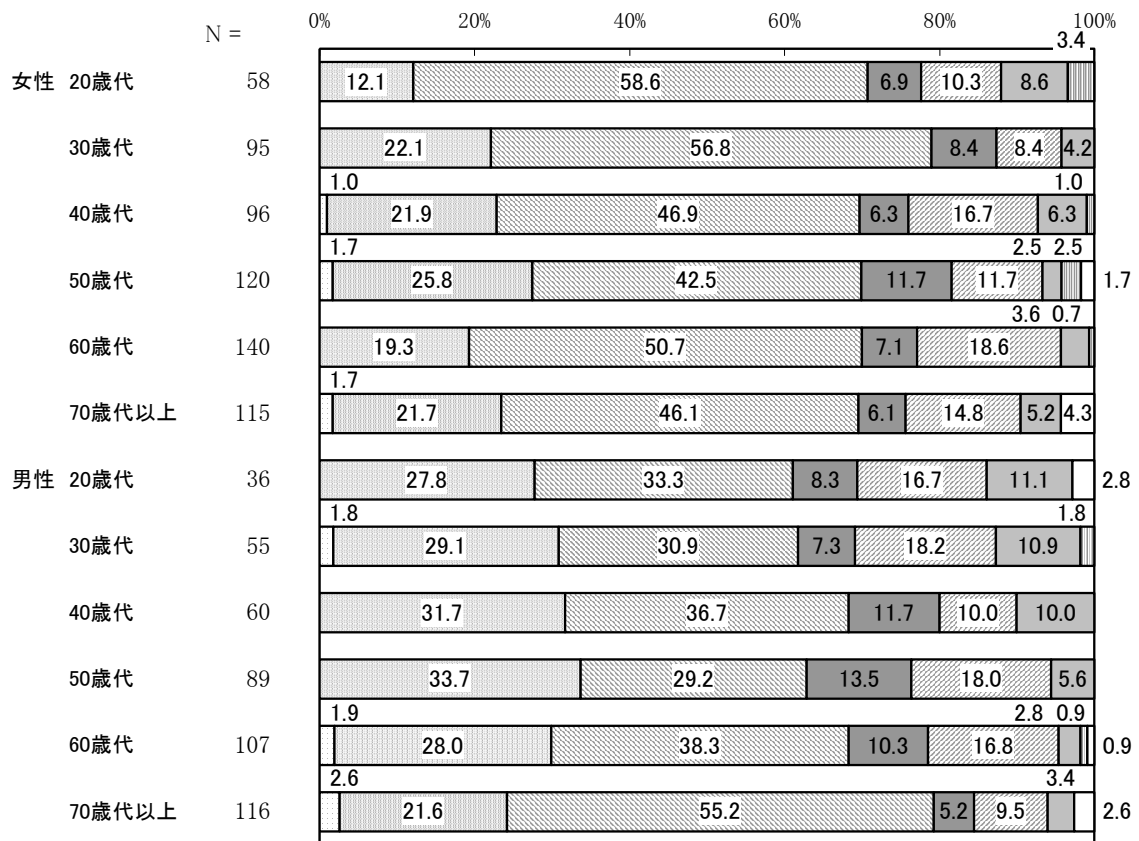


【性別】



【性年齢別】

- 女性の役割だと思う
- 問題があるが、現状ではやむをえない
- 男性も女性とともに介護するべきである
- 男女にかかわらず、主に実の子どもが介護するべきである
- 原則として介護は社会が行うべきである
- わからない
- その他
- 無回答



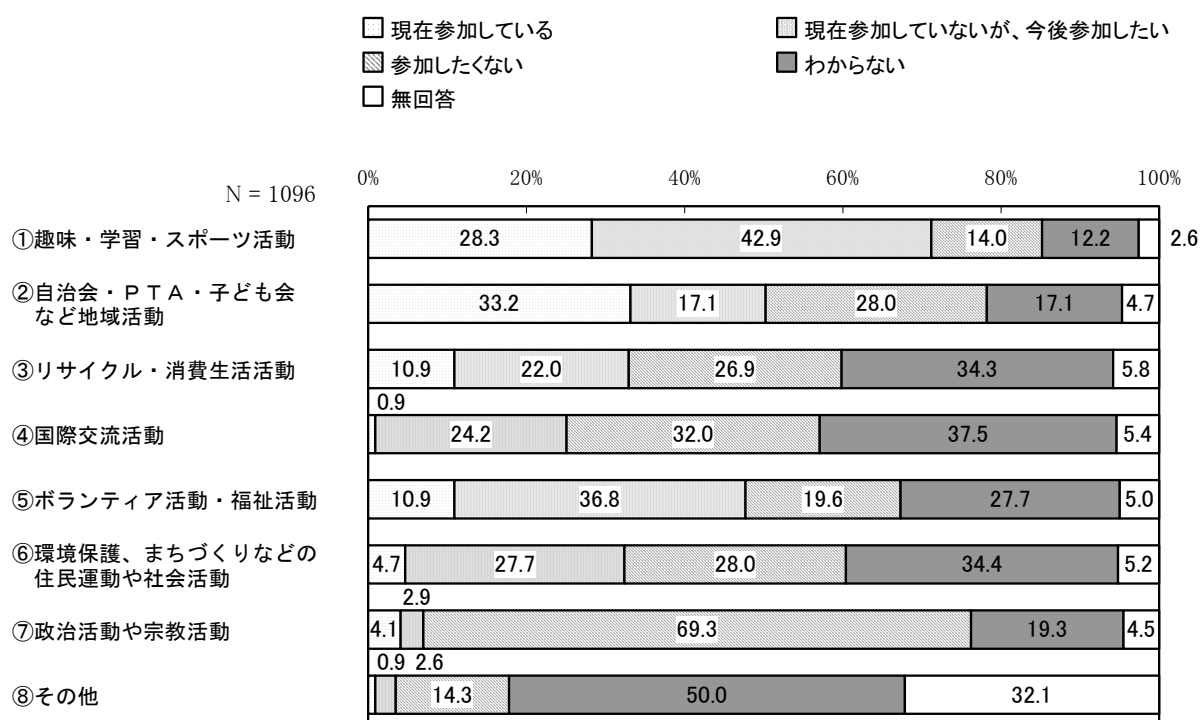
(5) 社会参加について

問 16 あなたは、次のような活動に参加していますか。また、今後参加したい活動はありますか。①から⑧のそれぞれについて（ア）～（エ）の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

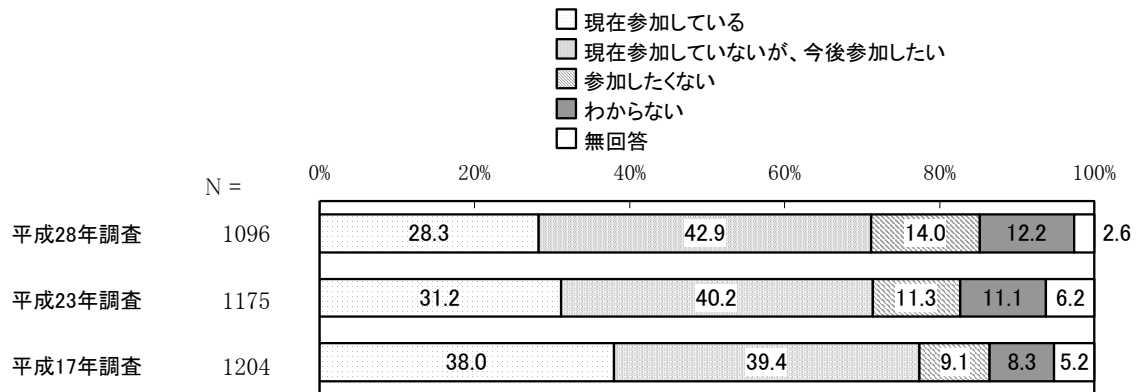
「②自治会・PTA・子ども会など地域活動」で「現在参加している」の割合が、「①趣味・学習・スポーツ活動」、「⑤ボランティア活動・福祉活動」で「現在参加していないが、今後参加したい」の割合が、「③リサイクル・消費生活活動」、「④国際交流活動」、「⑥環境保護、まちづくりなどの住民運動や社会活動」、「⑦政治活動や宗教活動」で「参加したくない」の割合が最も高くなっています。

平成 23 年調査と比較すると、「⑥環境保護、まちづくりなどの住民運動や社会活動」で「参加したくない」の割合が高くなっています。

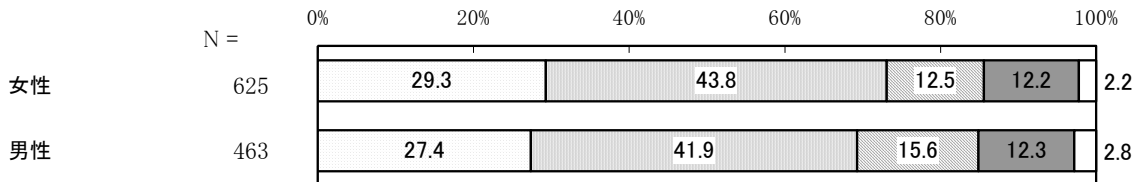
平成 17 年調査と比較すると、「①趣味・学習・スポーツ活動」で「現在参加している」の割合が、「③リサイクル・消費生活活動」、「⑥環境保護、まちづくりなどの住民運動や社会活動」で「現在参加していないが、今後参加したい」の割合が低くなっています。



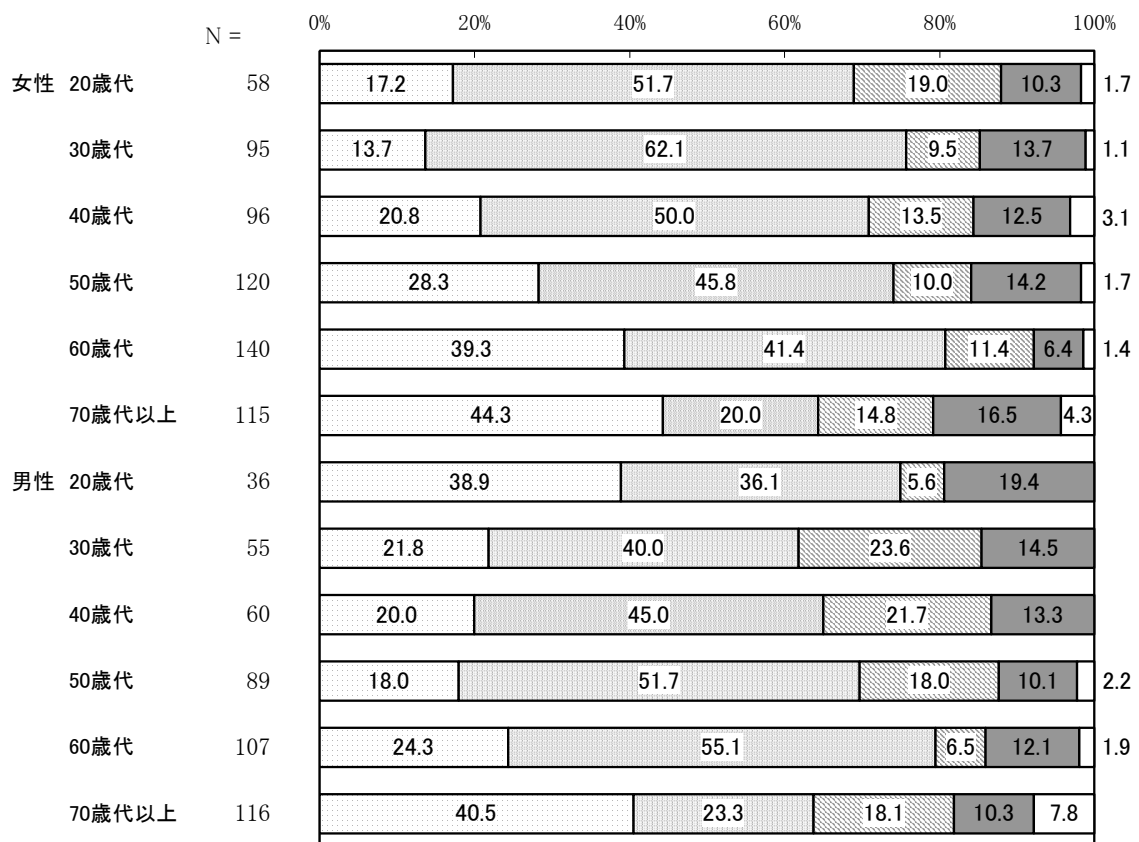
①趣味・学習・スポーツ活動



【性別】



【性年齢別】

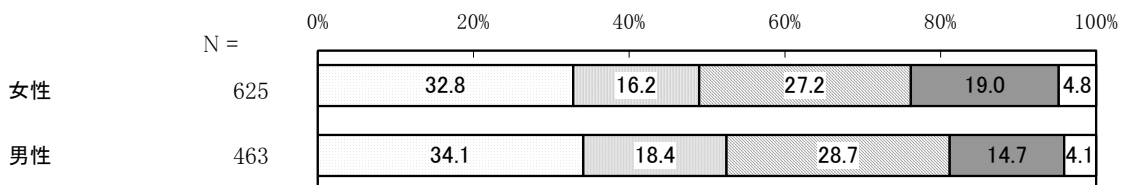


②自治会・PTA・子ども会など地域活動

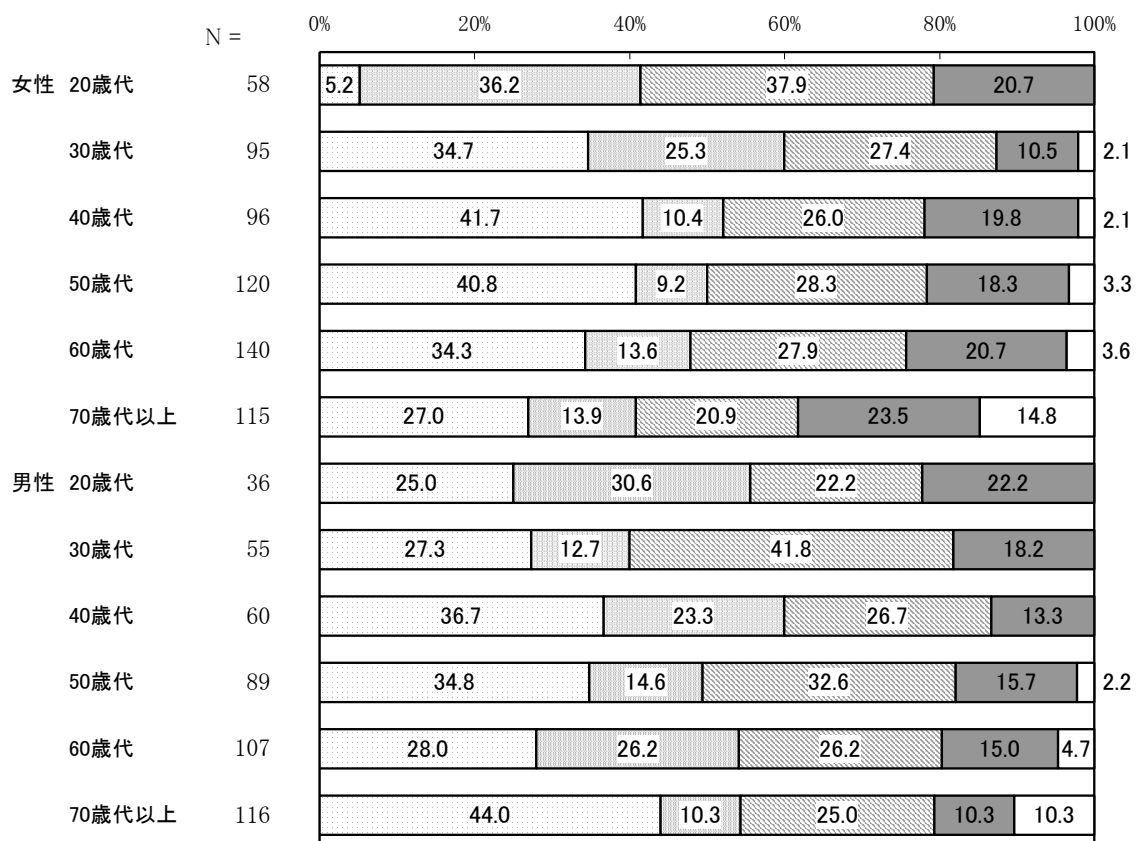
- 現在参加している
- 現在参加していないが、今後参加したい
- 参加したくない
- わからない
- 無回答



【性別】

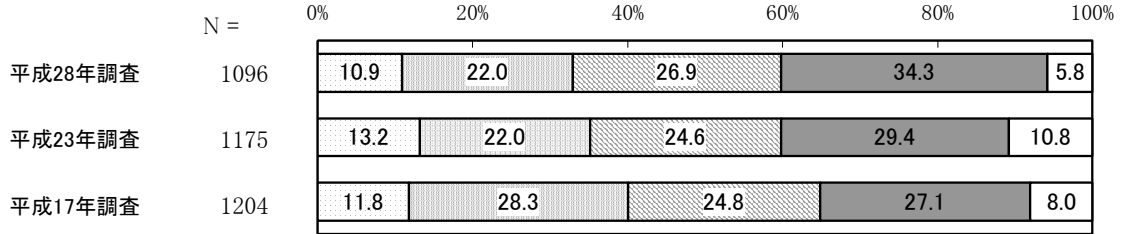


【性年齢別】

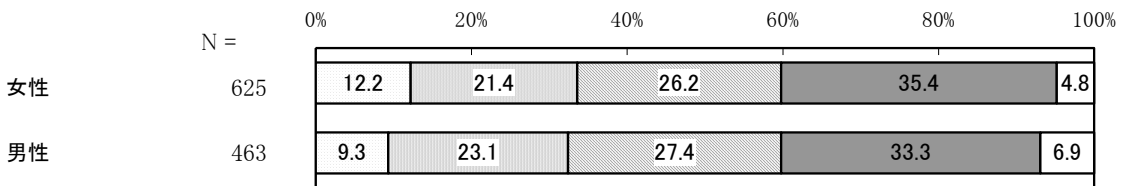


③リサイクル・消費生活活動

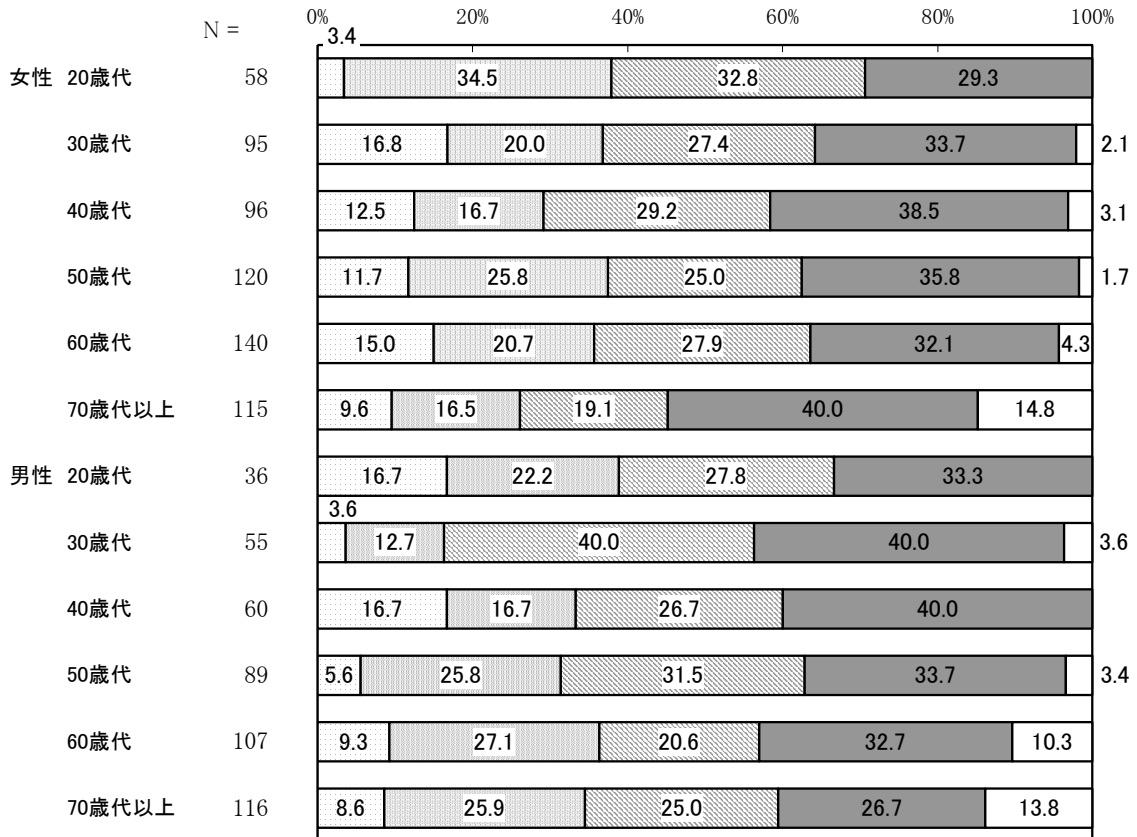
- 現在参加している
- 現在参加していないが、今後参加したい
- 参加したくない
- わからない
- 無回答



【性別】

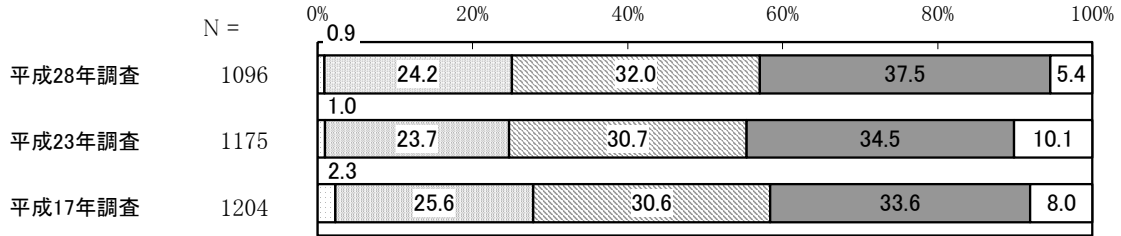


【性年齢別】

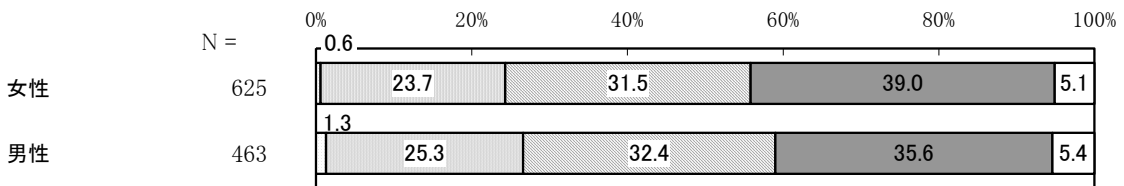


④国際交流活動

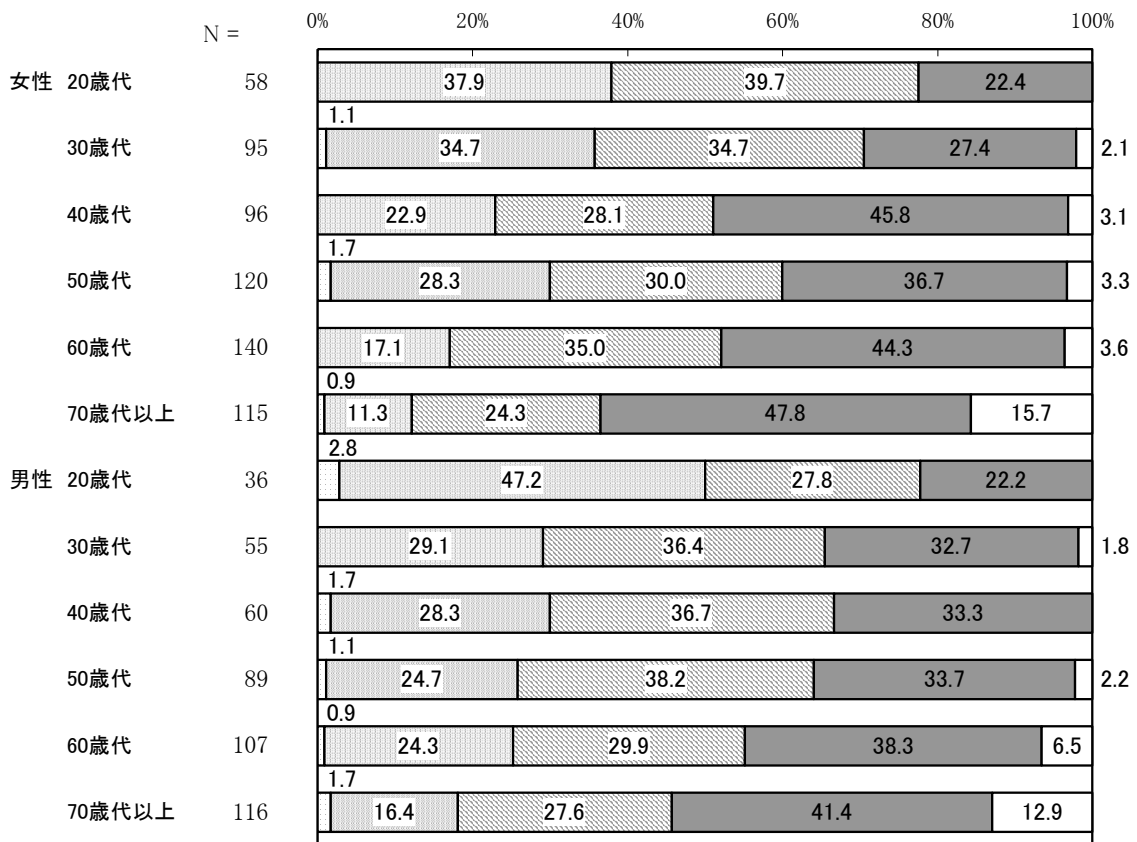
- 現在参加している
- 現在参加していないが、今後参加したい
- 参加したくない
- わからない
- 無回答



【性別】

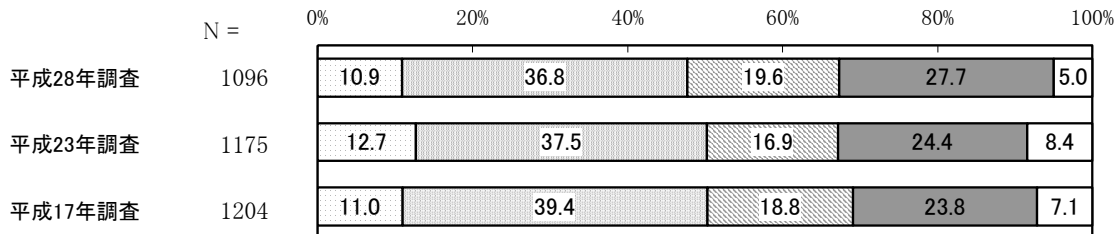


【性年齢別】

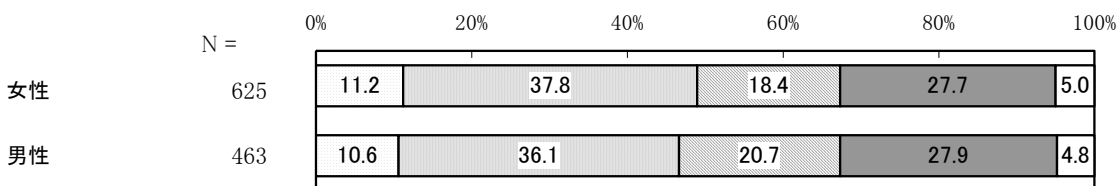


⑤ ボランティア活動・福祉活動

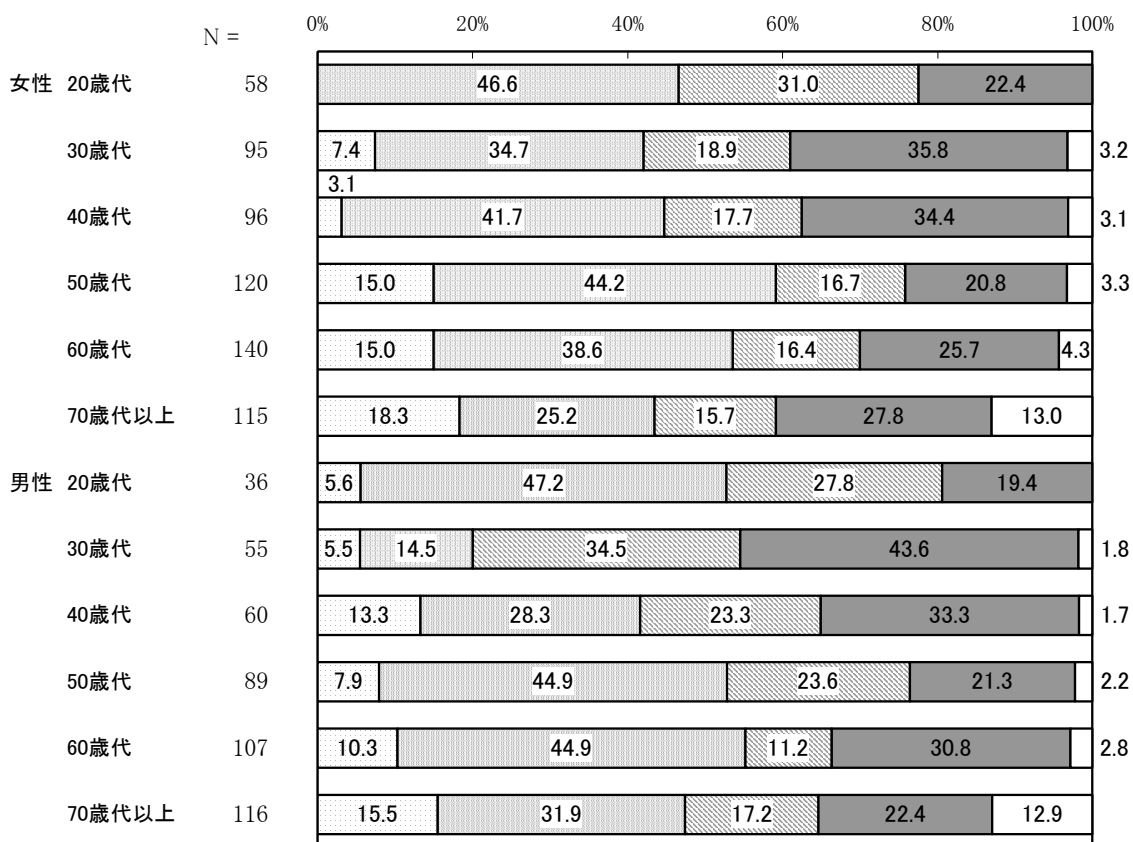
- 現在参加している
- 現在参加していないが、今後参加したい
- 参加したくない
- わからない
- 無回答



【性別】

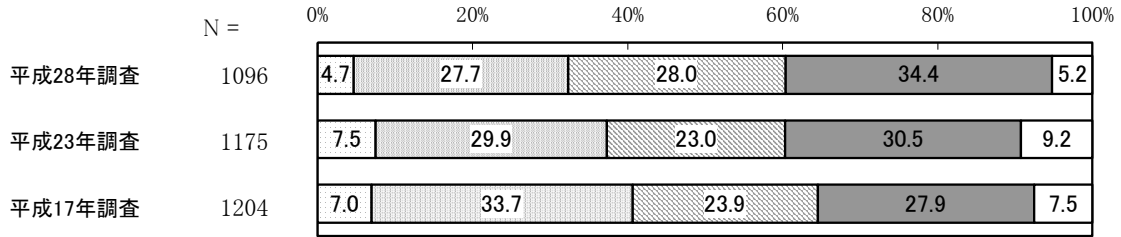


【性年齢別】

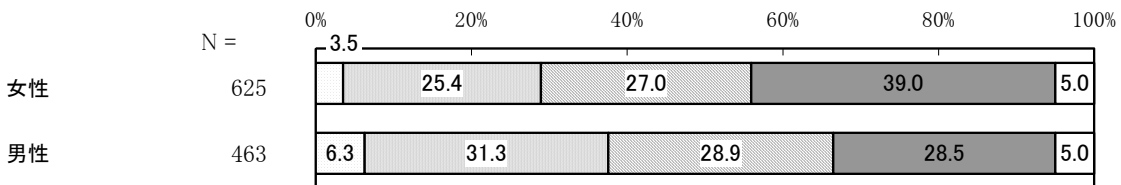


⑥環境保護、まちづくりなどの住民運動や社会活動

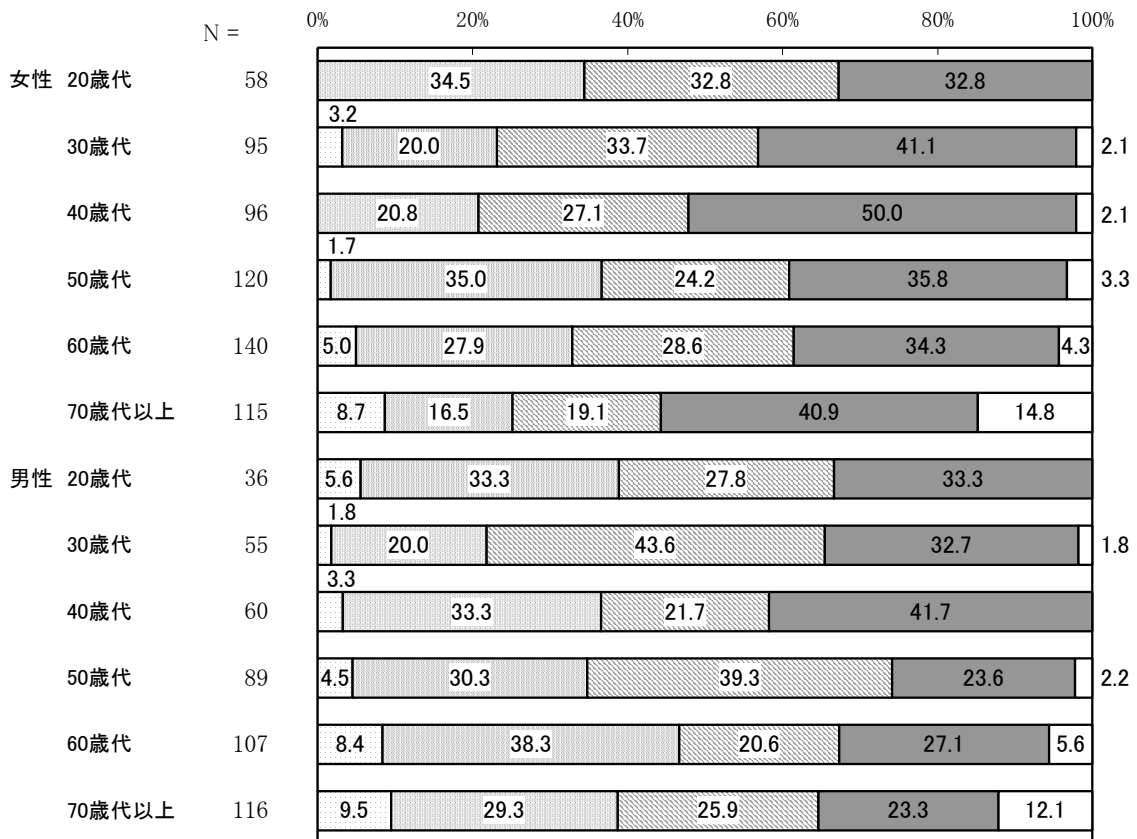
- 現在参加している
- 現在参加していないが、今後参加したい
- 参加したくない
- わからない
- 無回答



【性別】

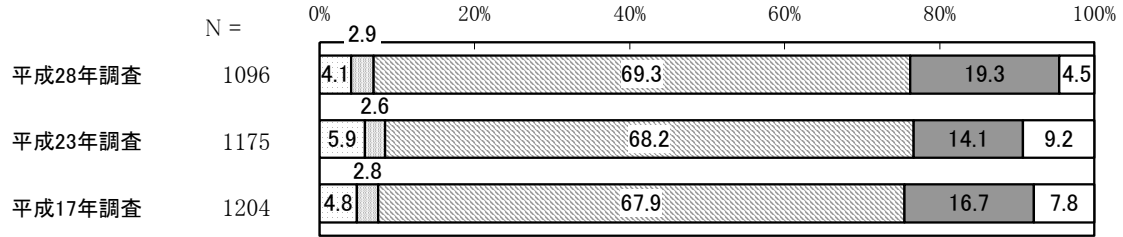


【性年齢別】

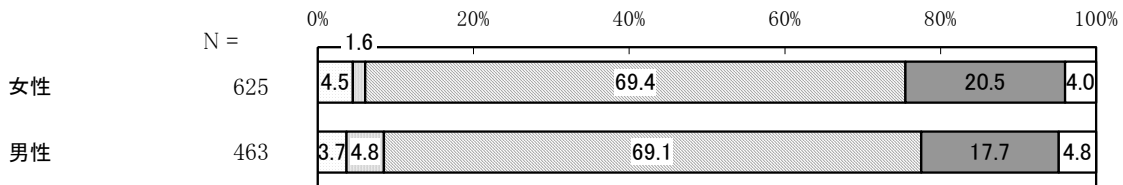


⑦政治活動や宗教活動

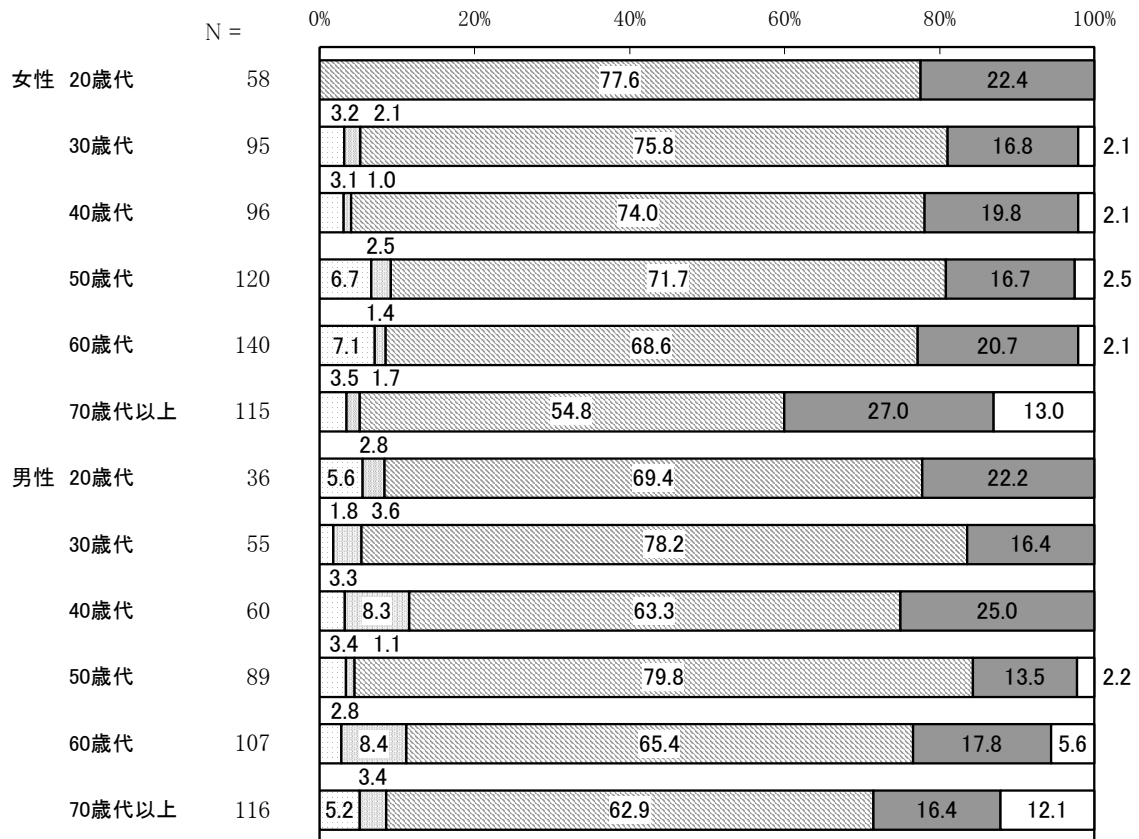
- 現在参加している
- 現在参加していないが、今後参加したい
- 参加したくない
- わからない
- 無回答



【性別】

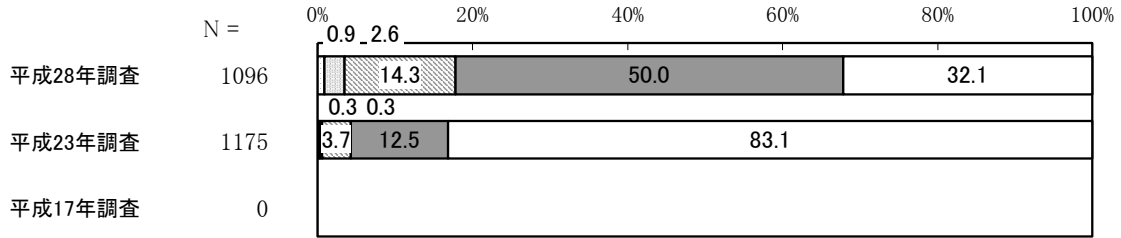


【性年齢別】

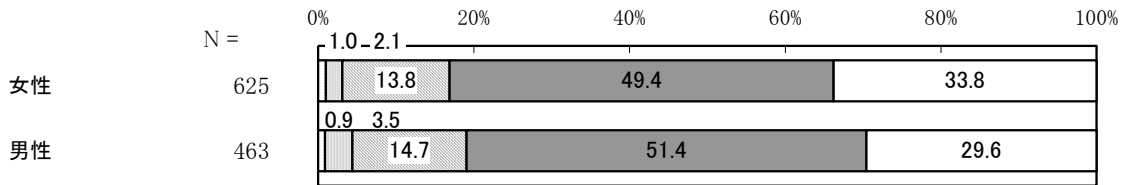


⑧その他

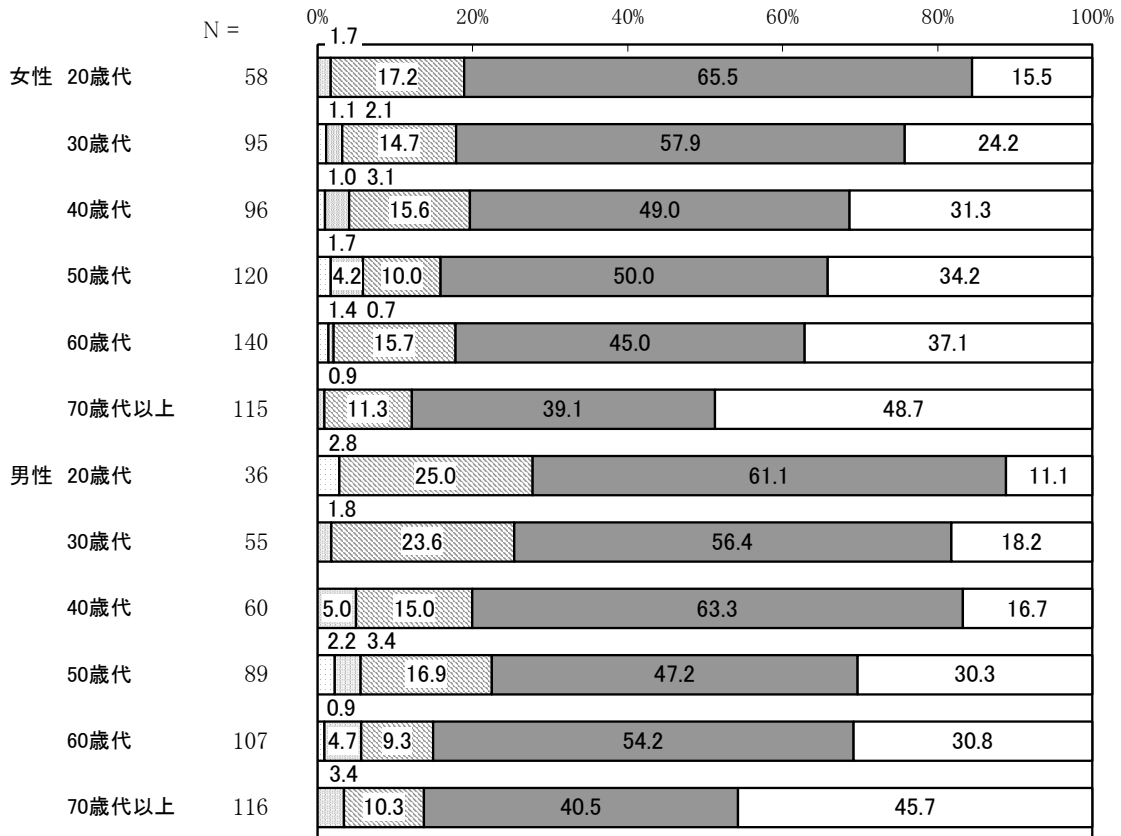
- 現在参加している
- 現在参加していないが、今後参加したい
- 参加したくない
- わからない
- 無回答



【性別】



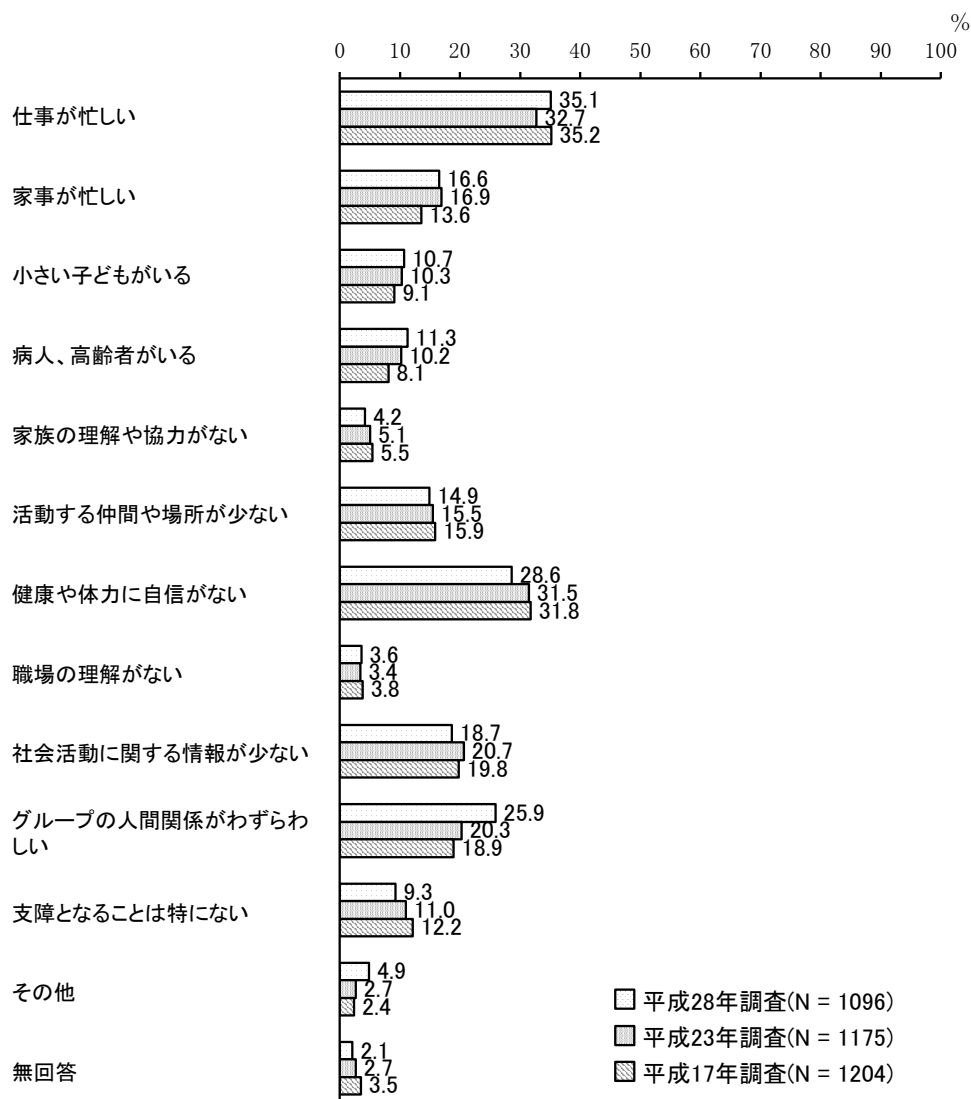
【性年齢別】



問17 あなたが社会活動に参加しようとする上で、支障となることはどのようなことですか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「仕事が忙しい」の割合が35.1%と最も高く、次いで「健康や体力に自信がない」の割合が28.6%、「グループの人間関係がわずらわしい」の割合が25.9%となっています。

平成17年調査、平成23年調査と比較すると、「グループの人間関係がわずらわしい」の割合が高くなっています。



【性別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	仕事が忙しい	家事が忙しい	小さい子どもがいる	病人、高齢者がいる	家族の理解や協力が ない	活動する仲間や場所 が少ない	健康や体力に自信が ない	職場の理解がない	社会活動に関する情 報が少ない	グループの人間関係 がわずらわしい	支障となることは特 にない	その他	無回答
女性	625	28.8	24.0	13.9	13.3	5.6	14.2	31.4	2.2	18.6	25.6	7.0	5.9	2.1
男性	463	44.1	6.9	6.5	8.4	2.4	16.0	24.6	5.4	19.0	26.6	12.5	3.5	1.7

【性年齢別】

単位：％

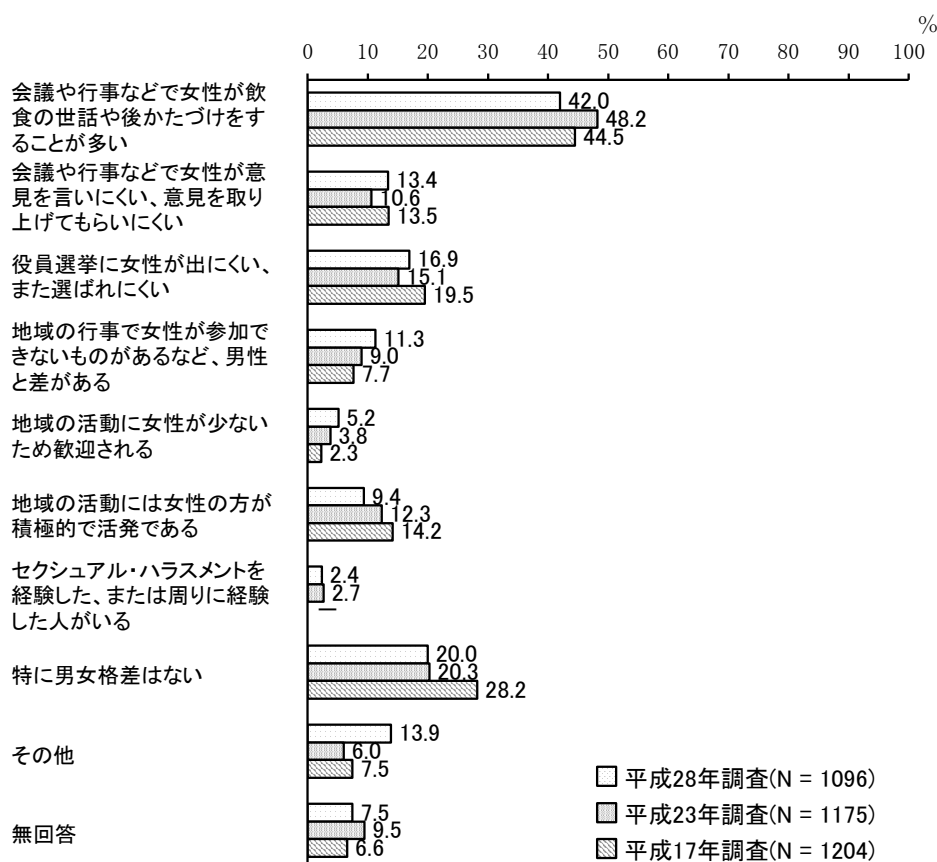
区分	有効回答数 (件)	仕事が忙しい	家事が忙しい	小さい子どもがいる	病人、高齢者がいる	家族の理解や協力が ない	活動する仲間や場所 が少ない	健康や体力に自信が ない	職場の理解がない	社会活動に関する情 報が少ない	グループの人間関係 がわずらわしい	支障となることは特 にない	その他	無回答
女性 20歳代	58	37.9	20.7	29.3	—	3.4	24.1	13.8	3.4	29.3	29.3	6.9	8.6	—
30歳代	95	44.2	43.2	46.3	7.4	9.5	15.8	9.5	5.3	24.2	22.1	4.2	7.4	1.1
40歳代	96	43.8	32.3	20.8	11.5	5.2	10.4	30.2	5.2	15.6	36.5	4.2	4.2	1.0
50歳代	120	43.3	26.7	1.7	22.5	5.0	13.3	25.8	1.7	19.2	28.3	8.3	6.7	—
60歳代	140	10.7	17.1	2.1	16.4	6.4	12.9	37.1	—	17.1	25.0	10.7	5.7	2.1
70歳代以上	115	6.1	8.7	0.9	13.0	3.5	13.9	58.3	—	12.2	14.8	6.1	4.3	7.0
男性 20歳代	36	77.8	13.9	11.1	8.3	—	27.8	8.3	13.9	33.3	33.3	5.6	—	—
30歳代	55	70.9	14.5	27.3	1.8	7.3	7.3	3.6	9.1	16.4	29.1	5.5	1.8	—
40歳代	60	68.3	3.3	15.0	10.0	5.0	15.0	11.7	5.0	13.3	16.7	11.7	5.0	—
50歳代	89	60.7	6.7	1.1	11.2	2.2	15.7	22.5	9.0	18.0	34.8	5.6	2.2	1.1
60歳代	107	29.9	8.4	0.9	10.3	1.9	20.6	25.2	1.9	25.2	30.8	15.0	2.8	1.9
70歳代以上	116	8.6	1.7	—	6.9	—	12.9	47.4	1.7	13.8	18.1	21.6	6.0	4.3

問18 あなたの住んでいる地域（自治会など）で、現在次のようなことがありますか。
次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」の割合が42.0%と最も高く、次いで「特に男女格差はない」の割合が20.0%、「役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい」の割合が16.9%となっています。

平成23年調査と比較すると、「会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い」の割合が低くなっています。

平成17年調査と比較すると、「特に男女格差はない」の割合が低くなっています。



【性別】

単位：％

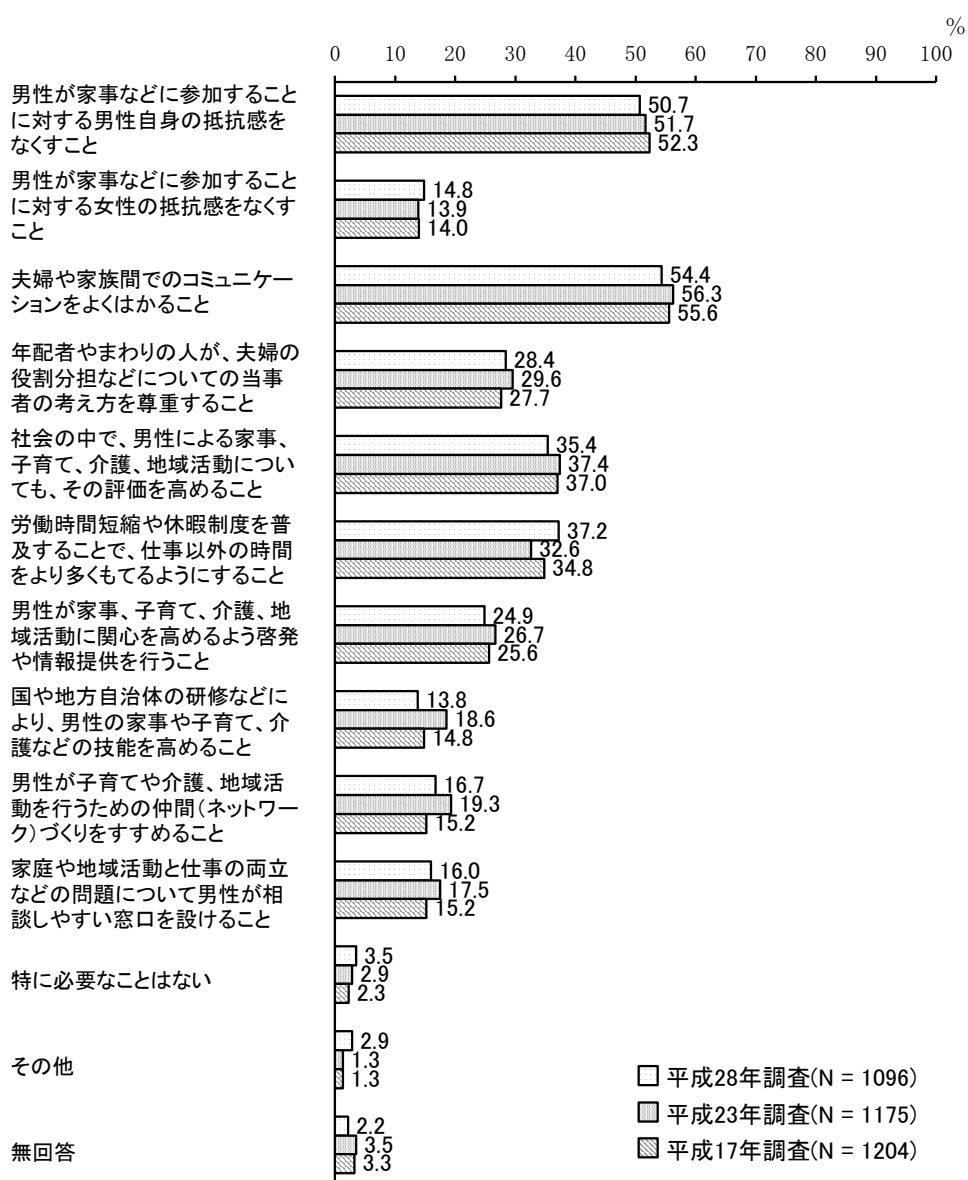
区分	有効回答数(件)	会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い	会議や行事などで女性が意見を言いにくい、意見をとり上げてもらいにくい	役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい	地域の行事で女性に参加できないものがあるなど、男性と差がある	地域の活動に女性が少ないため歓迎される
女性	625	45.6	14.4	14.4	12.6	4.2
男性	463	37.8	12.3	20.5	9.7	6.7

区分	地域の活動には女性の方が積極的に活発である	セクシュアル・ハラスメントを経験した、または周りに経験した人がある	特に男女格差はない	その他	無回答
女性	6.7	2.9	17.3	15.4	8.3
男性	13.2	1.7	23.5	11.4	5.8

問 19 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が54.4%と最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が50.7%、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」の割合が37.2%となっています。

平成17年調査、平成23年調査と比較すると、大きな差異は認められません。



【性別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	国や地方自治体の研修などにより、男性の家事や子育て、介護などの技能を高めること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間(ネットワーク)づくりをすすめること	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について男性が相談しやすい窓口を設けること	特に必要なことはない	その他	無回答
女性	625	57.1	16.5	56.2	33.3	38.9	37.3	26.9	13.8	19.0	17.8	2.7	2.2	1.0
男性	463	42.8	12.5	52.1	22.0	31.1	37.6	22.5	13.8	13.6	13.6	4.1	3.7	3.5

【性年齢別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	男性が家事などに参加することに對する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することに對する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについて、当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること
女性 20歳代	58	63.8	20.7	65.5	50.0	46.6	70.7
30歳代	95	63.2	22.1	65.3	40.0	50.5	45.3
40歳代	96	60.4	18.8	53.1	35.4	34.4	45.8
50歳代	120	57.5	12.5	55.8	35.0	40.8	39.2
60歳代	140	51.4	9.3	56.4	22.1	30.0	21.4
70歳代以上	115	52.2	20.0	47.0	28.7	38.3	23.5
男性 20歳代	36	44.4	13.9	61.1	22.2	25.0	38.9
30歳代	55	45.5	18.2	60.0	20.0	40.0	47.3
40歳代	60	30.0	15.0	55.0	31.7	30.0	48.3
50歳代	89	33.7	11.2	46.1	14.6	29.2	43.8
60歳代	107	47.7	10.3	50.5	22.4	28.0	35.5
70歳代以上	116	50.0	11.2	50.0	23.3	33.6	24.1

区分	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	国や地方自治体の研修などにより、男性の家事や子育て、介護などの技能を高めること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間(ネットワーク)づくりをすすめること	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について男性が相談しやすい窓口を設けること	特に必要なことはない	その他	無回答
女性 20歳代	27.6	20.7	15.5	29.3	1.7	3.4	—
30歳代	40.0	18.9	21.1	21.1	1.1	—	—
40歳代	26.0	12.5	24.0	14.6	2.1	1.0	1.0
50歳代	24.2	12.5	20.0	15.0	1.7	4.2	—
60歳代	20.7	8.6	17.1	13.6	4.3	1.4	2.1
70歳代以上	26.1	13.9	16.5	20.0	4.3	3.5	1.7
男性 20歳代	22.2	11.1	8.3	13.9	2.8	—	—
30歳代	21.8	12.7	10.9	9.1	3.6	3.6	1.8
40歳代	16.7	8.3	11.7	18.3	1.7	5.0	—
50歳代	19.1	15.7	10.1	18.0	3.4	2.2	1.1
60歳代	26.2	15.0	23.4	6.5	8.4	4.7	1.9
70歳代以上	25.0	15.5	11.2	16.4	2.6	4.3	10.3

【全国調査】（男女共同参画社会に関する世論調査）

全国調査と比較すると、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」以外の項目で低くなっています。

単位：％

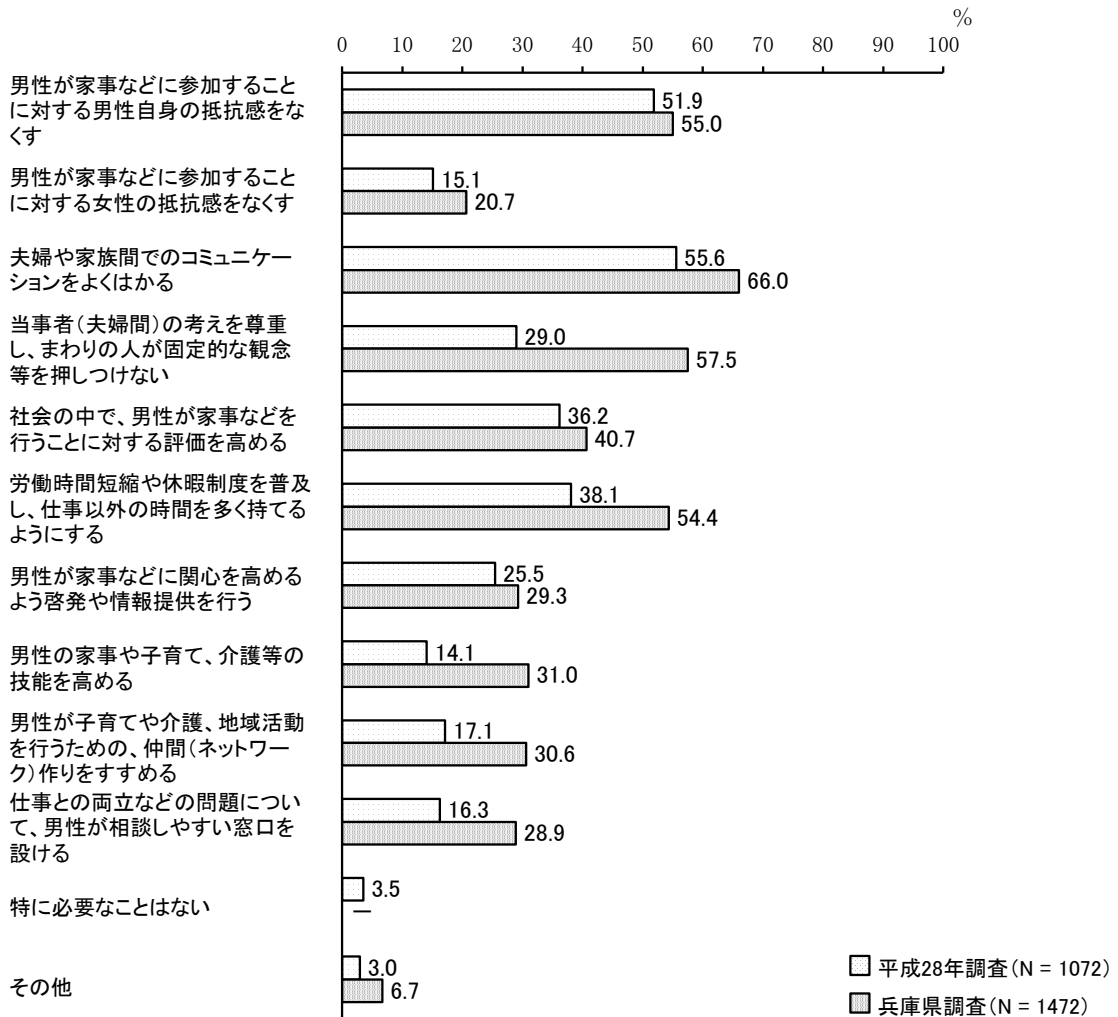
区分		有効回答数（件）	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度を普及すること、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
市	平成 28 年調査(全体)	1072	51.9	15.1	55.6	29.0	36.2	38.1
全国調査	全体	3033	55.9	27.5	66.7	41.7	48.6	48.4
	女性	1601	61.3	31.0	70.2	45.8	52.1	48.2
	男性	1432	49.8	23.5	62.7	37.2	44.8	48.7

区分		男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相話しやすい窓口を設けること	その他	特に必要なことはない
市	平成 28 年調査(全体)	25.5	14.1	17.1	16.3	3.0	3.5
全国調査	全体	36.1	25.5	34.2	33.5	1.1	5.3
	女性	38.7	26.8	36.0	36.2	1.1	5.4
	男性	33.3	24.0	32.1	30.5	1.1	5.3

※全国調査と比較するため無回答を除いています。

【兵庫県調査】

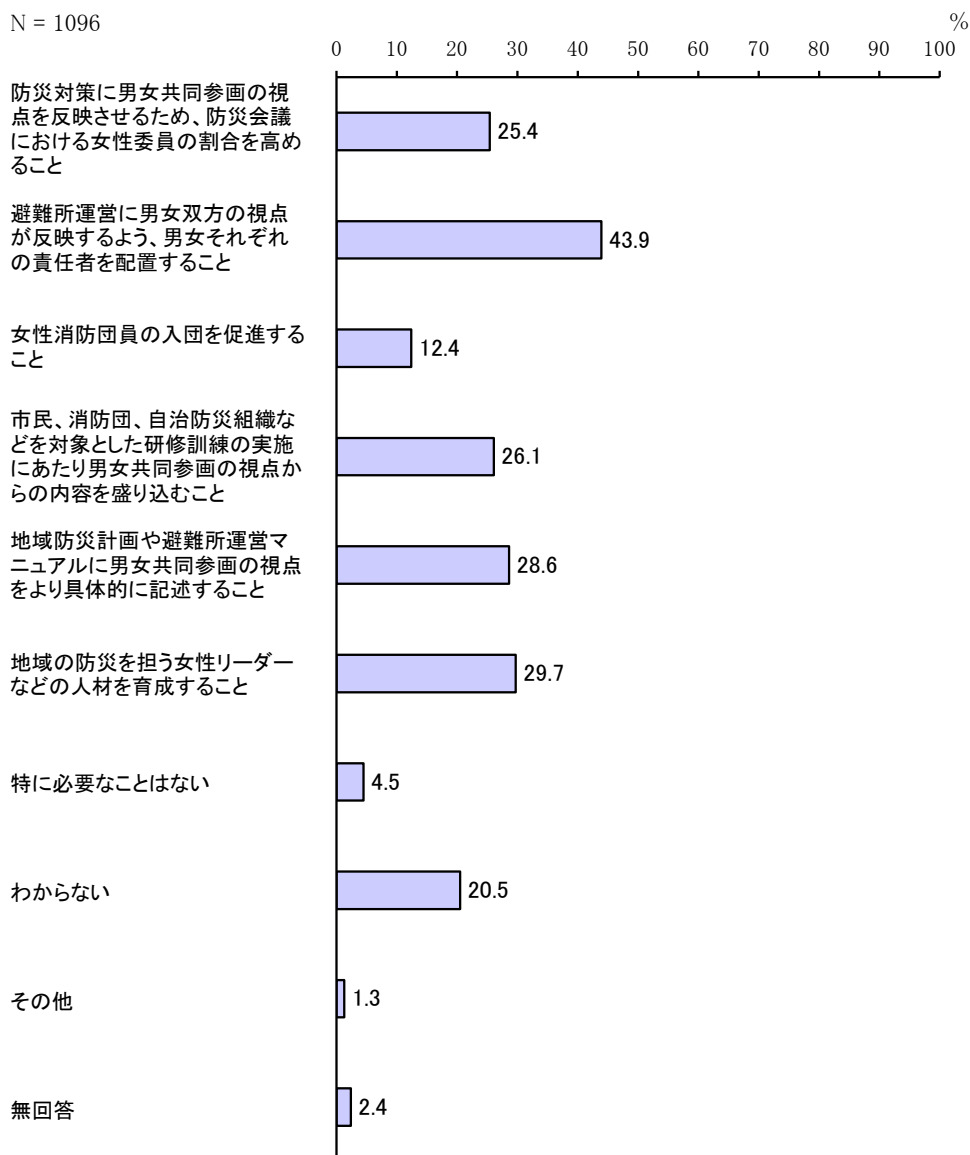
兵庫県調査と比較すると、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」、「社会の中で、男性が家事などを行うことに対する評価を高める」、「男性が家事などに関心を高めるよう啓発や情報提供を行う」以外の項目で低くなっています。



※兵庫県調査と比較するため無回答を除いています。

問 20 あなたは、防災分野における男女共同参画の推進のためには、どのようなことが必要だと思いますか。
次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「避難所運営に男女双方の視点が反映するよう、男女それぞれの責任者を配置すること」の割合が 43.9%と最も高く、次いで「地域の防災を担う女性リーダーなどの人材を育成すること」の割合が 29.7%、「地域防災計画や避難所運営マニュアルに男女共同参画の視点をより具体的に記述すること」の割合が 28.6%となっています。



【性別】

単位：％

区分	有効回答数（件）	防災対策に男女共同参画の視点を反映させるため、防災会議における女性委員の割合を高めること	避難所運営に男女双方の視点が反映するよう、男女それぞれの責任者を配置すること	女性消防団員の入団を促進すること	市民、消防団、自治防災組織などを対象とした研修訓練の実施に当たり男女共同参画の視点からの内容を盛り込むこと	地域防災計画や避難所運営マニュアルに男女共同参画の視点をより具体的に記述すること
女性	625	19.8	44.0	8.0	22.7	28.0
男性	463	33.0	44.3	18.1	30.9	29.6

区分	地域の防災を担う女性リーダーなどの人材を育成すること	特に必要なことはない	わからない	その他	無回答
女性	28.5	3.0	25.6	1.1	1.9
男性	31.5	6.3	13.4	1.5	2.6

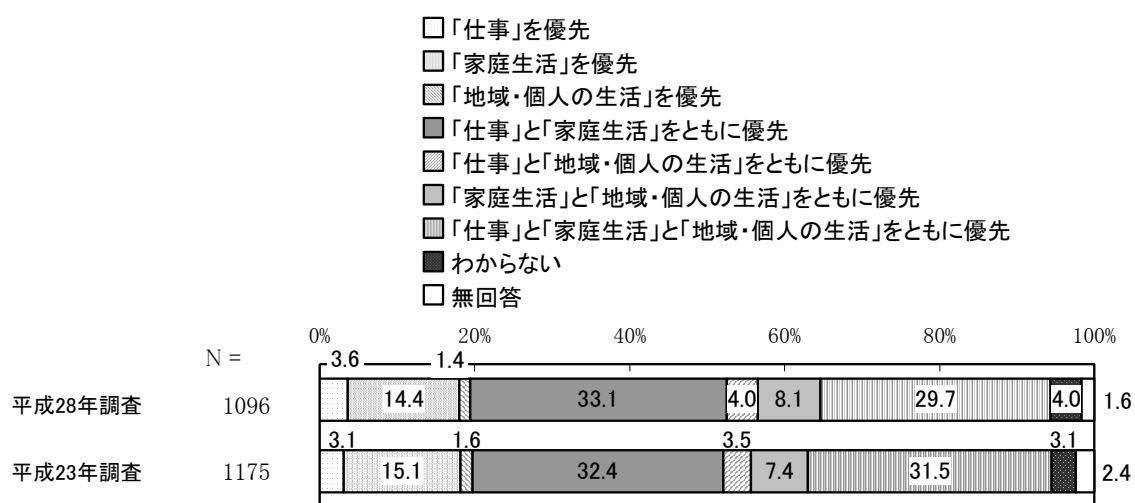
(6) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問 21 あなたが生活していく中で、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度について、どのような状態が理想だと考えますか。また、実際の状況（現実）はどうですか。理想と現実それぞれについて1つ選んで番号に○をつけてください。

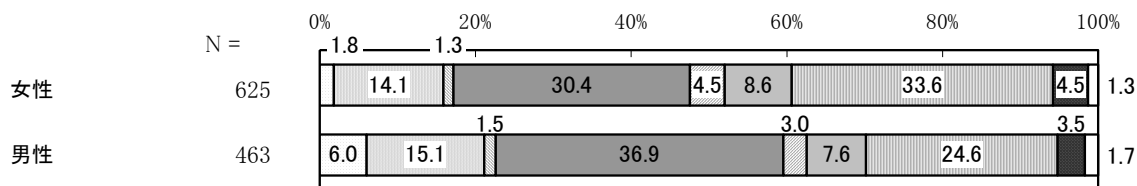
①理想

「仕事」と「家庭生活」をともに優先」の割合が 33.1%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」の割合が 29.7%、「家庭生活」を優先」の割合が 14.4%となっています。

平成 23 年調査と比較すると、大きな差異は認められません。

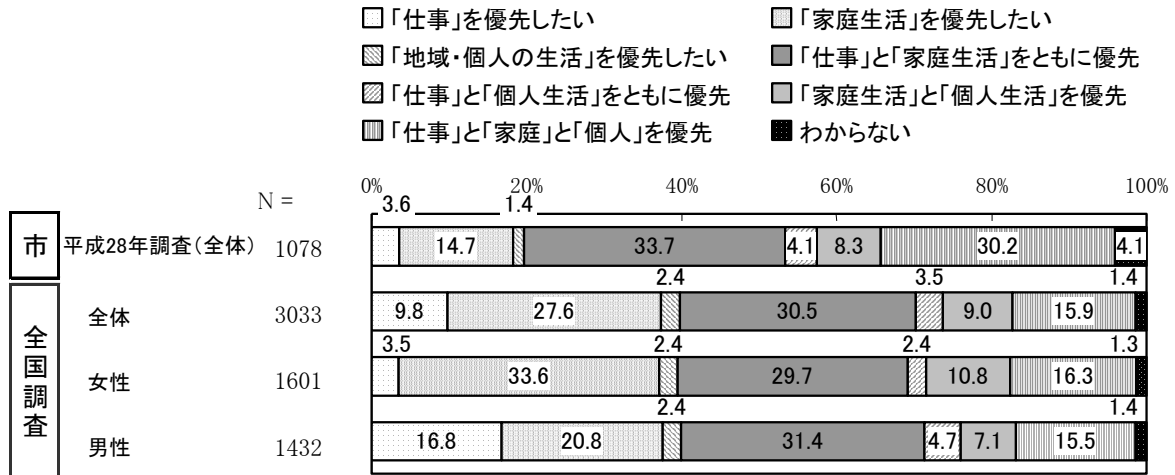


【性別】



【全国調査】（男女共同参画社会に関する世論調査）

全国調査と比較すると、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先」の割合が高くなっています。また、「仕事」を優先したい、「家庭生活」を優先したい」の割合が低くなっています。

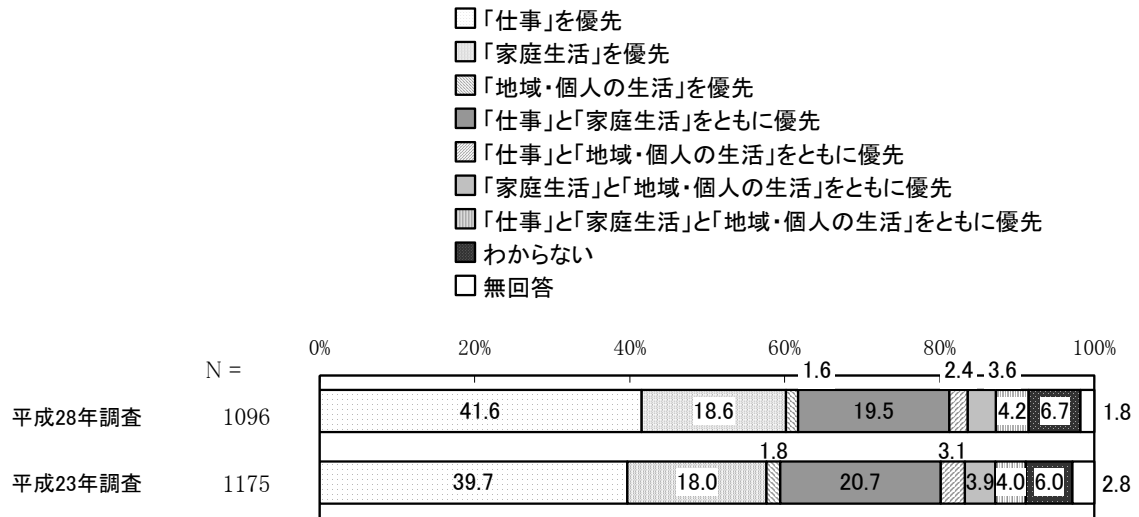


※全国調査と比較するため、無回答を除いています。

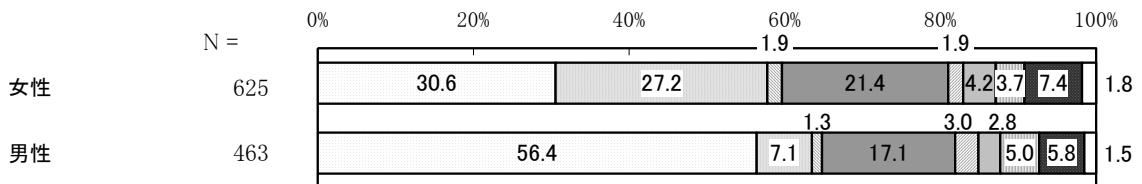
②現実

「仕事」を優先」の割合が 41.6%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先」の割合が 19.5%、「家庭生活」を優先」の割合が 18.6%となっています。

平成 23 年調査と比較すると、大きな差異は認められません。



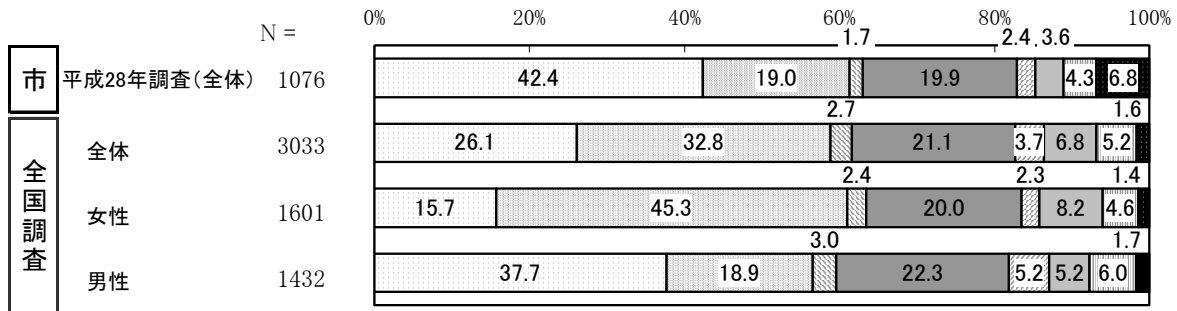
【性別】



【全国調査】（男女共同参画社会に関する世論調査）

全国調査と比較すると、「仕事」を優先の割合が高くなっています。また、「家庭生活」を優先の割合が低くなっています。

- 「仕事」を優先している
- ▨ 「家庭生活」を優先している
- ▩ 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- ▧ 「仕事」と「個人生活」をともに優先している
- ▦ 「家庭生活」と「個人生活」を優先している
- ▥ 「仕事」と「家庭」と「個人」を優先している
- わからない

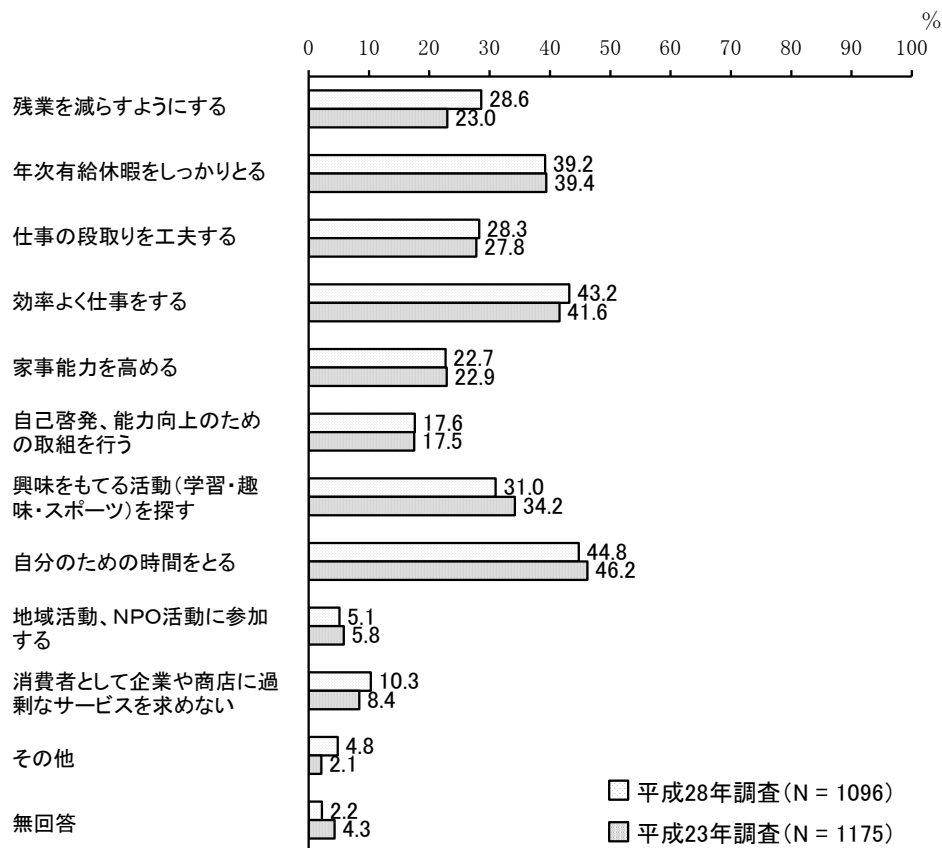


※全国調査と比較するため、無回答を除いています。

問 22 あなたは、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現のためにどのような工夫をしたらよいと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「自分のための時間をとる」の割合が 44.8%と最も高く、次いで「効率よく仕事をする」の割合が 43.2%、「年次有給休暇をしっかりとる」の割合が 39.2%となっています。

平成 23 年調査と比較すると、「残業を減らすようにする」の割合が高くなっています。



【性別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	残業を減らすようにする	年次有給休暇をしっかりとる	仕事の段取りを工夫する	効率よく仕事をする	家事能力を高める	自己啓発、能力向上のための取組を行う	興味をもてる活動(学習・趣味・スポーツ)を探す	自分のための時間をとる	地域活動、NPO活動に参加する	消費者として企業や商店に過剰なサービスを求めない	その他	無回答
女性	625	28.6	38.4	28.2	43.5	26.6	15.2	29.0	53.1	4.3	10.4	4.2	2.1
男性	463	29.2	40.6	28.7	43.4	17.9	21.0	33.9	33.7	6.0	10.2	5.8	1.7

【性年齢別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	残業を減らすようにする	年次有給休暇をしっかりとる	仕事の段取りを工夫する	効率よく仕事をする	家事能力を高める	自己啓発、能力向上のための取組を行う	興味をもてる活動(学習・趣味・スポーツ)を探す	自分のための時間をとる	地域活動、NPO活動に参加する	消費者として企業や商店に過剰なサービスを求めない	その他	無回答
女性 20歳代	58	46.6	60.3	25.9	46.6	25.9	17.2	24.1	58.6	6.9	6.9	8.6	—
30歳代	95	28.4	44.2	35.8	46.3	42.1	15.8	23.2	60.0	4.2	9.5	1.1	—
40歳代	96	30.2	40.6	35.4	47.9	22.9	18.8	25.0	53.1	4.2	10.4	5.2	—
50歳代	120	26.7	41.7	19.2	40.0	20.0	12.5	29.2	55.8	5.8	10.0	4.2	—
60歳代	140	23.6	32.1	21.4	41.4	24.3	12.9	36.4	54.3	0.7	9.3	2.1	4.3
70歳代以上	115	27.0	25.2	34.8	42.6	26.1	16.5	29.6	40.0	6.1	14.8	6.1	6.1
男性 20歳代	36	41.7	52.8	30.6	52.8	30.6	11.1	22.2	41.7	2.8	2.8	8.3	—
30歳代	55	38.2	49.1	36.4	47.3	20.0	12.7	16.4	30.9	1.8	9.1	5.5	1.8
40歳代	60	31.7	40.0	28.3	43.3	13.3	11.7	18.3	33.3	8.3	15.0	13.3	—
50歳代	89	38.2	44.9	23.6	44.9	22.5	16.9	37.1	41.6	5.6	7.9	4.5	—
60歳代	107	22.4	41.1	30.8	45.8	15.0	31.8	42.1	41.1	7.5	11.2	2.8	0.9
70歳代以上	116	19.0	29.3	26.7	35.3	14.7	25.9	44.0	19.8	6.9	11.2	5.2	5.2

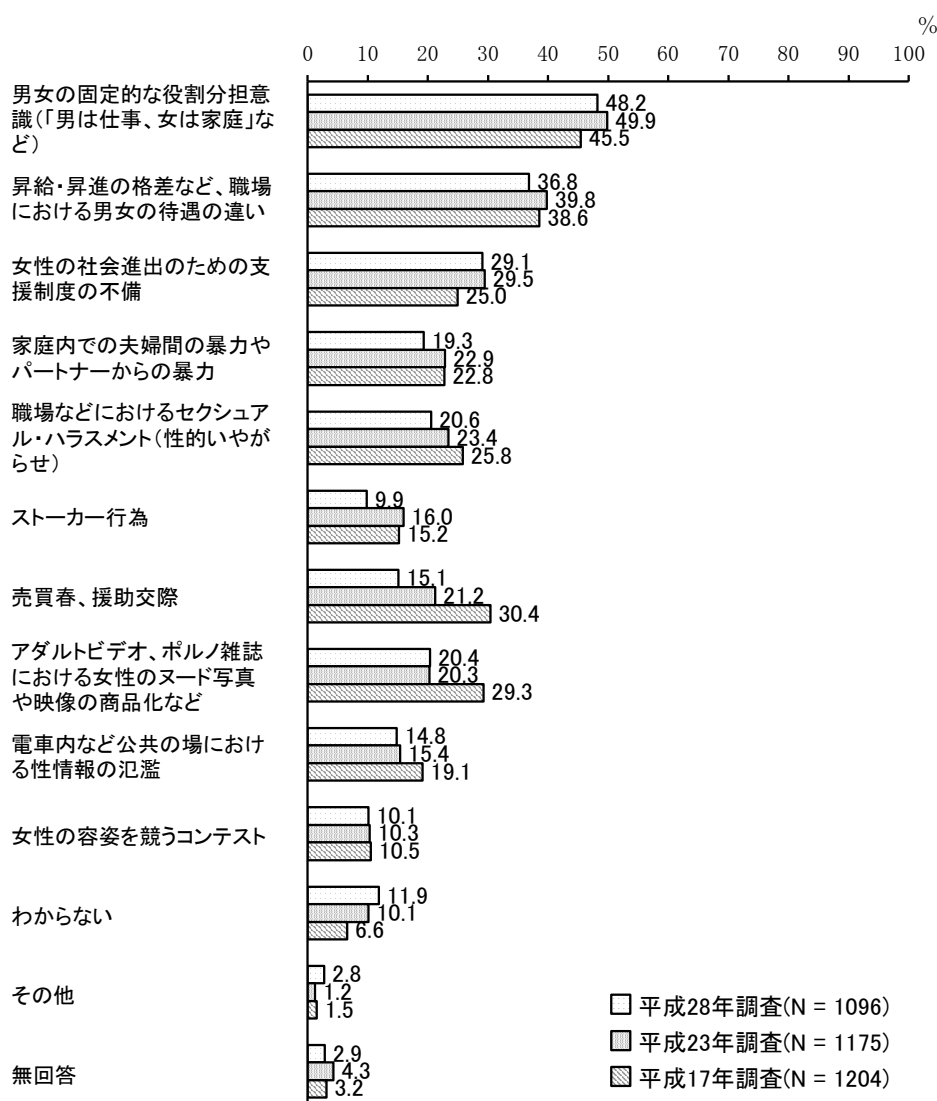
(7) 人権について

問 23 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのようなことについてですか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）」の割合が 48.2%と最も高く、次いで「昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い」の割合が 36.8%、「女性の社会進出のための支援制度の不備」の割合が 29.1%となっています。

平成 23 年調査と比較すると、ほぼすべての項目で割合が低くなっています。

平成 17 年調査、平成 23 年調査と比較すると、「わからない」の割合が徐々に高くなっている一方、「職場などにおけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」、「ストーカー行為」、「売買春、援助交際」、「アダルトビデオ、ポルノ雑誌における女性のヌード写真や映像の商品化など」の割合が低くなっています。



【性別】

単位：％

区分	有効回答数（件）	男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）	昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い	女性の社会進出のための支援制度の不備	家庭内での夫婦間の暴力やパートナーからの暴力	職場などにおけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	ストーカー行為	売買取、援助交際	女性のヌード写真や映像の商品化など	電车内など公共の場における性情報の氾濫	女性の容姿を競うコンテスト	わからない	その他	無回答
女性	625	47.5	38.4	28.0	21.8	23.2	11.2	19.0	25.3	17.9	10.9	10.7	2.1	2.4
男性	463	49.5	35.0	30.9	16.0	17.3	8.2	9.5	13.8	10.6	9.1	12.7	3.9	3.2

【性年齢別】

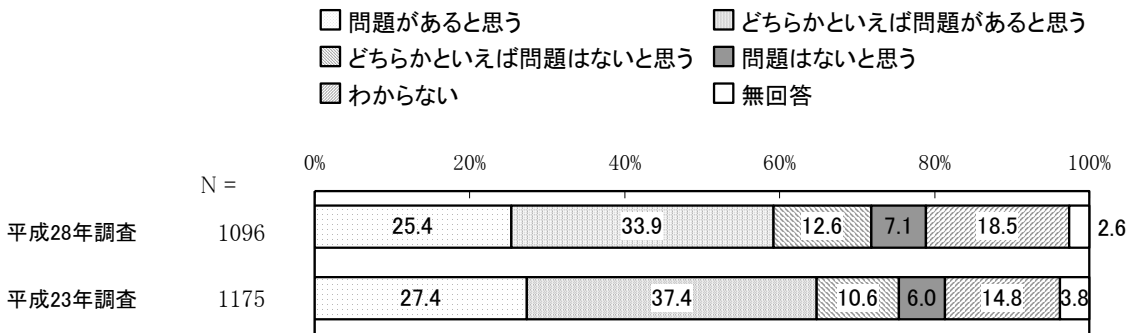
単位：％

区分	有効回答数（件）	男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）	昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い	女性の社会進出のための支援制度の不備	家庭内での夫婦間の暴力やパートナーからの暴力	職場などにおけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	ストーカー行為	売買取、援助交際	女性のヌード写真や映像の商品化など	電车内など公共の場における性情報の氾濫	女性の容姿を競うコンテスト	わからない	その他	無回答
女性 20歳代	58	56.9	44.8	34.5	24.1	32.8	15.5	20.7	13.8	19.0	12.1	10.3	3.4	1.7
30歳代	95	58.9	34.7	29.5	21.1	24.2	6.3	21.1	18.9	11.6	8.4	9.5	—	—
40歳代	96	51.0	30.2	27.1	22.9	31.3	16.7	20.8	26.0	21.9	8.3	9.4	3.1	2.1
50歳代	120	50.0	36.7	29.2	20.0	18.3	10.8	15.8	24.2	15.8	9.2	10.0	4.2	1.7
60歳代	140	39.3	45.7	23.6	24.3	20.7	12.9	23.6	32.9	22.1	14.3	7.9	1.4	3.6
70歳代以上	115	38.3	37.4	27.8	19.1	19.1	7.0	13.0	27.0	16.5	12.2	17.4	0.9	4.3
男性 20歳代	36	47.2	19.4	19.4	22.2	13.9	11.1	8.3	5.6	2.8	5.6	16.7	13.9	—
30歳代	55	36.4	20.0	30.9	20.0	18.2	7.3	9.1	5.5	10.9	5.5	23.6	7.3	1.8
40歳代	60	53.3	26.7	28.3	18.3	20.0	10.0	8.3	6.7	6.7	6.7	18.3	1.7	1.7
50歳代	89	51.7	34.8	25.8	18.0	13.5	9.0	6.7	14.6	6.7	10.1	10.1	4.5	1.1
60歳代	107	56.1	41.1	40.2	16.8	22.4	7.5	11.2	18.7	15.9	13.1	7.5	1.9	4.7
70歳代以上	116	46.6	45.7	31.0	8.6	14.7	6.9	11.2	19.0	12.9	8.6	10.3	1.7	6.0

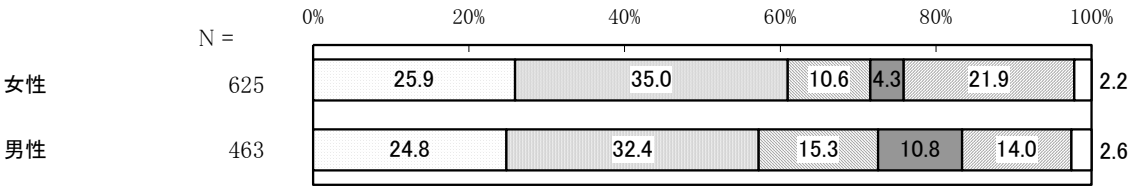
問 24 あなたは、現在のテレビ、新聞、雑誌などのメディアにおける性・暴力表現について、どのように思いますか。

「問題があると思う」と「どちらかといえば問題があると思う」を合わせた『問題あり派』の割合が 59.3%、「どちらかといえば問題はないと思う」と「問題はないと思う」を合わせた『問題なし派』の割合が 19.7%となっています。

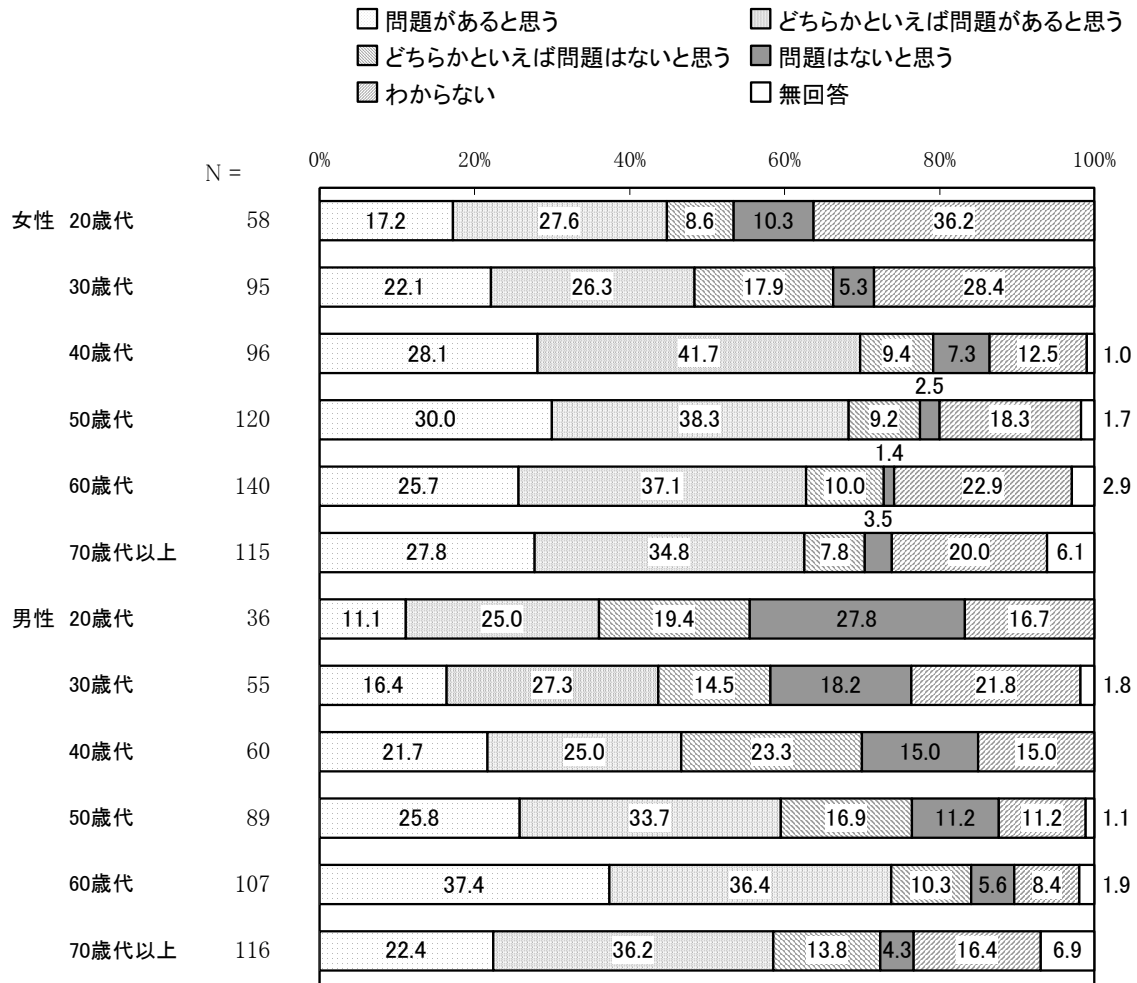
平成 23 年調査と比べると、大きな差異は認められません。



【性別】

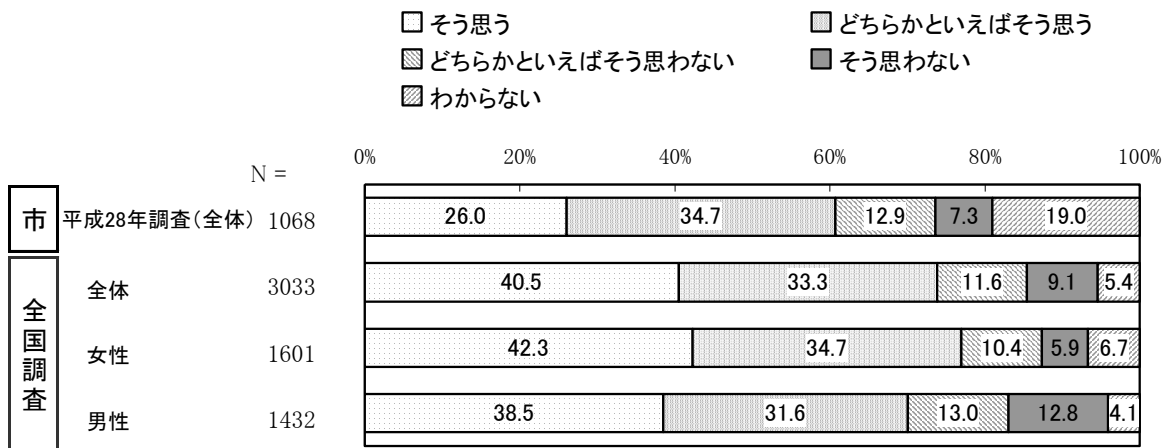


【性年齢別】



【全国調査】（男女共同参画社会に関する世論調査）

全国調査と比較すると、「そう思う」（「問題があると思う」と同じ。）の割合が低くなっています。

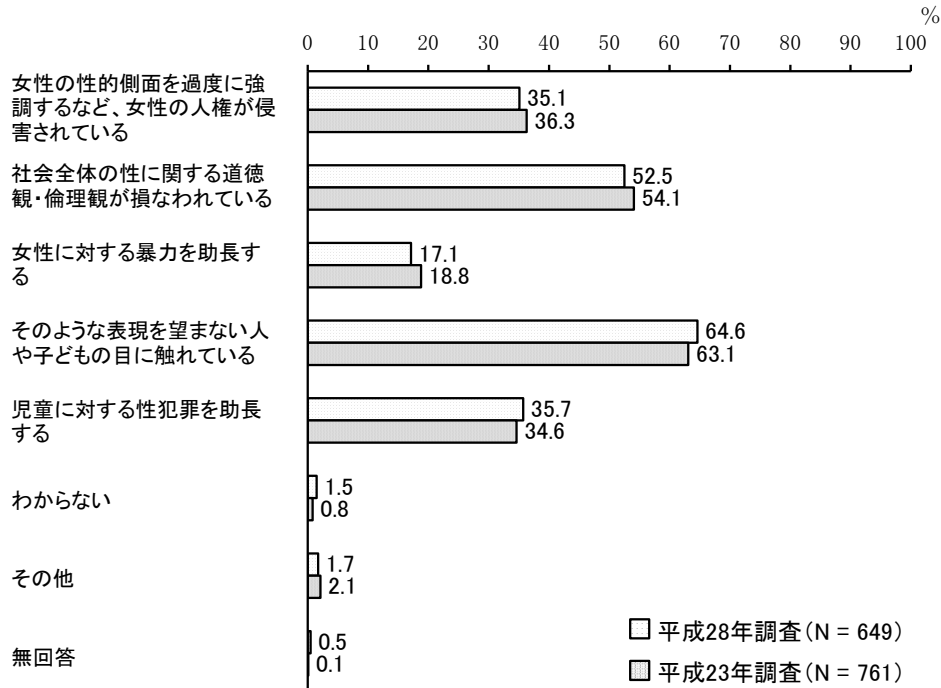


※全国調査と比較するため、無回答を除いています。

問 24-1 この設問は、問 24 で「1. 問題があると思う」「2. どちらかといえば問題があると思う」と回答した方にのみおたずねします。あなたは、メディアにおける性・暴力表現について、どのような点で問題があると思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている」の割合が 64.6%と最も高く、次いで「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」の割合が 52.5%、「児童に対する性犯罪を助長する」の割合が 35.7%となっています。

平成 23 年調査と比較すると、大きな差異は認められません。



【性別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の人権が侵害されている	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	女性に対する暴力を助長する	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている	児童に対する性犯罪を助長する	わからない	その他	無回答
女性	381	33.6	50.7	17.8	69.6	39.1	1.8	1.0	0.3
男性	265	37.4	55.1	15.8	57.0	30.6	1.1	2.6	0.8

【性年齢別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の権利が侵害されている	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	女性に対する暴力を助長する	そのような表現を望まない人や子どもに目撃されている	児童に対する性犯罪を助長する	わからない	その他	無回答
女性 20歳代	26	50.0	53.8	26.9	46.2	46.2	7.7	—	—
30歳代	46	30.4	41.3	13.0	78.3	50.0	—	—	—
40歳代	67	35.8	40.3	20.9	71.6	38.8	1.5	1.5	—
50歳代	82	30.5	57.3	18.3	73.2	34.1	1.2	2.4	—
60歳代	88	34.1	51.1	18.2	71.6	38.6	1.1	1.1	—
70歳代以上	72	30.6	56.9	13.9	63.9	36.1	2.8	—	1.4
男性 20歳代	13	38.5	30.8	23.1	61.5	15.4	—	7.7	—
30歳代	24	37.5	33.3	16.7	54.2	25.0	—	16.7	—
40歳代	28	39.3	42.9	14.3	50.0	25.0	3.6	—	—
50歳代	53	28.3	60.4	17.0	62.3	32.1	3.8	—	1.9
60歳代	79	32.9	59.5	17.7	63.3	31.6	—	2.5	—
70歳代以上	68	48.5	63.2	11.8	48.5	35.3	—	—	1.5

【全国調査】(男女共同参画社会に関する世論調査)

全国調査と比較すると、「女性に対する暴力を助長する」、「児童に対する性犯罪を助長する」の割合が低くなっています。

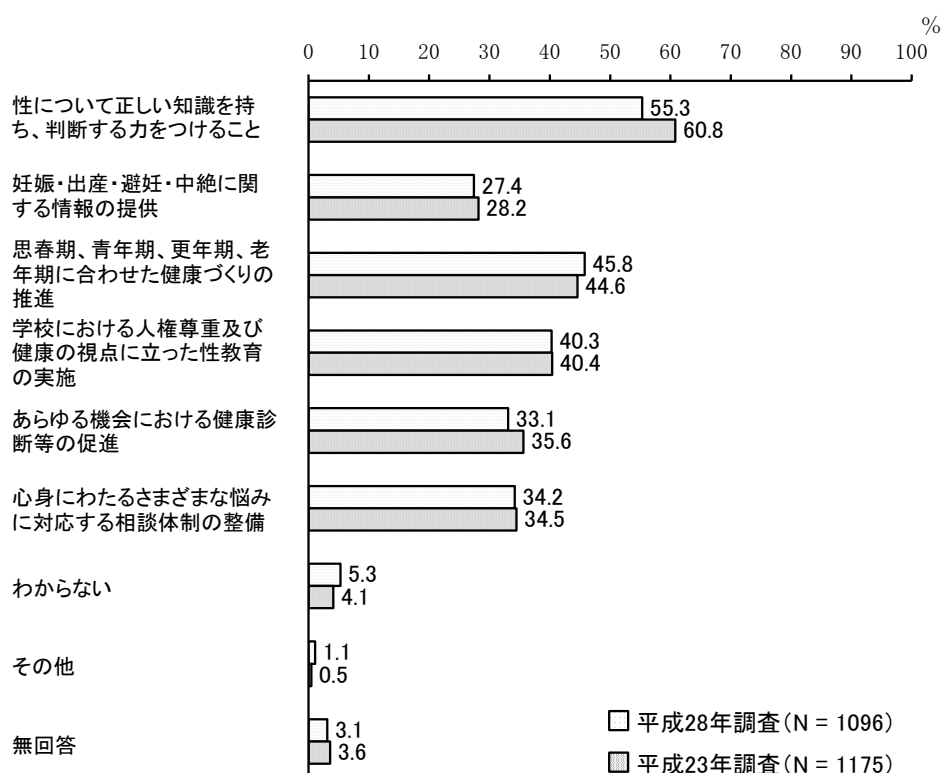
単位：％

区分	有効回答数(件)	女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の権利が侵害されている	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	女性に対する暴力を助長する	児童に対する性犯罪を助長する	そのような表現を望まない人や子どもに目撃されている	自分自身が、そのような表現を望まないのではないと感じる	わからない	その他	
市 平成28年調査(全体)	646	35.3	52.8	17.2	35.9	64.9	—	1.7	1.5	
全国調査	全体	2238	36.9	55.4	32.9	52.8	60.3	38.2	0.7	1.5
	女性	1233	38.1	52.2	32.8	54.7	63.0	42.5	0.5	1.3
	男性	1005	35.3	59.3	33.0	50.4	57.0	32.8	1.0	1.7

問 25 妊娠・出産をになう女性は、男性とは異なった体や心の問題に直面することがあります。男女が生涯にわたり心身ともに健康であるためにどのようなことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「性について正しい知識を持ち、判断する力をつけること」の割合が 55.3%と最も高く、次いで「思春期、青年期、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進」の割合が 45.8%、「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施」の割合が 40.3%となっています。

平成 23 年調査と比較すると、「性について正しい知識を持ち、判断する力をつけること」の割合が低くなっています。



【性別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	性について正しい知識を持ち、判断する力をつけること	妊娠・出産・避妊・中絶に関する情報の提供	思春期、青年期、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進	学校教育の実施	学校における人権尊重及び健康の視点到った性教育の実施	あらゆる機会における健康診断等の促進	心身にわたるさまざまな悩みに対応する相談体制の整備	わからない	その他	無回答
女性	625	55.8	29.4	46.2	42.6	35.4	36.2	5.3	1.0	2.6	
男性	463	54.9	24.6	45.6	37.4	30.5	32.0	5.2	1.3	3.2	

【性年齢別】

単位：%

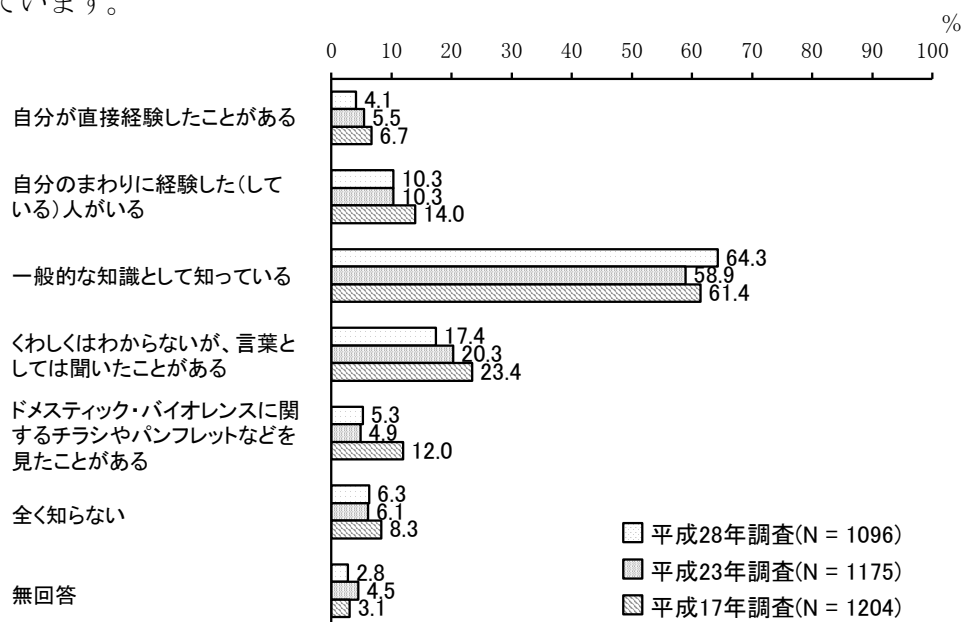
区分	有効回答数(件)	性について正しい知識を持ち、判断する力をつけること	妊娠・出産・避妊・中絶に関する情報の提供	思春期、青年期、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進	学校教育の実施	学校における人権尊重及び健康の視点到った性教育の実施	あらゆる機会における健康診断等の促進	心身にわたるさまざまな悩みに対応する相談体制の整備	わからない	その他	無回答
女性 20歳代	58	69.0	58.6	44.8	36.2	48.3	36.2	5.2	1.7	—	
30歳代	95	55.8	48.4	48.4	43.2	51.6	38.9	4.2	—	—	
40歳代	96	51.0	32.3	43.8	41.7	34.4	43.8	7.3	3.1	—	
50歳代	120	52.5	20.8	40.8	39.2	31.7	33.3	5.8	0.8	4.2	
60歳代	140	61.4	18.6	50.7	41.4	30.7	34.3	2.1	0.7	1.4	
70歳代以上	115	49.6	19.1	47.0	51.3	26.1	33.0	7.8	—	7.8	
男性 20歳代	36	55.6	33.3	50.0	33.3	47.2	27.8	8.3	—	2.8	
30歳代	55	47.3	38.2	30.9	18.2	40.0	18.2	10.9	—	3.6	
40歳代	60	65.0	33.3	36.7	36.7	28.3	38.3	5.0	1.7	—	
50歳代	89	57.3	18.0	49.4	32.6	28.1	33.7	1.1	—	2.2	
60歳代	107	55.1	19.6	51.4	43.0	33.6	36.4	5.6	2.8	1.9	
70歳代以上	116	50.9	20.7	47.4	46.6	20.7	31.0	4.3	1.7	6.9	

問 26 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）について経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「一般的な知識として知っている」の割合が64.3%と最も高く、次いで「くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある」の割合が17.4%、「自分のまわりに経験した（している）人がいる」の割合が10.3%となっています。

平成23年調査と比較すると、「一般的な知識として知っている」の割合が高くなっています。

平成17年調査と比較すると、「くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある」、「ドメスティック・バイオレンスに関するチラシやパンフレットなどを見たことがある」の割合が低くなっています。



【性別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	自分が直接経験したことがある	自分のまわりに経験した(している)人がいる	一般的な知識として知っている	くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある	ドメスティック・バイオレンスに関するチラシやパンフレットなどを見たことがある	全く知らない	無回答
女性	625	6.2	12.8	62.4	16.8	6.6	5.6	2.4
男性	463	1.3	6.9	67.6	18.4	3.5	7.1	2.8

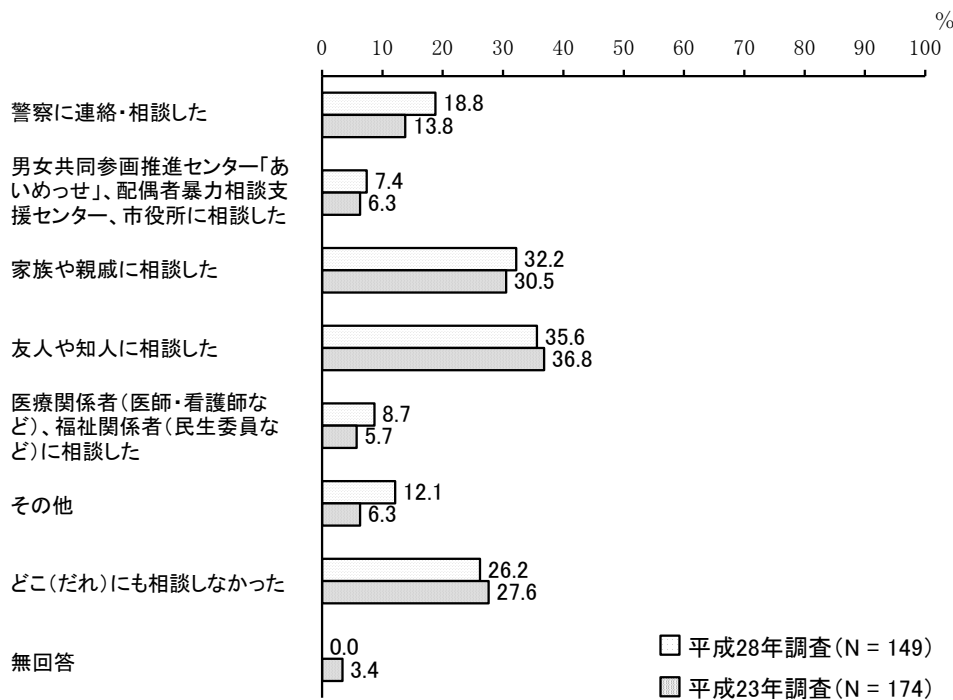
【性年齢別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	自分が直接経験したことがある	自分のまわりに経験した(している)人がいる	一般的な知識として知っている	くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある	ドメスティック・バイオレンスに関するチラシやパンフレットなどを見たことがある	全く知らない	無回答
女性 20歳代	58	10.3	10.3	65.5	13.8	3.4	3.4	—
30歳代	95	4.2	21.1	75.8	4.2	6.3	2.1	—
40歳代	96	10.4	15.6	64.6	14.6	7.3	2.1	—
50歳代	120	7.5	13.3	64.2	10.0	4.2	7.5	2.5
60歳代	140	5.0	10.0	62.9	22.9	7.9	5.0	2.1
70歳代以上	115	2.6	7.0	46.1	30.4	8.7	11.3	7.8
男性 20歳代	36	2.8	5.6	77.8	13.9	5.6	5.6	—
30歳代	55	—	10.9	63.6	21.8	—	3.6	3.6
40歳代	60	—	8.3	85.0	8.3	1.7	5.0	—
50歳代	89	1.1	10.1	69.7	14.6	4.5	7.9	—
60歳代	107	1.9	3.7	66.4	21.5	4.7	4.7	1.9
70歳代以上	116	1.7	5.2	56.9	23.3	3.4	12.1	7.8

問 26-1 この設問は、問 26 で「1. 自分が直接経験したことがある」「2. 自分のまわりに経験した（している）人がいる」と回答した方にのみおたずねします。あなたは、経験したり、見聞きしたことを、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

「友人や知人に相談した」の割合が 35.6%と最も高く、次いで「家族や親戚に相談した」の割合が 32.2%、「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が 26.2%となっています。
平成 23 年調査と比較すると、「警察に連絡・相談した」の割合が高くなっています。



【性別】

単位：%

区分	有効回答数（件）	警察に連絡・相談した	男女共同参画推進センター「あいめっせ」、配偶者暴力相談支援センター、市役所に相談した	家族や親戚に相談した	友人や知人に相談した	医療関係者（医師・看護師など）、福祉関係者（民生委員など）に相談した	その他	どこ（だれ）にも相談しなかった	無回答
女性	111	20.7	9.0	32.4	36.9	8.1	12.6	25.2	—
男性	37	10.8	2.7	29.7	29.7	10.8	10.8	29.7	—

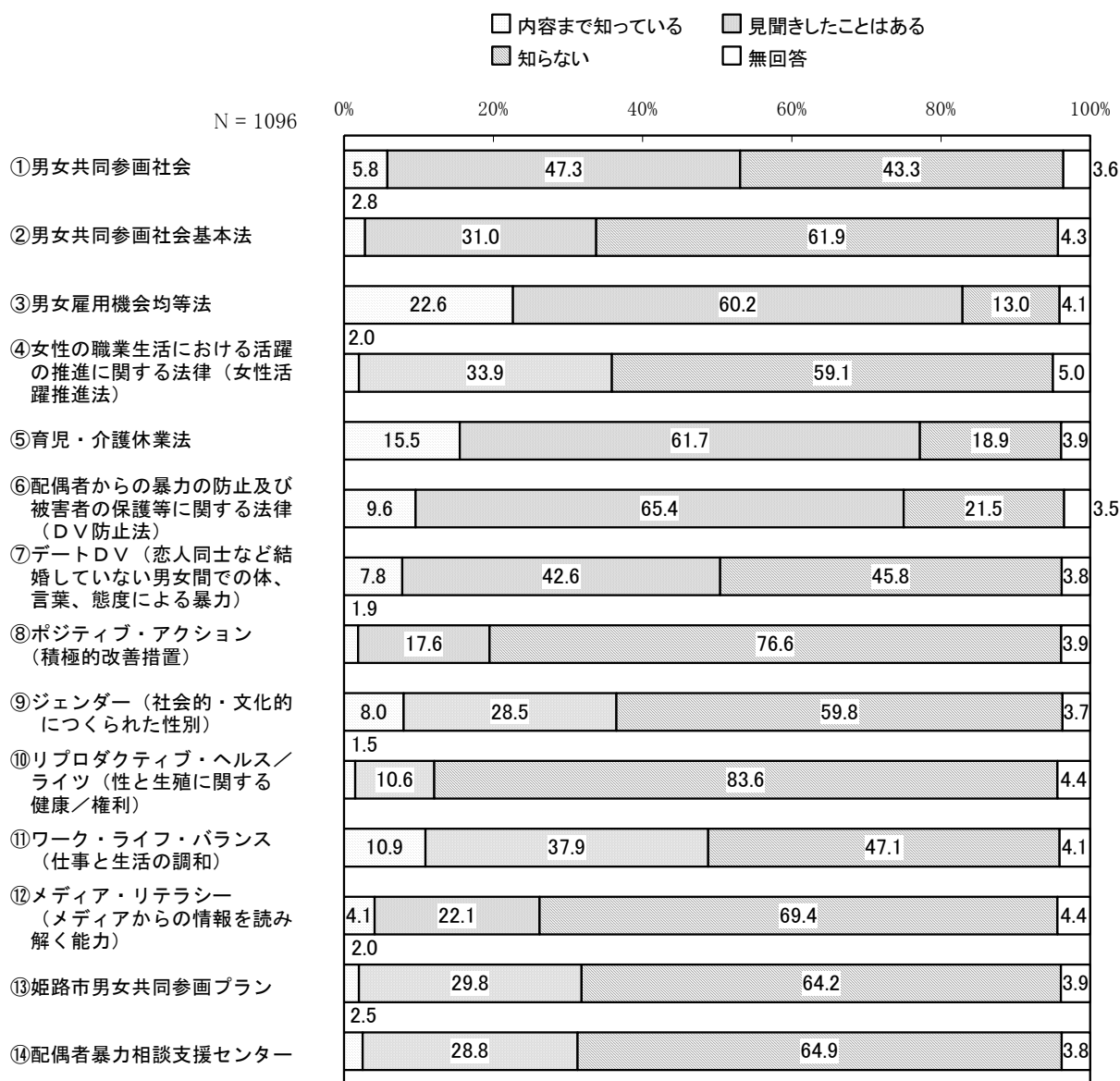
(8) 男女共同参画に関する施策などについて

問 27 次の男女共同参画に関する事項を、あなたはどの程度ご存知ですか。①から⑭のそれぞれについて（ア）～（ウ）の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

「内容まで知っている」の割合は、「③男女雇用機会均等法」で「見聞きしたことはある」の割合は、「⑥配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」で「知らない」の割合は「⑩リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康/権利）」でそれぞれ最も高くなっています。

平成 23 年調査と比較すると、「⑨ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）」で「見聞きしたことはある」の割合が高くなっています。

平成 17 年調査と比較すると、「①男女共同参画社会」、「②男女共同参画社会基本法」、「③男女雇用機会均等法」、「⑤育児・介護休業法」、「⑥配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」、「⑨ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）」、「⑬姫路市男女共同参画プラン」で「見聞きしたことはある」の割合が高くなっています。



【全国調査】（男女共同参画社会に関する世論調査）

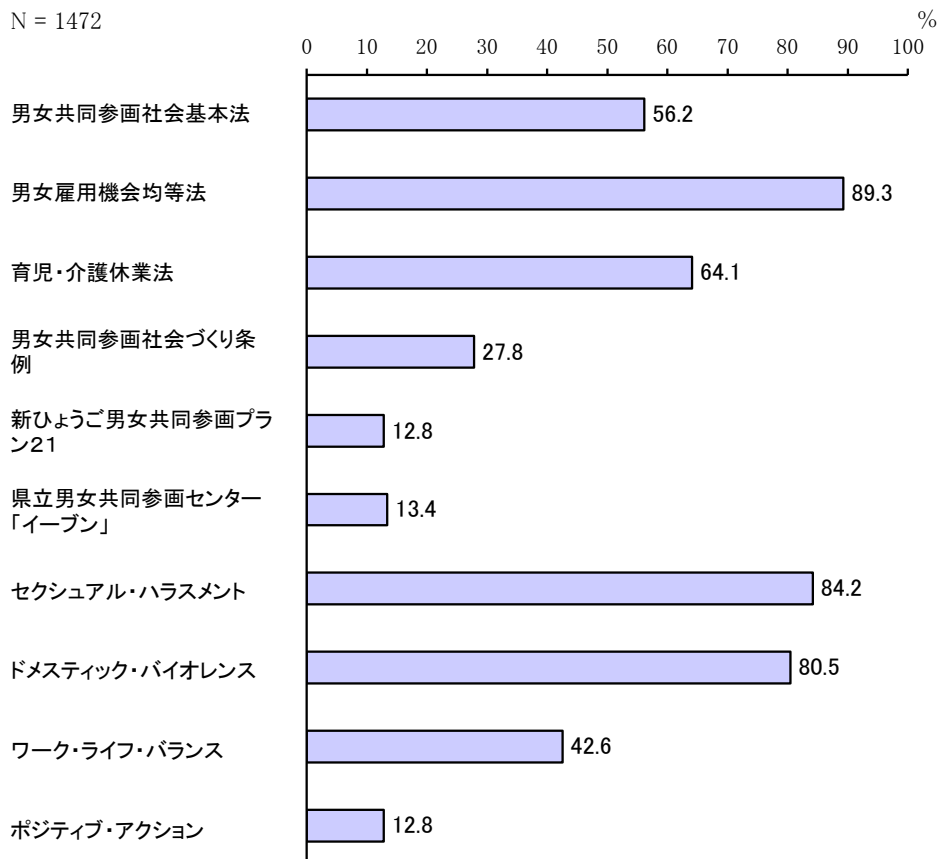
回答の方法が異なるため、参考にとどめます。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	男女共同参画社会	女子差別撤廃条約	ポジティブ・アクション	ジェンダー (社会的性別)	男女雇用機会均等法	仕事と生活の調和	DV(配偶者からの暴力)	見たり聞いたりしたものは ない	わからない
全体	3033	63.7	34.8	20.0	30.9	79.6	41.3	81.7	5.0	1.5
女性	1601	61.3	32.2	19.7	29.9	76.6	41.3	81.3	6.2	1.7
男性	1432	66.3	37.8	20.4	32.1	83.0	41.4	82.1	3.7	1.3

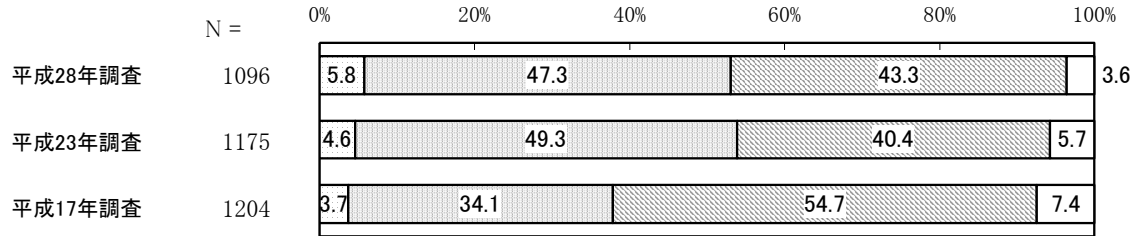
【兵庫県調査】

回答の方法が異なるため、参考にとどめます。

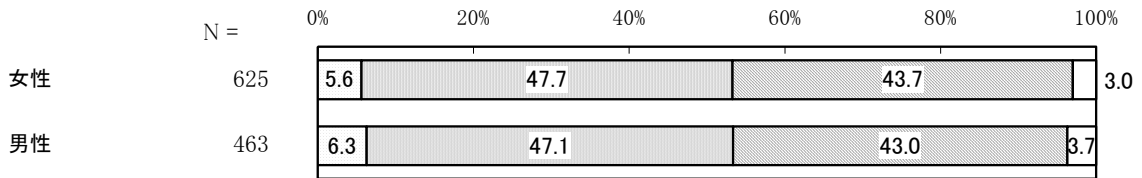


①男女共同参画社会

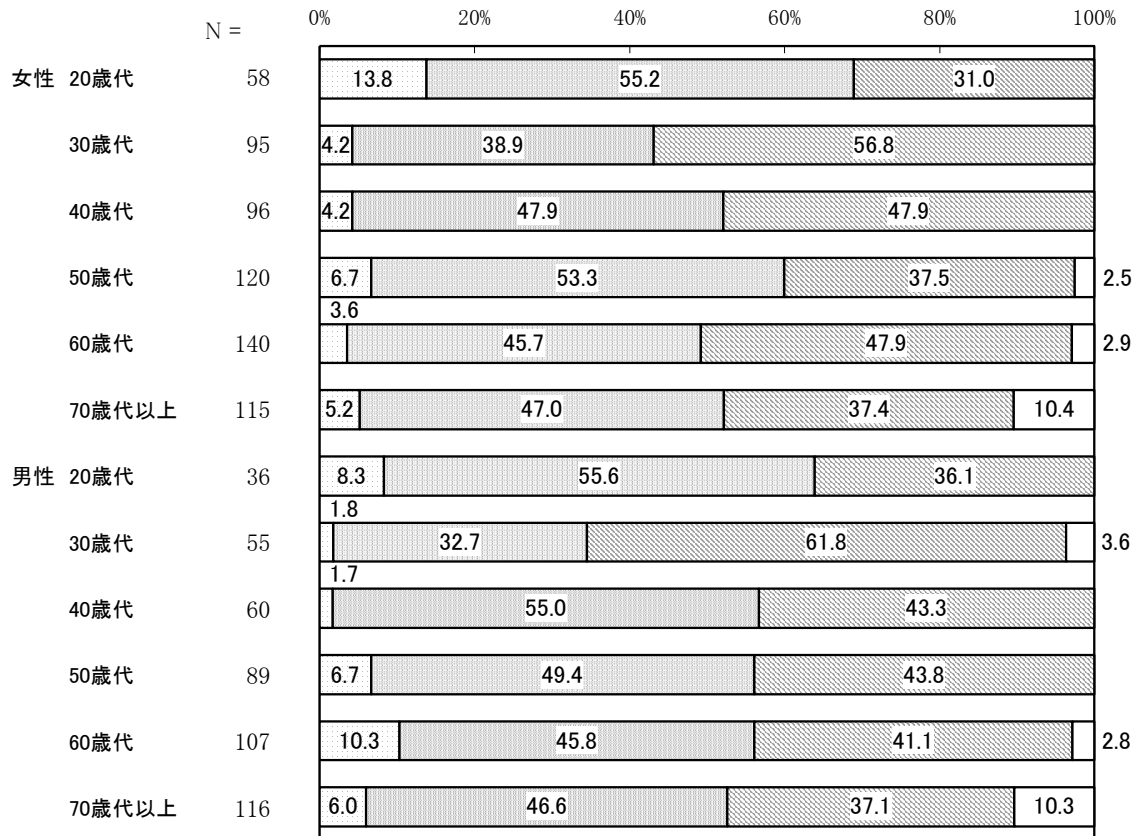
□ 内容まで知っている □ 見聞きしたことはある
 ■ 知らない □ 無回答



【性別】

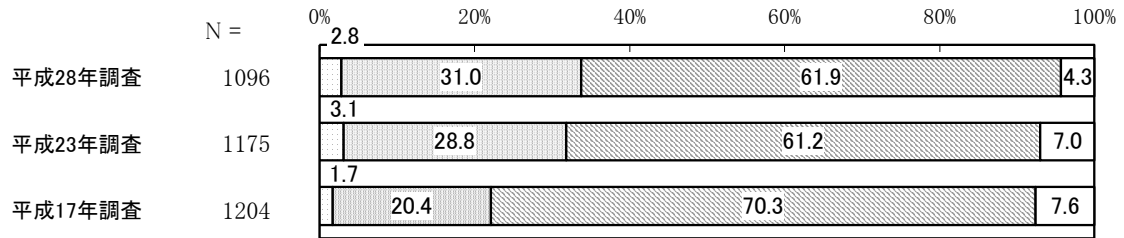


【性年齢別】

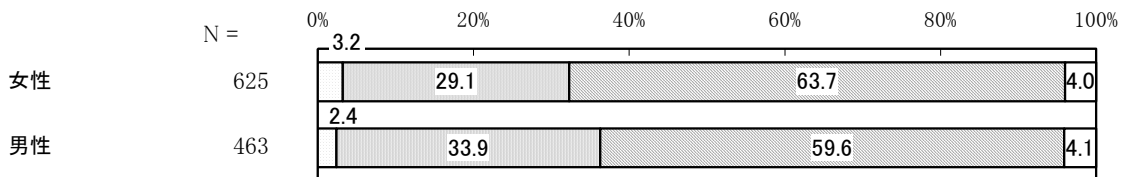


②男女共同参画社会基本法

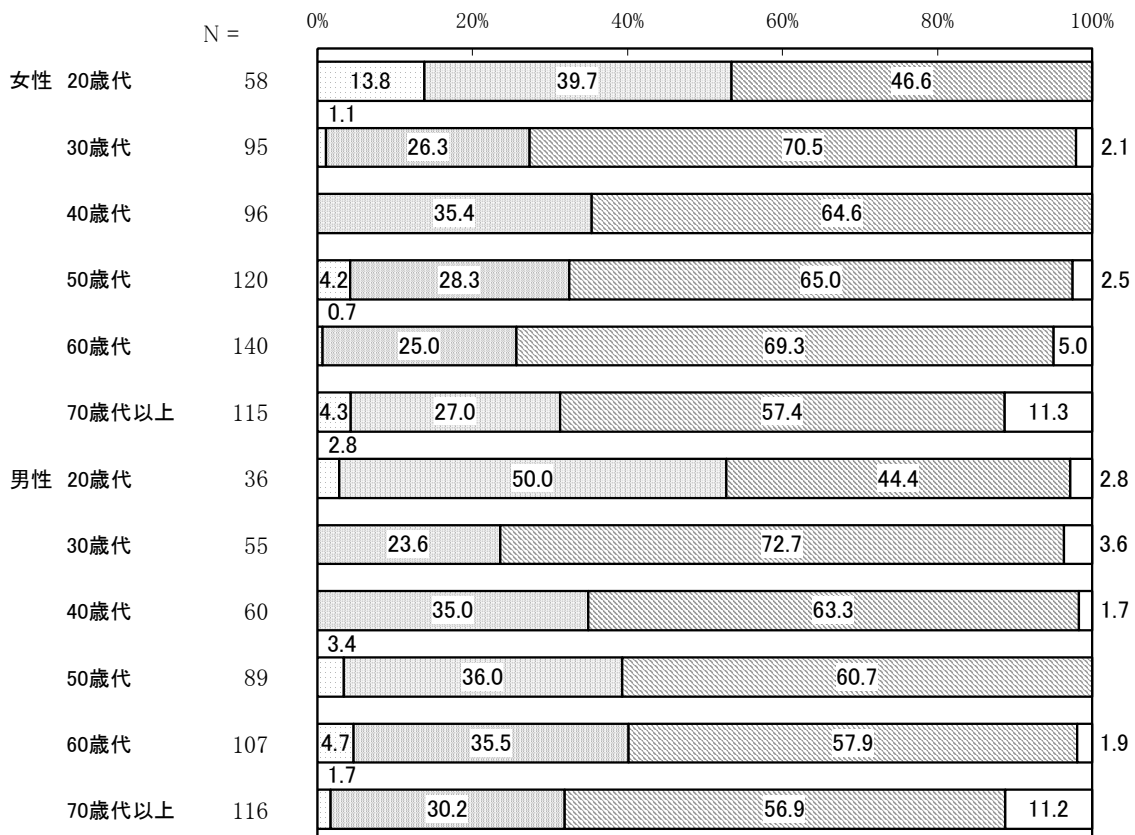
□ 内容まで知っている □ 見聞きしたことはある
 ■ 知らない □ 無回答



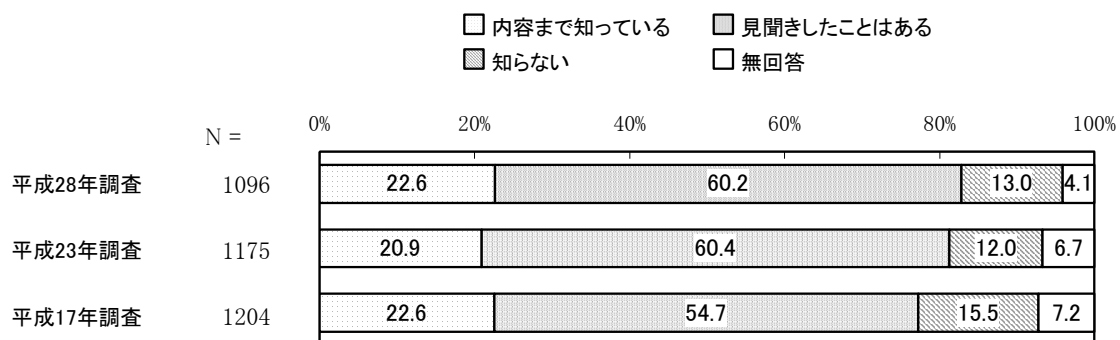
【性別】



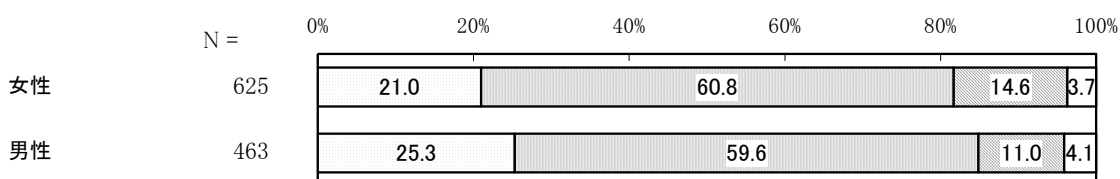
【性年齢別】



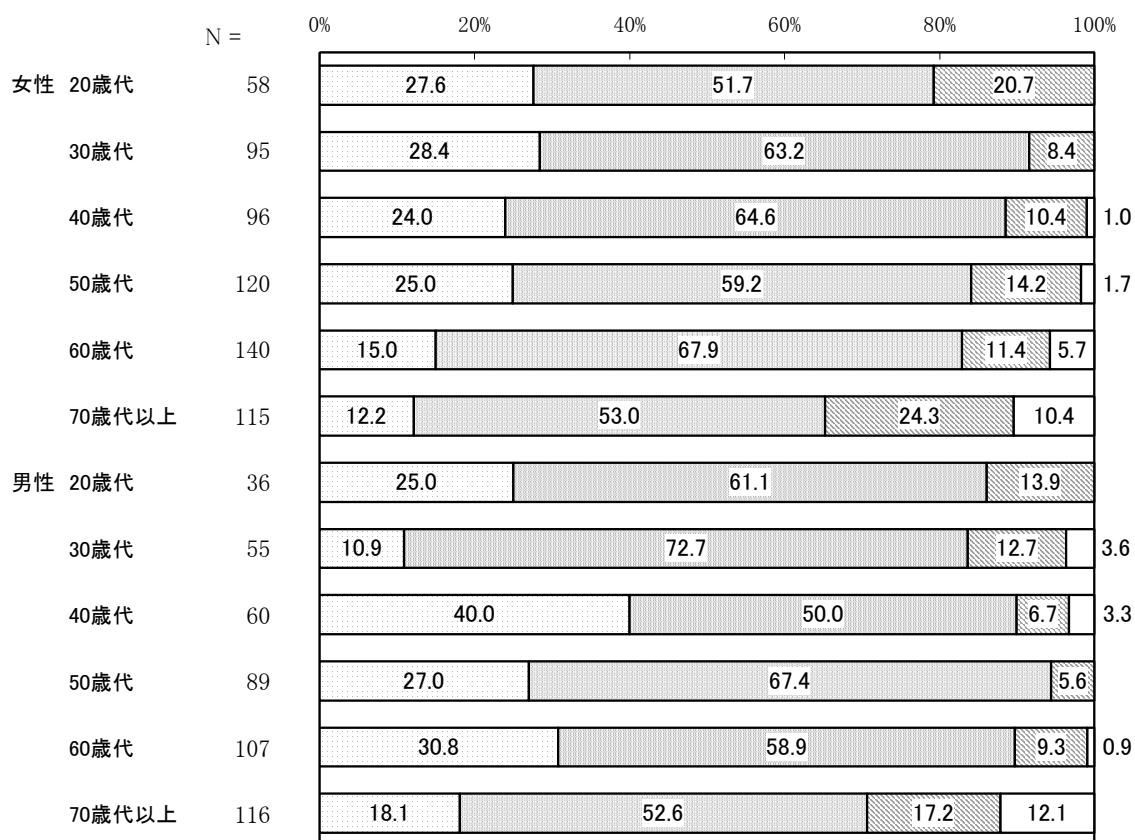
③男女雇用機会均等法



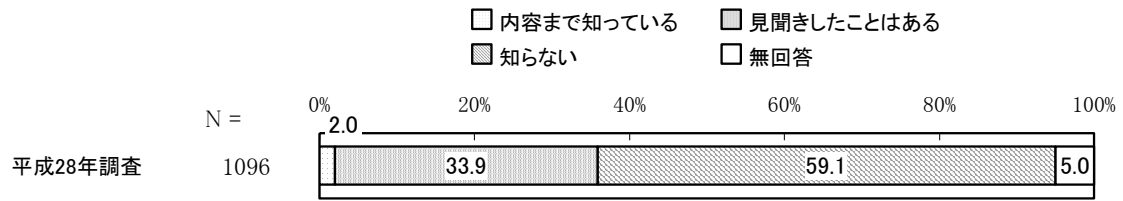
【性別】



【性年齢別】



④女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）

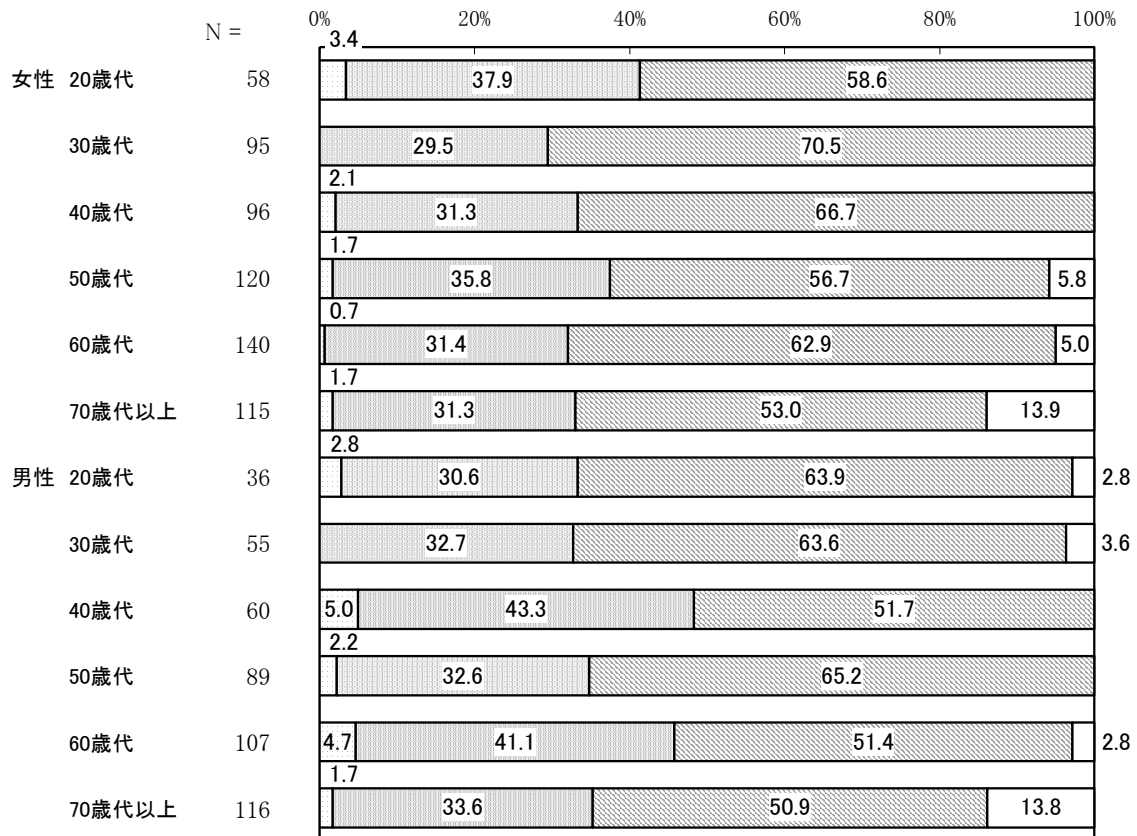


※「④女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」は平成 27 年 8 月の成立であるため、平成 23 年調査、平成 17 年調査の項目はありませんでした。

【性別】

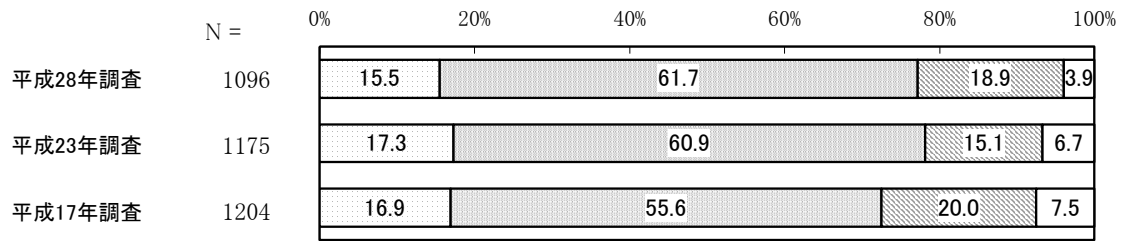


【性年齢別】

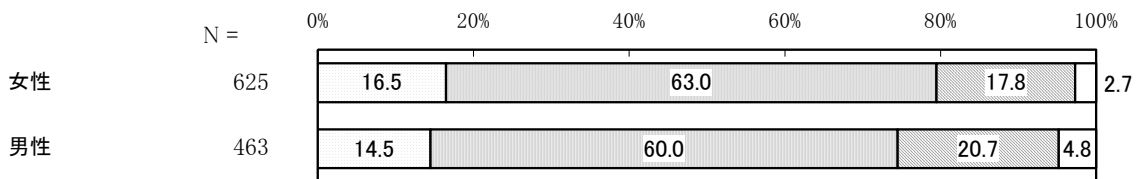


⑤育児・介護休業法

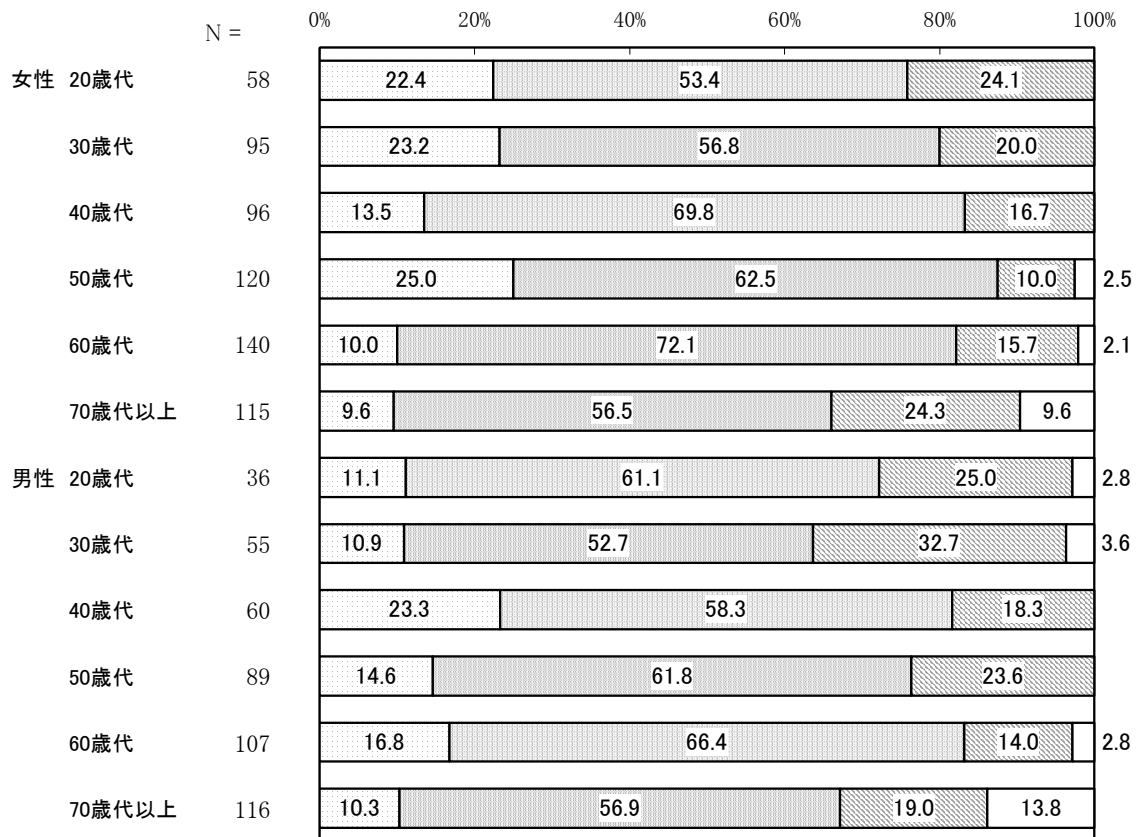
□ 内容まで知っている □ 見聞きしたことはある
 ■ 知らない □ 無回答



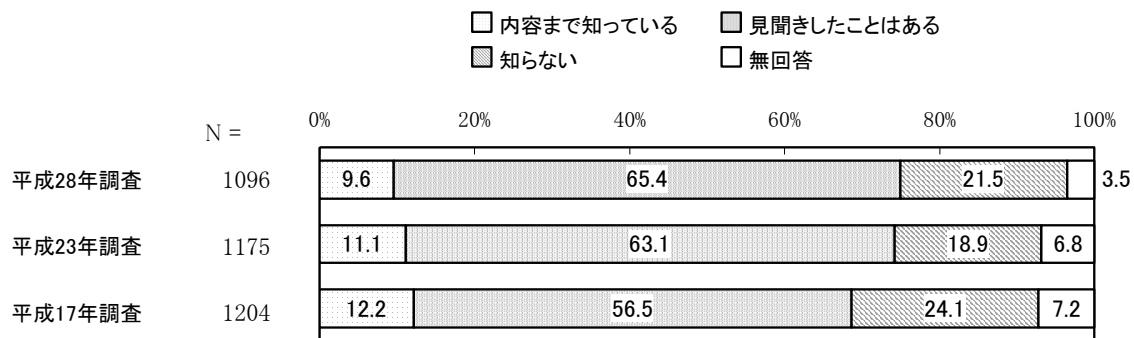
【性別】



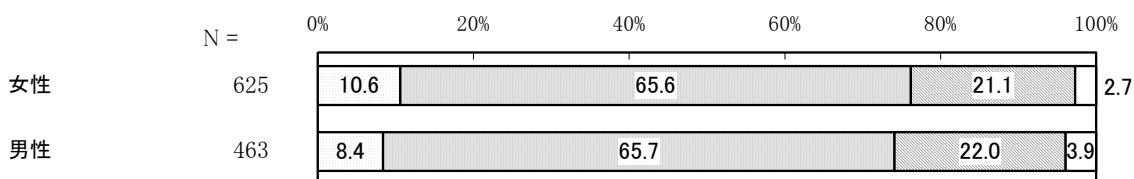
【性年齢別】



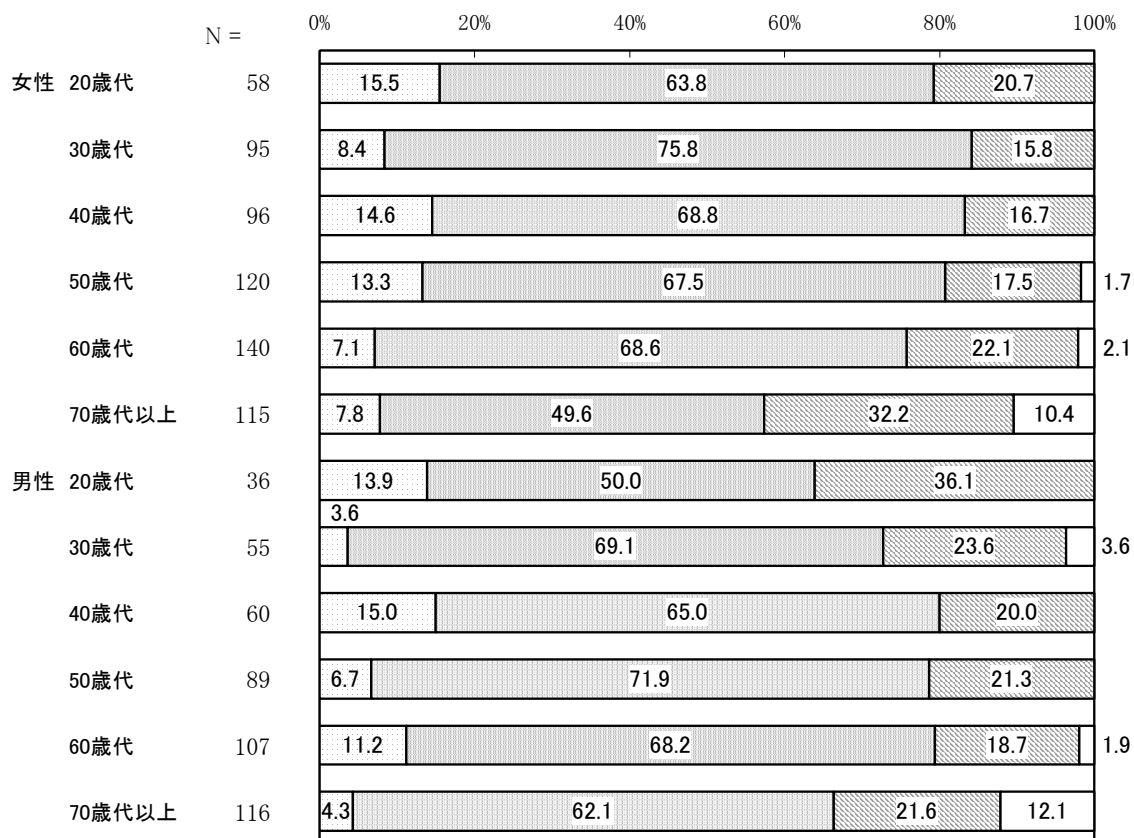
⑥配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）



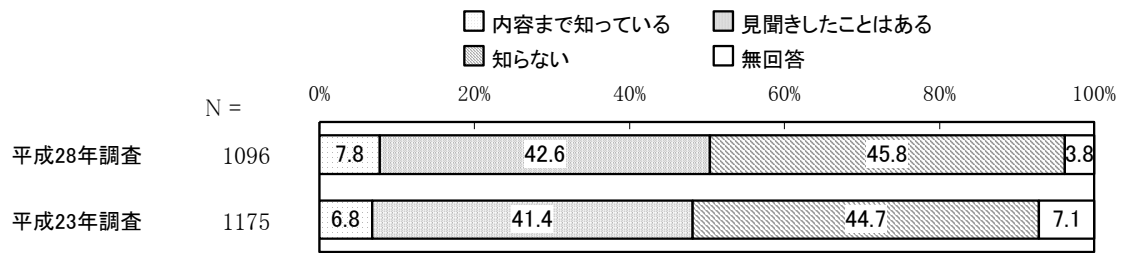
【性別】



【性年齢別】

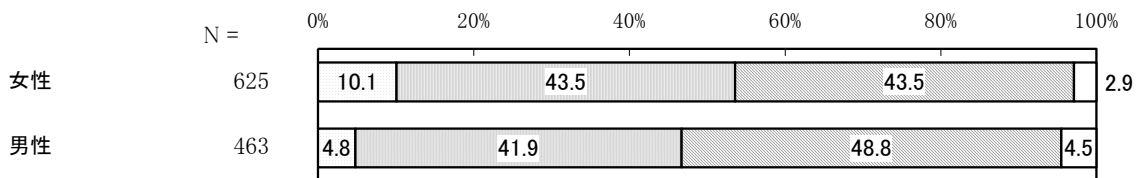


⑦デートDV（恋人同士など結婚していない男女間での体、言葉、態度による暴力）

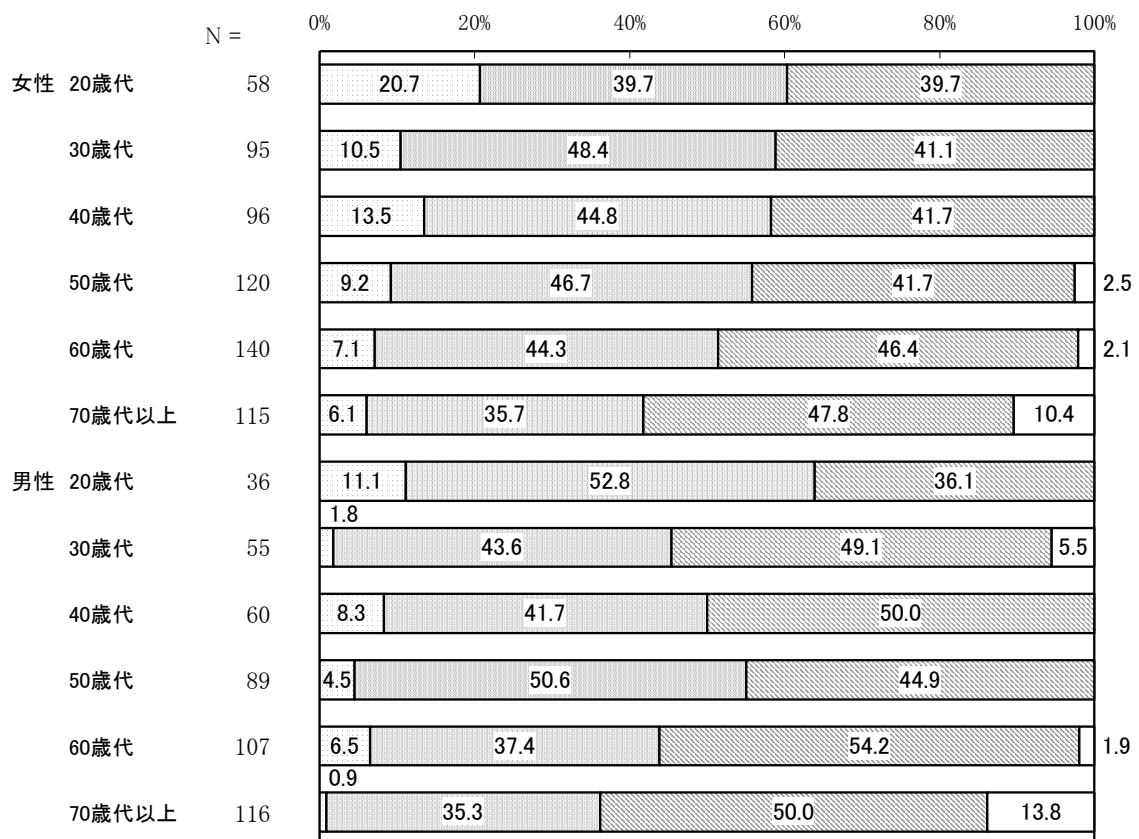


※平成17年調査では、「⑦デートDV（恋人同士など結婚していない男女間での体、言葉、態度による暴力）」の項目はありませんでした。

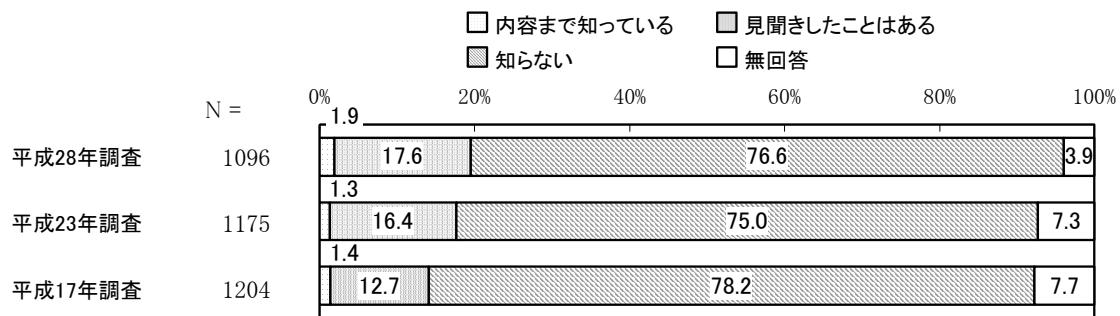
【性別】



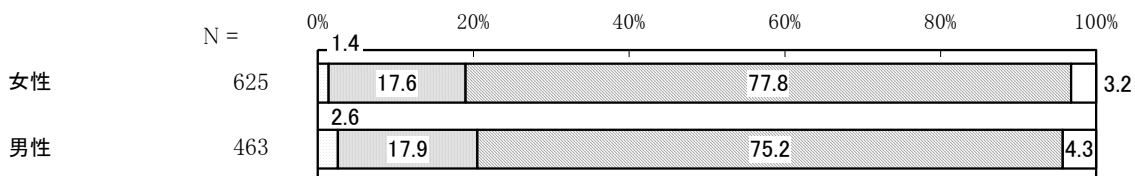
【性年齢別】



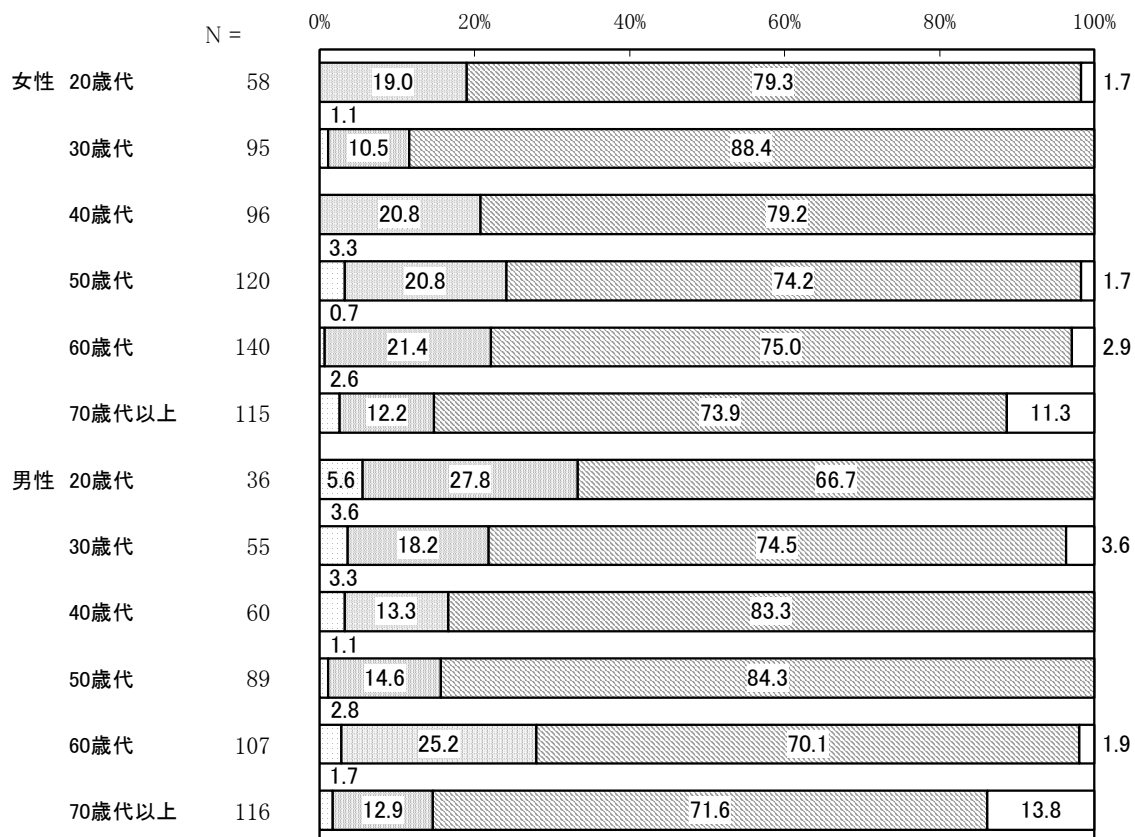
⑧ ポジティブ・アクション（積極的改善措置）



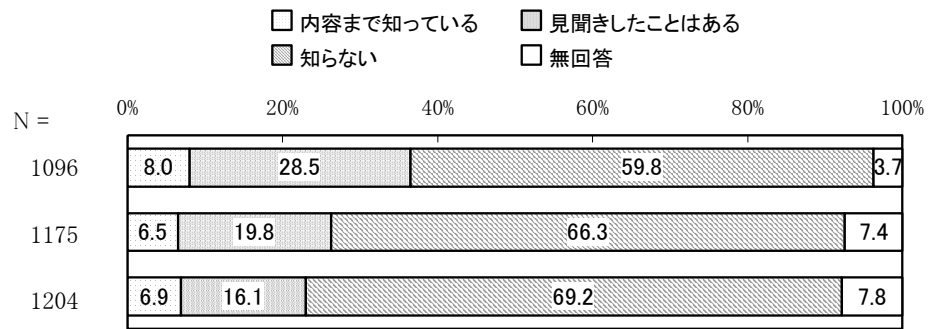
【性別】



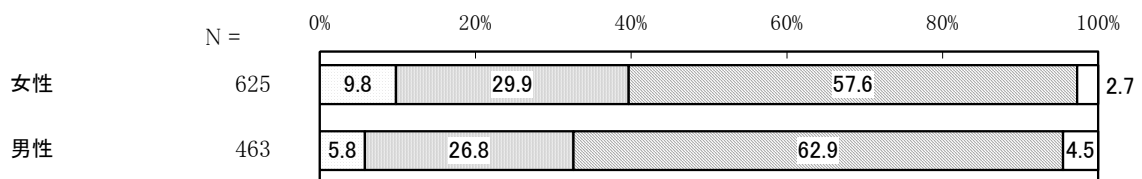
【性年齢別】



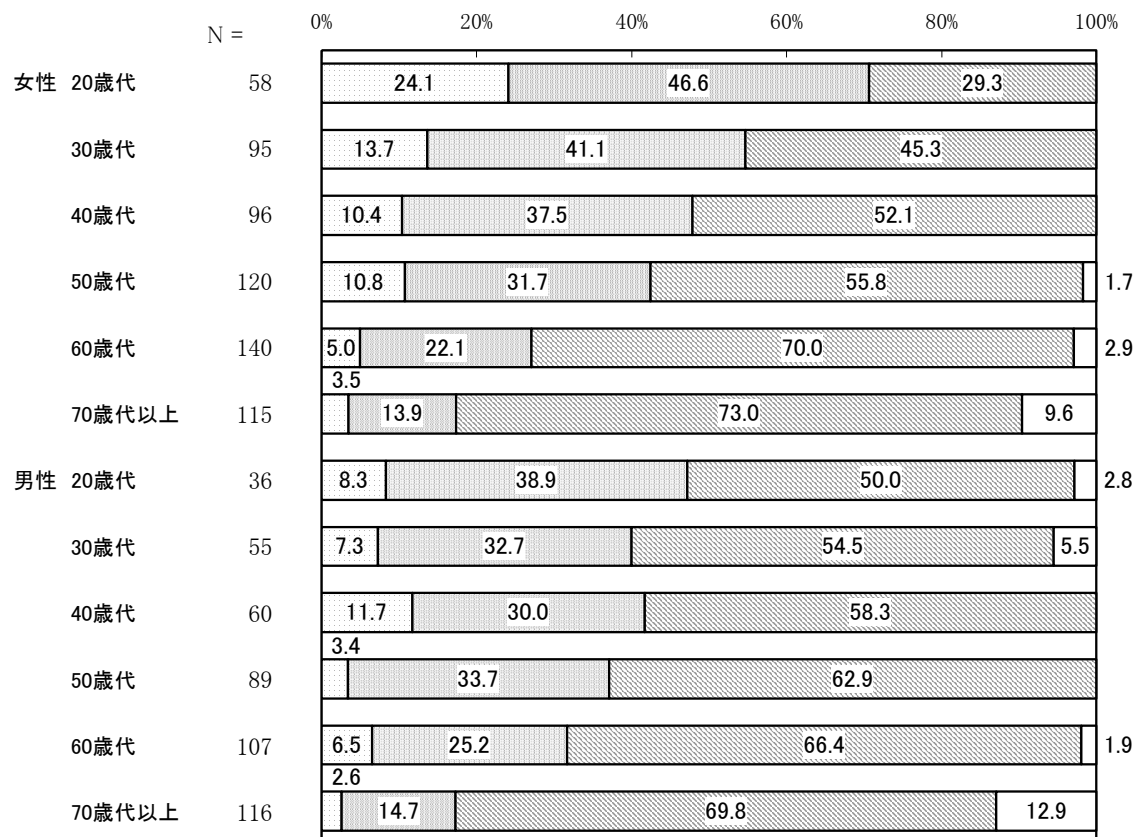
⑨ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）



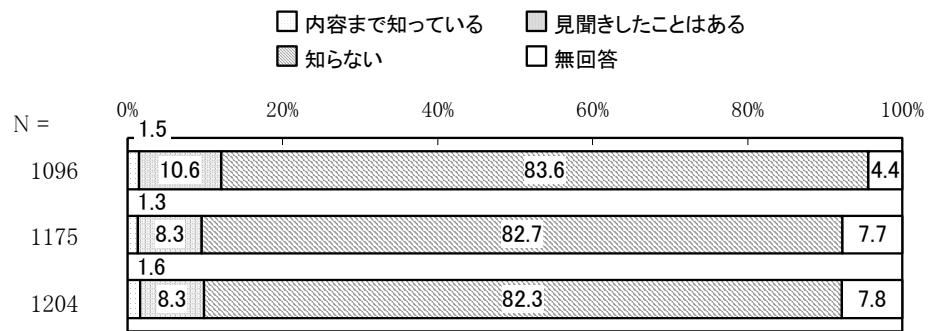
【性別】



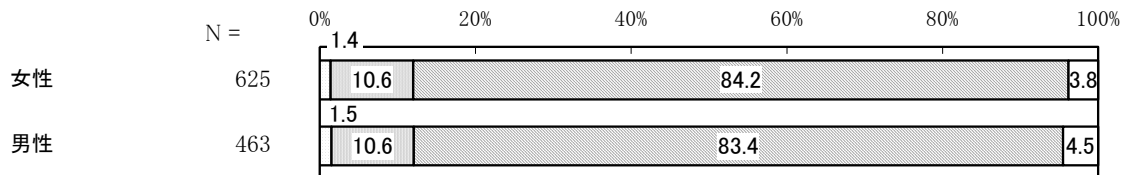
【性年齢別】



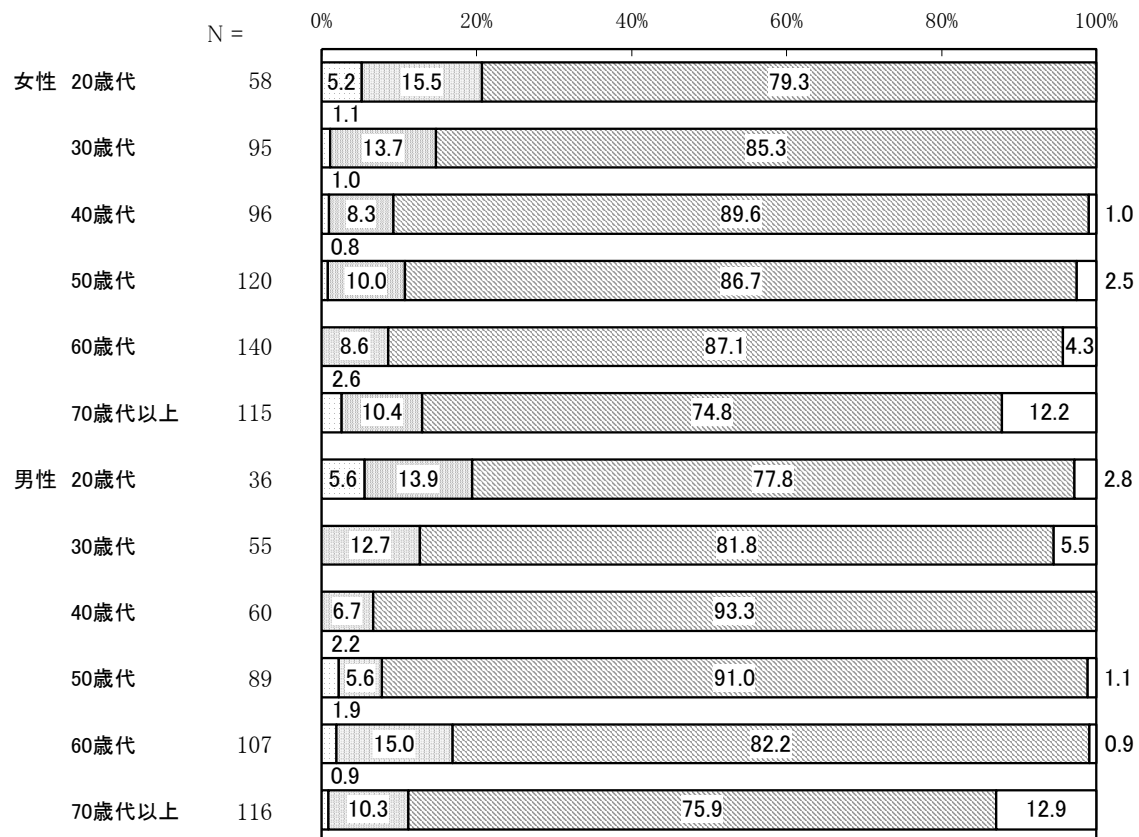
⑩リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康／権利）



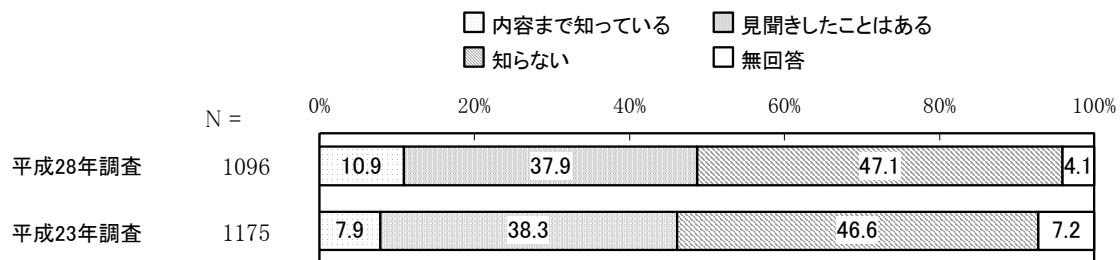
【性別】



【性年齢別】

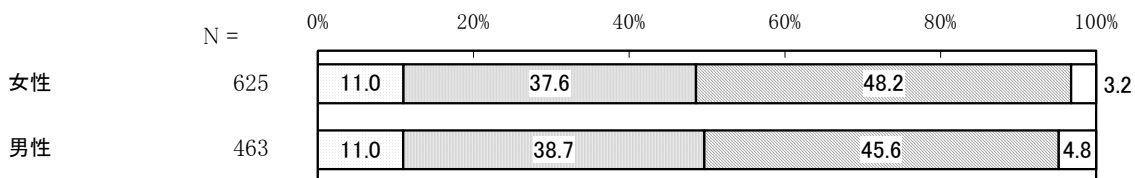


⑪ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

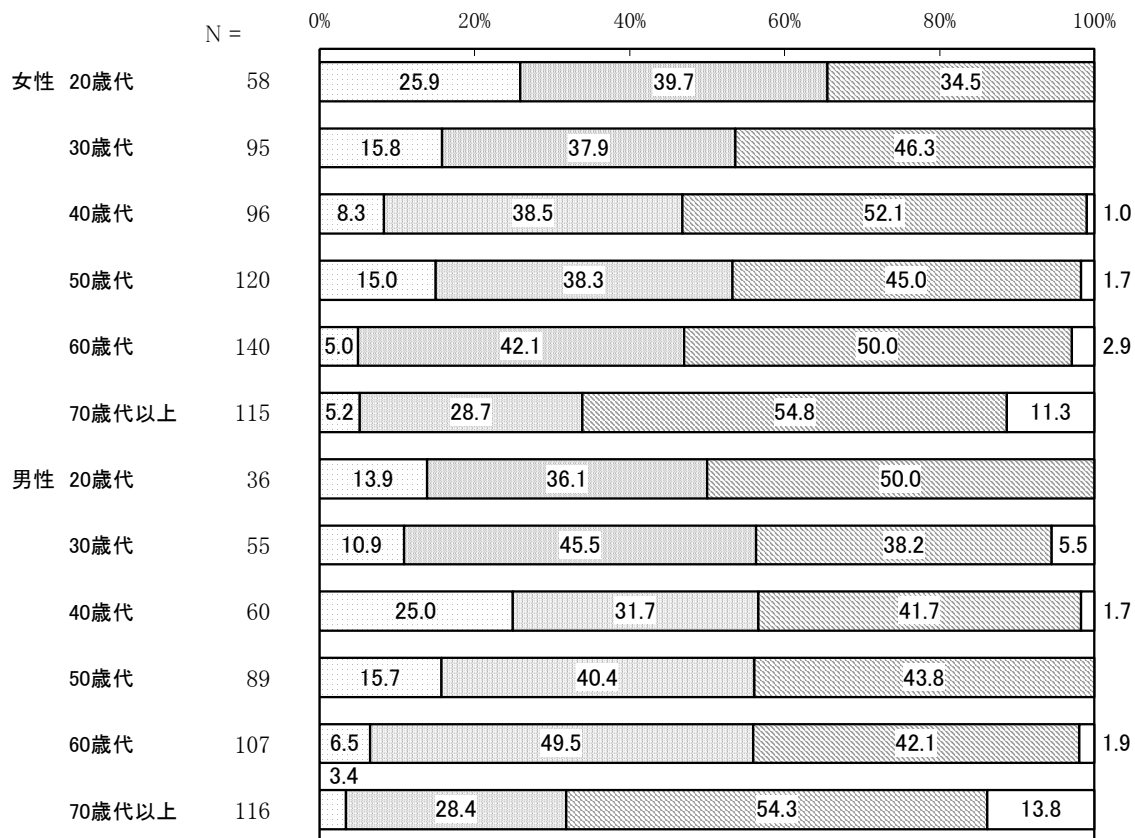


※「⑪ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」は、平成17年調査の項目にはありませんでした。

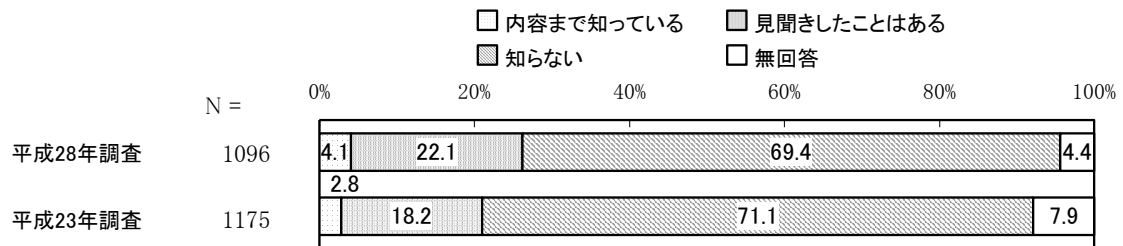
【性別】



【性年齢別】

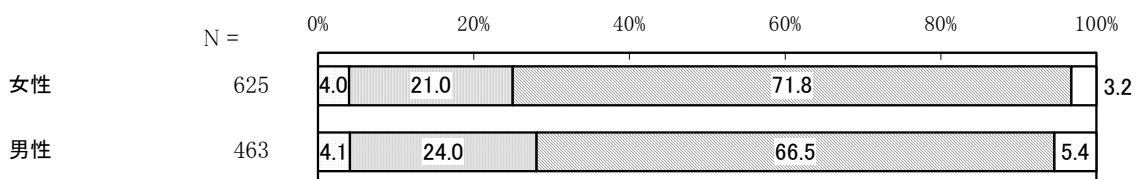


⑫メディア・リテラシー（メディアからの情報を読み解く能力）

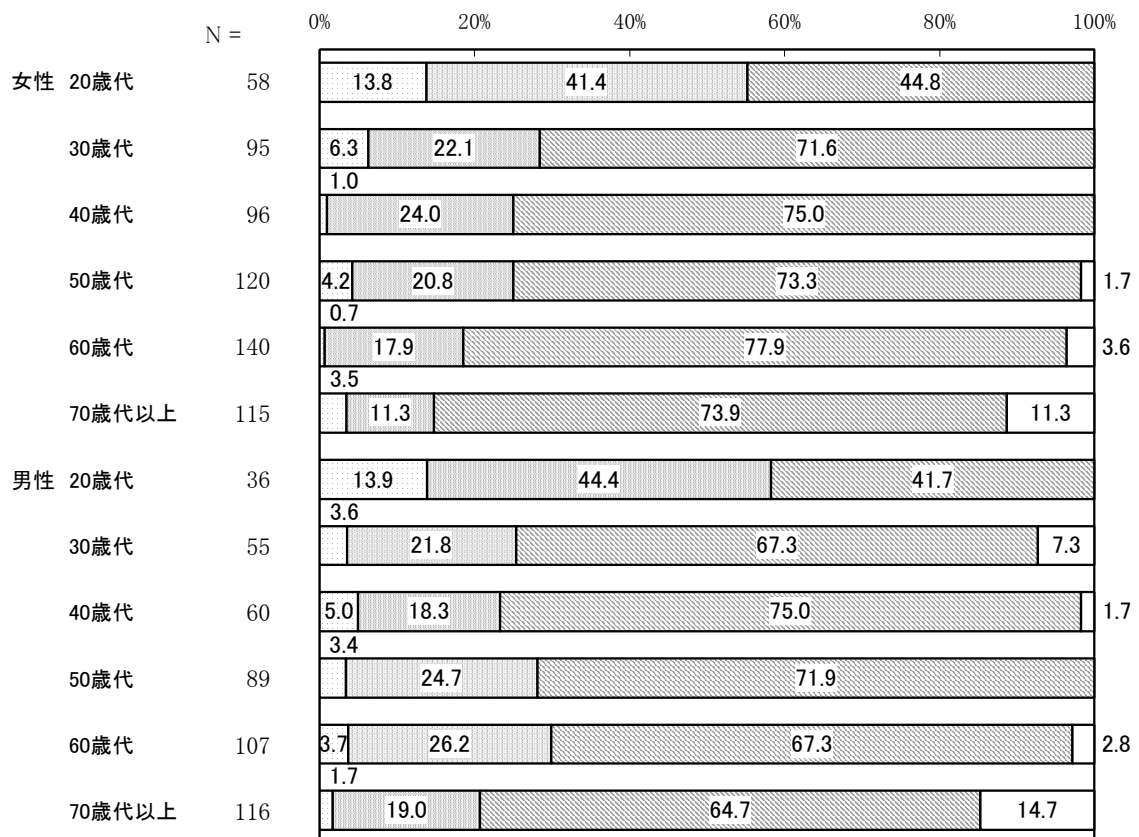


※「⑫メディア・リテラシー（メディアからの情報を読み解く能力）」は、平成17年調査の項目にはありませんでした。

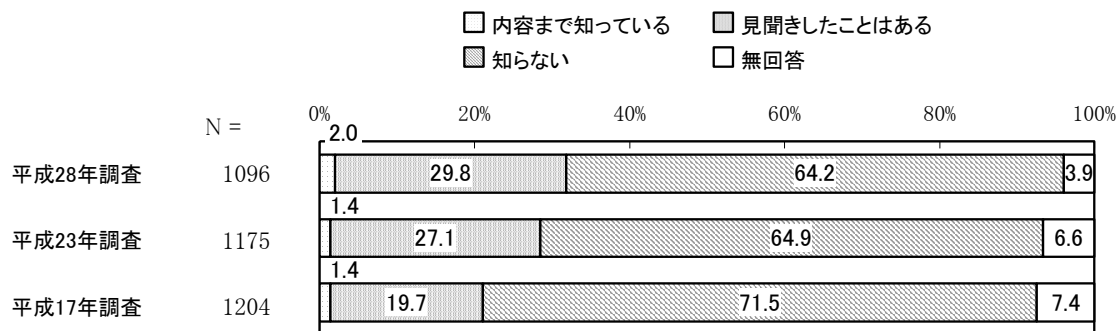
【性別】



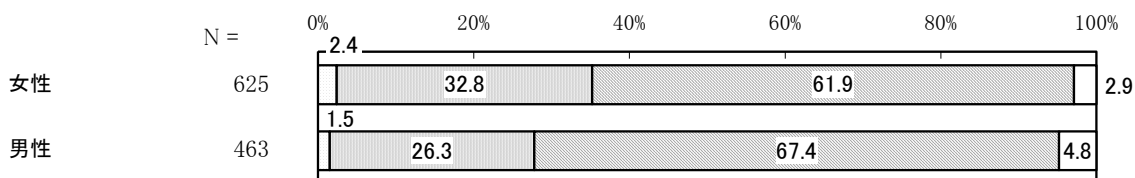
【性年齢別】



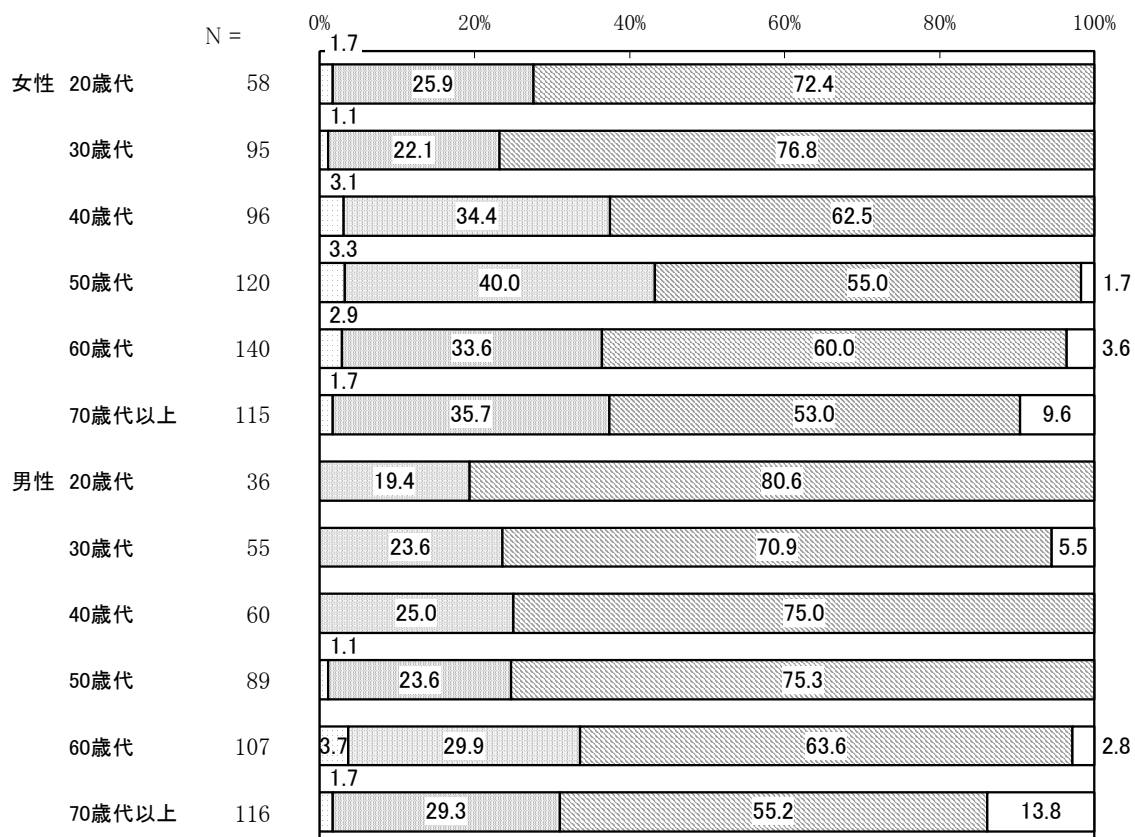
⑬姫路市男女共同参画プラン



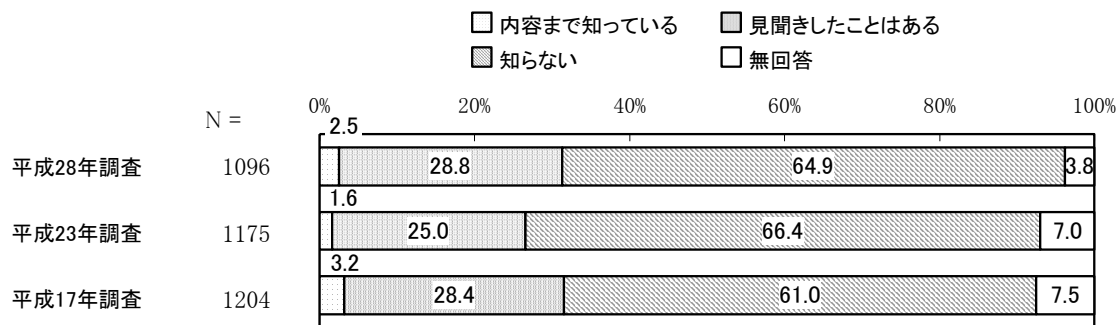
【性別】



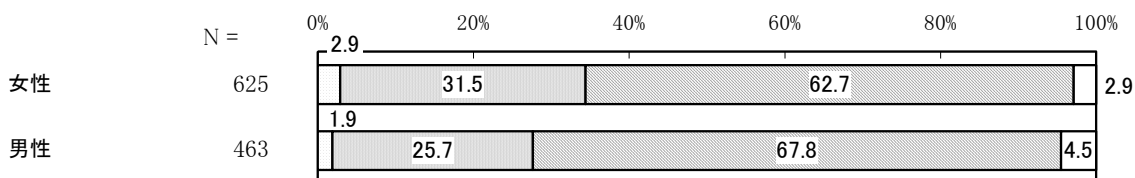
【性年齢別】



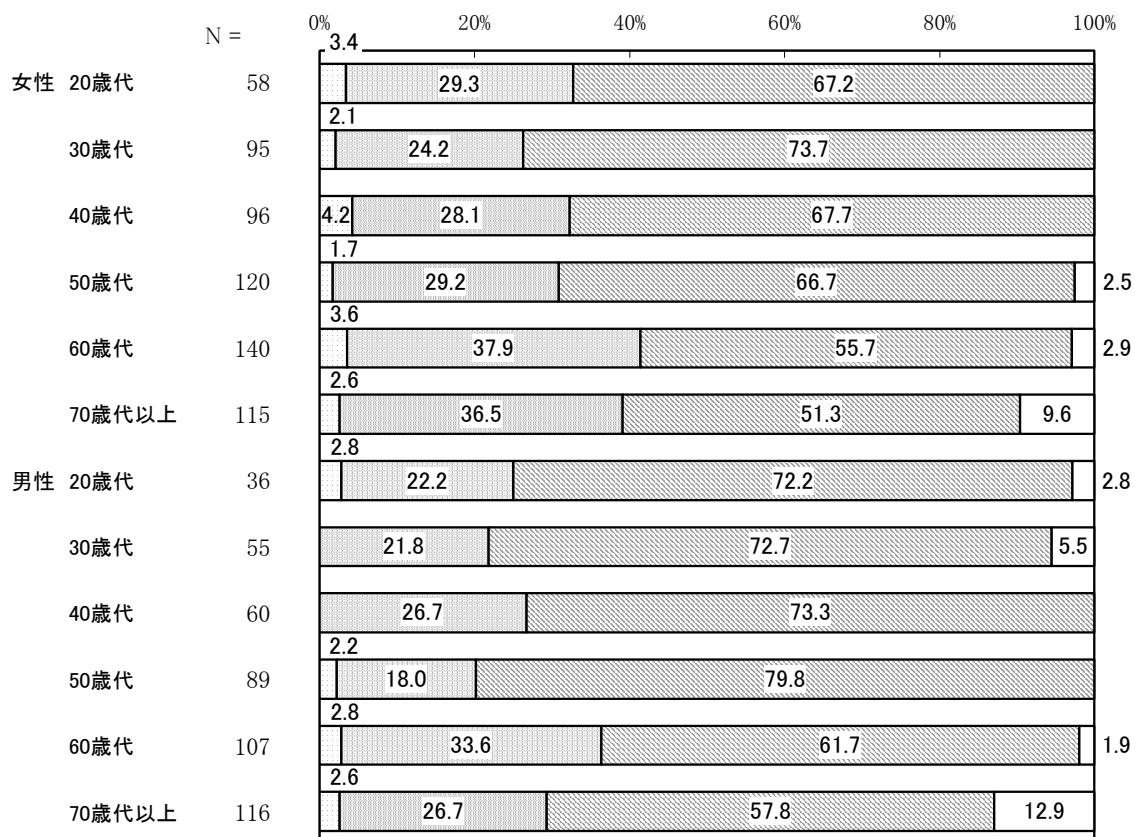
⑭配偶者暴力相談支援センター



【性別】



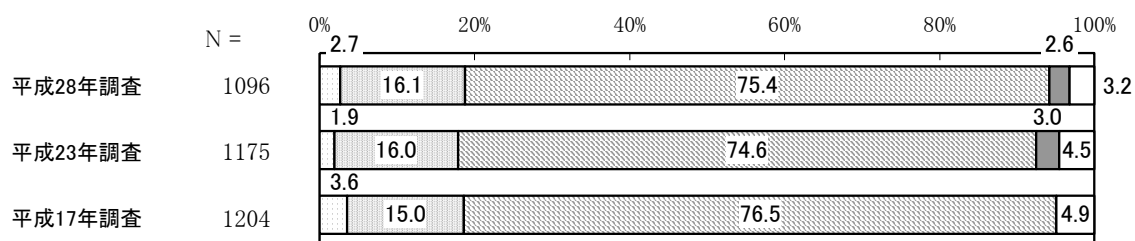
【性年齢別】



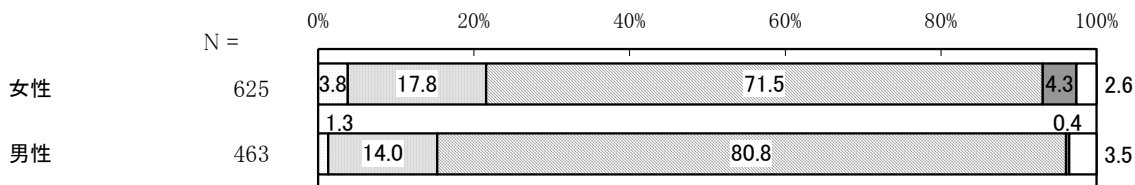
問 28 あなたは、姫路市男女共同参画推進センター「あいめっせ」をご存知ですか。また、利用したことがありますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

「センターの事業内容は知らないし、利用したこともない」の割合が75.4%と最も高く、次いで「センターの事業内容は知っているが、利用したことはない」の割合が16.1%となっています。平成17年調査、平成23年調査と比較すると、大きな差異は認められません。

- センターの事業内容を知っており、利用したことがある
- センターの事業内容は知っているが、利用したことはない
- センターの事業内容は知らないし、利用したこともない
- センターの事業内容は知らないが、利用したことがある
- 無回答

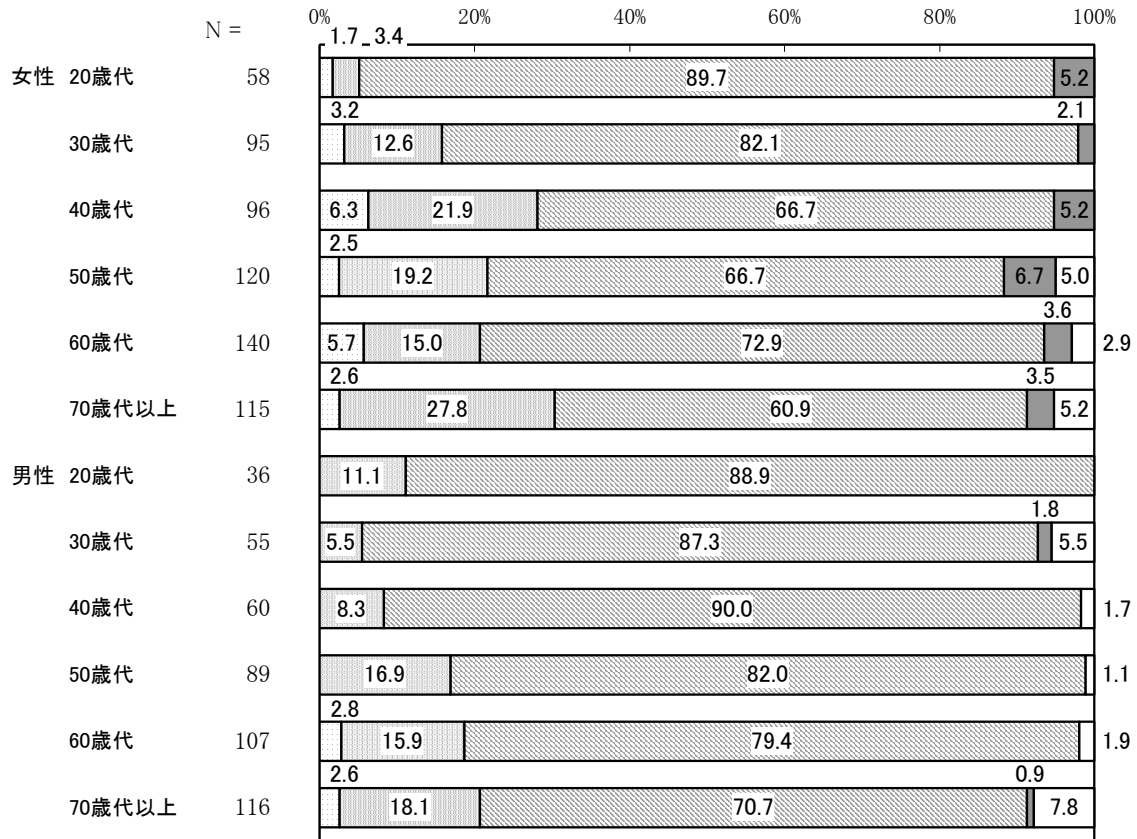


【性別】



【性年齢別】

- センターの事業内容を知っており、利用したことがある
- ▨ センターの事業内容は知っているが、利用したことはない
- ▩ センターの事業内容は知らないし、利用したこともない
- センターの事業内容は知らないが、利用したことがある
- 無回答

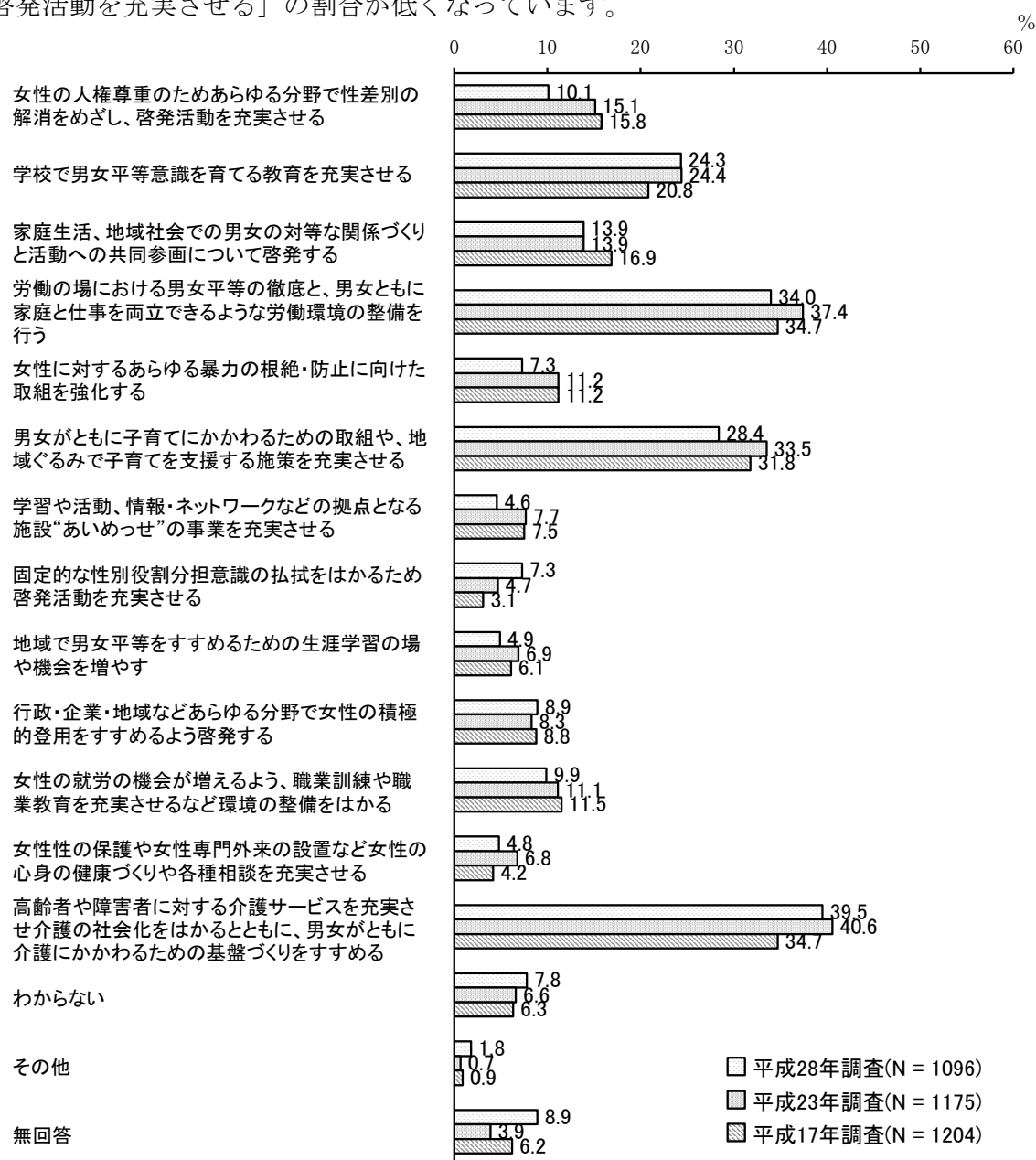


問 29 あなたは、男女共同参画社会を形成していくため、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中から3つまで（1つでもよい）選んで番号に○をつけてください。

「高齢者や障害者に対する介護サービスを充実させ介護の社会化をはかるとともに、男女がともに介護にかかわるための基盤づくりをすすめる」の割合が39.5%と最も高く、次いで「労働の場における男女平等の徹底と、男女ともに家庭と仕事を両立できるような労働環境の整備を行う」の割合が34.0%、「男女がともに子育てにかかわるための取組や、地域ぐるみで子育てを支援する施策を充実させる」の割合が28.4%となっています。

平成23年調査と比較すると、「女性の人権尊重のためあらゆる分野で性差別の解消をめざし、啓発活動を充実させる」、「男女がともに子育てにかかわるための取組や、地域ぐるみで子育てを支援する施策を充実させる」の割合が低くなっています。

平成17年調査と比較すると、「女性の人権尊重のためあらゆる分野で性差別の解消をめざし、啓発活動を充実させる」の割合が低くなっています。



【性別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	女性の人権尊重のためあらゆる分野で性差別の解消をめざし、啓発活動を充実させる	学校で男女平等意識を育てる教育を充実させる	家庭生活、地域社会での男女の対等な関係づくりと活動への共同参加について啓発する	労働の場における男女平等の徹底と、男女ともに家庭と仕事を両立できるような労働環境の整備を行う	女性に対するあらゆる暴力の根絶・防止に向けた取組を強化する	男女がともに子育てにかかわるための取組や、地域ぐるみで子育てを支援する施策を充実させる	学習や活動、情報・ネットワークなどの拠点となる施設「あいちっせ」の事業を充実させる	固定的な性別役割分担意識の払拭をはかるため啓発活動を充実させる
女性	625	8.2	21.8	13.4	36.6	6.7	28.6	5.6	7.5
男性	463	13.0	27.9	14.5	30.7	8.2	27.9	3.2	7.1

区分	地域で男女平等をすすめるための生涯学習の場や機会を増やす	行政・企業・地域などあらゆる分野で女性の積極的登用をすすめるよう啓発する	女性の就労の機会が増えるよう、職業訓練や職業教育を充実させるなど環境の整備をはかる	女性の健康づくりや各種相談を充実させる	高齢者や障害者に対する介護サービスを充実させ介護の社会化をはかるとともに、男女がともに介護にかかわるための基盤づくりをすすめる	わからない	その他	無回答
女性	3.5	8.0	12.0	6.6	44.8	7.2	0.8	8.8
男性	6.7	9.9	6.9	2.6	32.8	8.6	3.2	8.6

資料

男女共同参画に関する市民意識調査

ご協力をお願いします

姫路市では、全ての市民が人権尊重を基調に、性や世代にとらわれることなく一人ひとりの個性、資質、能力を認め合い、それらを十分に発揮し、支えあって暮らせる都市の実現を目指して策定している『姫路市男女共同参画プラン』に基づき、さまざまな取組を進めています。

本調査は、平成25年3月に策定した『姫路市男女共同参画プラン2022』の見直し及び「後期実施計画」（平成30年度から平成34年度までの5年間）の策定に当たり、市民の皆様への男女共同参画社会に関する意識や意向、ニーズを的確に把握し、今後の施策展開の参考とするため、皆様の日頃の生活やお考えをお聞きするものです。

調査対象者は、市内にお住まいの満20歳以上の男女3,000人を住民基本台帳から無作為に選ばせていただきました。調査は無記名であり、ご記入いただいた内容については、統計的に処理し、調査の目的以外には使用いたしません。

お忙しいところ恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

平成28年2月

姫路市男女共同参画推進課

調査票 ご記入上のお願い

- 1 封筒の**あて名の方ご本人**がご記入ください。
- 2 回答は、設問ごとにあてはまる番号を選び、その番号に○をつけていただくものがほとんどです。設問ごとに「**1つ選んで○**」、「**あてはまるものすべて選んで○**」など指定しておりますので、指示にしたがってご記入ください。
- 3 今回の調査は、「姫路市市民満足度調査」と同時に実施します。ご記入が終わりましたら、この調査票と「姫路市市民満足度調査」の調査票を同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、**2月29日（月）**までに、ご投函くださいますようお願い申し上げます。
- 4 パソコン、スマートフォンから回答する場合は、次のアドレス又はQRコードからホームページにアクセスのうえ、ご回答ください。
（パソコン）<https://e-hyogo.elg-front.jp/uketsuke/dform.do?acs=danjosiminisikityousaH28>
（スマートフォン）<https://e-hyogo.elg-front.jp/uketsuke/sform.do?acs=danjosiminisikityousaH28>
- 5 この調査に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

姫路市男女共同参画推進課 TEL 079-287-0803 FAX 079-287-0805

〒670-0012 姫路市本町68番地の290 イーグレひめじ3階



※「姫路市市民満足度調査」については、姫路市企画政策推進室（TEL 079-221-2383）までお問い合わせください。

あなた自身のことについておたずねします。

F1. あなたの性別はどちらですか。
あてはまるものを 1つ選んで番号に〇をつけてください。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

F2. あなたの年齢はおいくつですか（平成28年1月1日現在）。
あてはまるものを 1つ選んで番号に〇をつけてください。

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 20～29歳 | 2. 30～39歳 | 3. 40～49歳 |
| 4. 50～59歳 | 5. 60～69歳 | 6. 70歳以上 |

F3. あなたの職業は次のどれにあたりますか。
あてはまるものを 1つ選んで番号に〇をつけてください。

- | | |
|--------------------|---|
| 1. 勤め人（常勤） | 2. 勤め人（非常勤、パートタイム、アルバイトなど） |
| 3. 農林水産業（家族従事者を含む） | 4. （3以外の）その他自営業
（事業の経営者、家業の手伝い、内職など） |
| 5. 学生 | 6. 専業主婦・専業主夫 |
| 7. 無職（5及び6を除く） | 8. その他 |

F4. あなたは結婚されていますか。
あてはまるものを 1つ選んで番号に〇をつけてください。

- | | |
|----------|---------------|
| 1. 未婚 | 2. 既婚（事実婚を含む） |
| 3. 離別、死別 | |

F4-1 この設問は、F4で「2. 既婚（事実婚を含む）」と回答した方にもおたずねします。
あなたの配偶者・パートナーの就労状況はどれですか。
あてはまるものを 1つ選んで番号に〇をつけてください。

- | | |
|--------------------|---|
| 1. 勤め人（常勤） | 2. 勤め人（非常勤、パートタイム、アルバイトなど） |
| 3. 農林水産業（家族従事者を含む） | 4. （3以外の）その他自営業
（事業の経営者、家業の手伝い、内職など） |
| 5. 学生 | 6. 専業主婦・専業主夫 |
| 7. 無職（5及び6を除く） | 8. その他 |

F5. あなたはお子さんがいらっしゃいますか。
 あてはまるものを 1つ選んで番号に○をつけてください。

1. いない	2. 1人	3. 2人	4. 3人	5. 4人以上
--------	-------	-------	-------	---------

F6. あなたの世帯状況はどれですか。
 あてはまるものを 1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 単身世帯（ひとり暮らし）	2. 一世代世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ）
3. 二世帯世帯（親と子など）	4. 三世帯世帯（親と子と孫など）
5. その他	



ここからは、あなたの男女共同参画に関する考え方などをおたずねします。
 内容は全て統計的に処理を行いますので、ご回答いただいた方のお名前や回答内容が分かることはありません。ありのままお答えください。

男女共同参画の状況についておたずねします。

問 1 あなたは、今の社会において、次の各分野で男女の地位はどのようになっていると思いますか。①から⑧のそれぞれについて（ア）～（カ）の中からあなたの気持ちに最も近いものを 1つずつ選んで番号に○をつけてください。

	(ア) 男性の方が非常に優遇されている	(イ) どちらかといえば男性の方が優遇されている	(ウ) 平等	(エ) どちらかといえば女性の方が優遇されている	(オ) 女性の方が非常に優遇されている	(カ) わからない
①家庭生活では	1	2	3	4	5	6
②職場では	1	2	3	4	5	6
③学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
④政治の場では	1	2	3	4	5	6
⑤地域活動の場では	1	2	3	4	5	6
⑥法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
⑦社会通念、慣習・しきたりでは	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体では	1	2	3	4	5	6

問 2 社会にはいろいろな面で男女間に不平等があるといわれていますが、不平等が生じる原因はどこにあると思いますか。次の中から3つまで(1つでもよい) 選んで番号に○をつけてください。

1. 男女の生まれつきの身体的・生理的な差
2. これまでにつくられた男女の能力・適性のちがい
3. 男女の役割についての固定観念
4. 社会の慣習やしきたり
5. 法律や制度上の差
6. 職業生活面での有利・不利
7. 女性の自覚や理解の不足
8. 男性の自覚や理解の不足
9. 売買春、風俗産業、女性の裸体を扱うマスコミ・メディアなど、女性を商品化する風潮
10. 男女不平等な点はない
11. わからない
12. その他

問 3 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野に参画していくためには、どのようなことが最も重要だと思いますか。
次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること
2. 男女にかかわる、さまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
3. 女性自身が経済力をつけたり知識・技術を習得したりするなど、積極的に力の向上をはかること
4. 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること
5. 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
6. わからない
7. その他

問4 あなたは、今後どのような分野、領域で女性の参画が必要になると思いますか。
次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1. 地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野
2. 環境保全に対する女性の高い関心や豊かな知識、経験を生かすことができる環境分野
3. 被災・復興状況における女性をめぐる諸問題の解決など防災・災害復興分野
4. 女性研究者の採用機会の確保や理工系への進路選択の支援など科学技術分野
5. 農業経営への参画、家族経営協定^(*)など農林水産分野
6. 審議会委員などへの任命、管理職への登用、職域の拡大など政策・方針決定領域
7. 国会・地方議会の議員など政治分野
8. その他

(*)農家の家族の間で労働条件や報酬などを文書で取り決め、第三者の立ち会いで調印することにより、家族の共同経営者としての地位や役割が明確になり、近代的な農業経営が確立される。

職業生活についておたずねします。

問5 理想的な女性のライフスタイルと実際の状況（現実）についておたずねします。
あなたが女性の場合はあなた自身について、男性であればあなたの妻について、理想と現実をそれぞれ（ア）～（カ）の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。
※結婚していない方も、結婚していると仮定してお答えください。

	(ア) 職業をもたない	(イ) 結婚するまでは、職業をもつ	(ウ) 子どもができるまでは、職業をもつ	(エ) 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ	(オ) ずっと職業を続ける	(カ) わからない
①理想	1	2	3	4	5	6
②現実	1	2	3	4	5	6

問6 あなたは、女性が働く上で、支障となることはどのようなことだと思いますか。
次の中から3つまで（1つでもよい）選んで番号に○をつけてください。

1. 家事の負担が大きいこと
2. 夫・子どもの世話の負担が大きいこと
3. 高齢者の世話の負担が大きいこと
4. 夫・子どもなどの理解や協力がでないこと
5. 保育体制の不備
6. 老人福祉施設、介護サービスを利用しにくいこと
7. 職場で男女差別があること
8. 職場での結婚・出産退職の慣例があること
9. 夫の転勤や長時間労働
10. 女性の働き口自体が少ないこと
11. 支障となることは特にない
12. わからない
13. その他

問7 この設問は、就労している方（F3で「1. 勤め人（常勤）」「2. 勤め人（非常勤、パートタイム、アルバイトなど）」「3. 農林水産業」「4. その他自営業」と回答した方）にのみおたずねします。
※ただし、「5. 学生」と回答した方でも、アルバイトなどで就労している方は、お答えください。

あなたの職場で、現在次のようなことがありますか。

次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1. 女性は昇進・昇格が遅い、または望めない
2. 同期に同年齢で入社した男女では賃金、昇給に差がある
3. 男女間で社内研修や教育訓練、出張や視察などの機会に差がある
4. 定年の年齢に男女間で差がある
5. 女性が結婚や出産を機に退職する慣習がある
6. 女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある
7. 女性は補助的な仕事しかさせてもらえない
8. お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い
9. セクシュアル・ハラスメントを経験した、または周りに経験した人がいる
10. 特に男女格差はない
11. その他

問8 あなたは一般的に、男女がともに職業人として職場で能力を発揮し、かつ継続して勤務するためには、どのようなことが重要だと思いますか。

次の中から3つまで（1つでもよい）選んで番号に○をつけてください。

1. 職業人として自覚をもつこと
2. 仕事に必要な職業能力を身につけること
3. 「男は仕事、女は家庭」という従来の社会通念が変わること
4. 採用、職場配置、研修などにおいて、男女の機会均等が確保されること
5. 能力や実績に応じた評価（給料面を含む）がなされること
6. 男女ともに育児休暇が取りやすくなること
7. 男女ともに介護休暇が取りやすくなること
8. 結婚、出産などによりいったん退職した人が同じ企業に再び雇用されるようになること
9. わからない
10. その他

結婚、家庭生活と男女の役割についておたずねします。

問 9 あなたは、結婚、家庭に関する次のような考えについて、どのように思いますか。

①から⑤のそれぞれについて（ア）～（オ）の中からあなたの気持ちに最も近いものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

	(ア) 賛成	(イ) どちらかとい えば 賛成	(ウ) どちらかとい えば 反対	(エ) 反対	(オ) わから ない
①結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
③女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい	1	2	3	4	5
④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4	5
⑤結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4	5

問 10 あなたは、次にあげるような家庭内の仕事を、主にだれが分担するのが理想だと思いますか。①から⑥のそれぞれについて（ア）～（キ）の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

※結婚していない方も、結婚していると仮定してお答えください。

	(ア) 夫	(イ) 妻	(ウ) 夫妻とも同 じくらい	(エ) 子ども	(オ) 家族全 員	(カ) その他 の人	(キ) わから ない
①食事のしたく	1	2	3	4	5	6	7
②食事の後かたづけ、食器洗い	1	2	3	4	5	6	7
③掃除	1	2	3	4	5	6	7
④洗濯	1	2	3	4	5	6	7
⑤育児・しつけ	1	2	3	4	5	6	7
⑥看護・介護	1	2	3	4	5	6	7

問 11 この設問は、F4で「2. 既婚（事実婚を含む）」と回答した方にのみおたずねします。

あなたの家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、実際に主にだれが分担していますか。①から⑥のそれぞれについて（ア）～（キ）の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

	(ア) 夫	(イ) 妻	(ウ) 夫妻と も同じ くらい	(エ) 子ども	(オ) 家族 全員	(カ) その他 の人	(キ) わから ない
①食事のしたく	1	2	3	4	5	6	7
②食事の後かたづけ、食器洗い	1	2	3	4	5	6	7
③掃除	1	2	3	4	5	6	7
④洗濯	1	2	3	4	5	6	7
⑤育児・しつけ	1	2	3	4	5	6	7
⑥看護・介護	1	2	3	4	5	6	7

問 12 あなたは、子育てについて、どのように考えますか。

次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

※お子さんのいない方もいると仮定してお答えください。

1. 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい
2. 男の子も女の子も同じように育てた方がよい
3. 男の子には女の子よりも高等教育を受けさせたい
4. 女の子には男の子よりも高等教育を受けさせたい
5. 男の子も女の子も本人が望むように教育を受けさせたい
6. わからない
7. その他

問 13 安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思いますか。
次の中から3つまで（1つでもよい）選んで番号に○をつけてください。

1. 出産・育児に対する経済的な支援の拡充
2. 保育サービスの充実
3. ファミリーサポートセンター事業^(*1)や放課後児童クラブ^(*2)など地域の子育て支援の充実
4. 子育て中の柔軟な勤務形態の普及
5. 父親が子育てに十分かかわることができる職場環境の整備
6. 出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり
7. 子育て中の仲間づくり支援
8. 子育ての悩み相談の充実
9. 子育て中の専業主婦のリフレッシュ支援
10. ひとり親家庭の支援
11. わからない
12. その他

(*1)ファミリーサポートセンター事業は、乳幼児や小学生等の児童を有する子育て中の労働者や主婦等を会員として、児童の預かりの援助を受けることを希望する者と当該援助を行うことを希望する者との相互援助活動に関する連絡、調整を行うもの。

(*2)小学校の授業終了後、保護者の労働等により家庭で保護を受けられない児童のために、学校や地域の協力を得て開設し、留守家庭児童の保護・健全育成を図るもの。従前は「学童保育園」と呼んでいたもの。

問 14 もし、あなたが介護が必要になったら、主にだれに世話をしてもらいたいですか。
次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1. 配偶者・パートナー | 2. 娘 |
| 3. 息子 | 4. 娘の夫 |
| 5. 息子の妻 | 6. その他の親族 |
| 7. ホームヘルパーや公的な介護制度の利用 | 8. 病院や老人福祉施設への入所 |
| 9. その他 | |

問 15 あなたは、高齢者介護が女性の役割となりがちである現状についてどのように考えますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 女性の役割だと思う
2. 問題があるが、現状ではやむをえない
3. 男性も女性とともに介護するべきである
4. 男女にかかわらず、主に実の子どもが介護するべきである
5. 原則として介護は社会が行うべきである
6. わからない
7. その他

社会参加についておたずねします。

問 16 あなたは、次のような活動に参加していますか。また、今後参加したい活動はありますか。①から⑧のそれぞれについて（ア）～（エ）の中から 1つずつ選んで番号に○をつけてください。

	（ア） 現在参加している	（イ） 現在参加していないが、今後参加したい	（ウ） 参加したくない	（エ） わからない
①趣味・学習・スポーツ活動	1	2	3	4
②自治会・PTA・子ども会など地域活動	1	2	3	4
③リサイクル・消費生活活動	1	2	3	4
④国際交流活動	1	2	3	4
⑤ボランティア活動・福祉活動	1	2	3	4
⑥環境保護、まちづくりなどの住民運動や社会活動	1	2	3	4
⑦政治活動や宗教活動	1	2	3	4
⑧その他	1	2	3	4

問 17 あなたが社会活動に参加しようとする上で、支障となることはどのようなことですか。次の中から あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1. 仕事が忙しい	2. 家事が忙しい
3. 小さい子どもがいる	4. 病人、高齢者がいる
5. 家族の理解や協力がでない	6. 活動する仲間や場所が少ない
7. 健康や体力に自信がない	8. 職場の理解がない
9. 社会活動に関する情報が少ない	10. グループの人間関係がわずらわしい
11. 支障となることは特にない	12. その他

問 18 あなたの住んでいる地域（自治会など）で、現在次のようなことがありますか。次の中から あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1. 会議や行事などで女性が飲食の世話や後かたづけをすることが多い
2. 会議や行事などで女性が意見を言いにくい、意見を取り上げてもらいにくい
3. 役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい
4. 地域の行事で女性が参加できないものがあるなど、男性と差がある
5. 地域の活動に女性が少ないため歓迎される
6. 地域の活動には女性の方が積極的に活発である
7. セクシュアル・ハラスメントを経験した、または周りに経験した人がいる
8. 特に男女格差はない
9. その他

問 19 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
5. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること
6. 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること
7. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
8. 国や地方自治体の研修などにより、男性の家事や子育て、介護などの技能を高めること
9. 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめること
10. 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について男性が相談しやすい窓口を設けること
11. 特に必要なことはない
12. その他

問 20 あなたは、防災分野における男女共同参画の推進のためには、どのようなことが必要だと思いますか。

次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1. 防災対策に男女共同参画の視点を反映させるため、防災会議における女性委員の割合を高めること
2. 避難所運営に男女双方の視点が反映するよう、男女それぞれの責任者を配置すること
3. 女性消防団員の入団を促進すること
4. 市民、消防団、自治防災組織などを対象とした研修訓練の実施にあたり男女共同参画の視点からの内容を盛り込むこと
5. 地域防災計画や避難所運営マニュアルに男女共同参画の視点をより具体的に記述すること
6. 地域の防災を担う女性リーダーなどの人材を育成すること
7. 特に必要なことはない
8. わからない
9. その他

ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)についておたずねします。

問 21 あなたが生活していく中で、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度について、どのような状態が理想だと考えますか。また、実際の状況(現実)はどうですか。

理想と現実それぞれについて1つ選んで番号に〇をつけてください。

(1) 理想

1. 「仕事」を優先
2. 「家庭生活」を優先
3. 「地域・個人の生活」を優先
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
8. わからない

(2) 現実

1. 「仕事」を優先
2. 「家庭生活」を優先
3. 「地域・個人の生活」を優先
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
8. わからない

問 22 あなたは、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現のためにどのような工夫をしたらよいと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に〇をつけてください。

1. 残業を減らすようにする
2. 年次有給休暇をしっかりとる
3. 仕事の段取りを工夫する
4. 効率よく仕事をする
5. 家事能力を高める
6. 自己啓発、能力向上のための取組を行う
7. 興味をもてる活動(学習・趣味・スポーツ)を探す
8. 自分のための時間をとる
9. 地域活動、NPO活動に参加する
10. 消費者として企業や商店に過剰なサービスを求めない
11. その他

人権についておたずねします。

問 23 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのようなことについてですか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1. 男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）
2. 昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い
3. 女性の社会進出のための支援制度の不備
4. 家庭内での夫婦間の暴力やパートナーからの暴力
5. 職場などにおけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）
6. ストーカー行為
7. 売買春、援助交際
8. アダルトビデオ、ポルノ雑誌における女性のヌード写真や映像の商品化など
9. 電車内など公共の場における性情報の氾濫
10. 女性の容姿を競うコンテスト
11. わからない
12. その他

問 24 あなたは、現在のテレビ、新聞、雑誌などのメディアにおける性・暴力表現について、どのように思いますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 問題があると思う
2. どちらかといえば問題があると思う
3. どちらかといえば問題はないと思う
4. 問題はないと思う
5. わからない

問 24-1 この設問は、問 24 で「1. 問題があると思う」「2. どちらかといえば問題があると思う」と回答した方にのみおたずねします。

あなたは、メディアにおける性・暴力表現について、どのような点で問題があると思いますか。

次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1. 女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の人権が侵害されている
2. 社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている
3. 女性に対する暴力を助長する
4. そのような表現を望まない人や子ども目の触れている
5. 児童に対する性犯罪を助長する
6. わからない
7. その他

問 25 妊娠・出産をになう女性は、男性とは異なった体や心の問題に直面することがあります。男女が生涯にわたり心身ともに健康であるためにどのようなことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1. 性について正しい知識を持ち、判断する力をつけること
2. 妊娠・出産・避妊・中絶に関する情報の提供
3. 思春期、青年期、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進
4. 学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施
5. あらゆる機会における健康診断等の促進
6. 心身にわたるさまざまな悩みに対応する相談体制の整備
7. わからない
8. その他

問 26 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）について経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1. 自分が直接経験したことがある
2. 自分のまわりに経験した（している）人がいる
3. 一般的な知識として知っている
4. くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある
5. ドメスティック・バイオレンスに関するチラシやパンフレットなどを見たことがある
6. 全く知らない

問 26-1 この設問は、問 26 で「1. 自分が直接経験したことがある」「2. 自分のまわりに経験した（している）人がいる」と回答した方にのみおたずねします。

あなたは、経験したり、見聞きしたことを、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。

次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1. 警察に連絡・相談した
2. 男女共同参画推進センター“あいめっせ”、配偶者暴力相談支援センター、市役所に相談した
3. 家族や親戚に相談した
4. 友人や知人に相談した
5. 医療関係者（医師・看護師など）、福祉関係者（民生委員など）に相談した
6. その他
7. どこ（だれ）にも相談しなかった

男女共同参画に関する施策などについておたずねします。

問 27 次の男女共同参画に関する事項を、あなたはどの程度ご存知ですか。①から⑭のそれぞれについて（ア）～（ウ）の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

	（ア） 内容まで 知っている	（イ） 見聞きした ことはある	（ウ） 知らない
①男女共同参画社会	1	2	3
②男女共同参画社会基本法	1	2	3
③男女雇用機会均等法	1	2	3
④女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）	1	2	3
⑤育児・介護休業法	1	2	3
⑥配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）	1	2	3
⑦デートDV（恋人同士など結婚していない男女間での体、言葉、態度による暴力）	1	2	3
⑧ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	1	2	3
⑨ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）	1	2	3
⑩リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康/権利）	1	2	3
⑪ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3
⑫メディア・リテラシー（メディアからの情報を読み解く能力）	1	2	3
⑬姫路市男女共同参画プラン	1	2	3
⑭配偶者暴力相談支援センター	1	2	3

問 28 あなたは、姫路市男女共同参画推進センター“あいめっせ”をご存知ですか。また、利用したことがありますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. センターの事業内容を知っており、利用したことがある 2. センターの事業内容は知っているが、利用したことはない 3. センターの事業内容は知らないし、利用したこともない 4. センターの事業内容は知らないが、利用したことがある |
|---|

問 29 あなたは、男女共同参画社会を形成していくため、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

次の中から3つまで（1つでもよい）選んで番号に○をつけてください。

1. 女性の人権尊重のためあらゆる分野で性差別の解消をめざし、啓発活動を充実させる
2. 学校で男女平等意識を育てる教育を充実させる
3. 家庭生活、地域社会での男女の対等な関係づくりと活動への共同参画について啓発する
4. 労働の場における男女平等の徹底と、男女ともに家庭と仕事を両立できるような労働環境の整備を行う
5. 女性に対するあらゆる暴力の根絶・防止に向けた取組を強化する
6. 男女がともに子育てにかかわるための取組や、地域ぐるみで子育てを支援する施策を充実させる
7. 学習や活動、情報・ネットワークなどの拠点となる施設“あいめっせ”の事業を充実させる
8. 固定的な性別役割分担意識の払拭をはかるため啓発活動を充実させる
9. 地域で男女平等をすすめるための生涯学習の場や機会を増やす
10. 行政・企業・地域などあらゆる分野で女性の積極的登用をすすめるよう啓発する
11. 女性の就労の機会が増えるよう、職業訓練や職業教育を充実させるなど環境の整備をはかる
12. 女性性の保護や女性専門外来の設置など女性の心身の健康づくりや各種相談を充実させる
13. 高齢者や障害者に対する介護サービスを充実させ介護の社会化をはかるとともに、男女がともに介護にかかわるための基盤づくりをすすめる
14. わからない
15. その他

ご協力ありがとうございました。

男女共同参画に関する市民意識調査報告書

平成 28 年（2016 年）11 月

発 行 姫路市 市民局 市民参画部
男女共同参画推進課

〒670-0012

姫路市本町 68-290 イーグレひめじ 3 階

T E L (079) 287-0803

F A X (079) 287-0805
